

# 令和8年度 第26回高校生海外研修事業報告書 (タイ王国派遣)



派遣期間：令和8年7月18日(土)～25日(土)

協力：株式会社 ロクイチ HICity RACING  
FANUC Thai Ltd.

Thai-Nichi Institute of Technology  
YASKAWA ELECTRIC THAILAND CO., LTD.  
株式会社 キャリア・ナビゲーション

公益社団法人全国工業高等学校長協会  
国際化事業推進委員会

## 目 次

|      |                    |                  |
|------|--------------------|------------------|
| I    | はじめに               | 須田委員長 . . . . 1  |
| II   | 第 26 回高校生海外研修実施要項  | 事務局 . . . . . 2  |
| III  | 海外研修日程表            | 事務局 . . . . . 3  |
| IV   | 海外研修 結団式・事前研修・視察研修 | 事務局 . . . . . 4  |
| V    | 海外研修の概要            | 団長・引率者 . . . 6   |
| VI   | 参加生徒の報告            | 参加生徒 . . . . 19  |
| VII  | アンケート結果            | 事務局 . . . . . 73 |
| VIII | 結びに                | 事務局 . . . . . 92 |



FANUC Thai にて



YASKAWA ELECTRIC Thailand にて

## I はじめに

国際化事業推進委員会委員長  
第26回高校生海外研修団長 須田 孝之  
(神奈川県立磯子工業高等学校長)

公益社団法人全国工業高等学校長協会主催「第26回高校生海外研修」が7月18日（土）から7月25日（土）までの8日間の日程で実施されました。

この高校生海外研修は、「工業高校において国際感覚を身につける教育が求められる今日の社会状況に鑑み、工業教育の活性化を図るとともに、将来グローバル社会で活躍する人材を育成すること」を目的に行われています。この研修は、平成8年の文部科学省の支援によりアメリカ・ニューヨークに生徒・教員を派遣したことを起点にスタートし、合計22回実施され、オーストラリア、カナダ・アメリカ、ベトナム及びタイ王国などの国に延べ400名以上の生徒を派遣してまいりました。

研修先については、毎年、国際化事業推進委員会で検討され、令和2年度からは、派遣国をそれまでのベトナムから、日本との関係や安全面などを総合的に検討し、タイ王国に変更して今年度で4回目を迎えました。また、研修内容は、これまでの研修成果や課題を踏まえ、委員会で内容を再検討しました。参加生徒にとってグローバル社会を生きるための国際感覚を身につける必要性や積極的に参加できるよう体験型の研修を重視して、現地の大学生との交流、現地での授業体験及び施設見学、日系企業での見学と駐在員との交流、文化遺産・史跡の見学、国立博物館の見学等、海外からも日本を見直す機会となるよう魅力的な内容を盛り込んだ研修としました。

また、今年度も羽田空港周辺の会場で結団式や事前研修を行った後、国内企業が運営するHICity RACING（プロバイクチーム）等において、工業高校を卒業したバイクレースや整備士との交流と施設見学、町工場から金属加工・樹脂成型等を世界に広げることを目標とした企業スペースの見学等を採り入れ、さらに研修の充実を図りました。

研修先のタイ王国は、数多くの日本企業が進出しており、歴史的にも日本とのつながりは古く、親日的な国で治安も安定しています。近年では、日本をはじめ多くの諸外国と連携を積み重ね、目覚ましい経済発展を遂げ、活気あふれるタイ王国を肌で感じとることができた研修でした。

また、世界遺産であるアユタヤ遺跡の訪問は、教科書から学ぶことができない歴史を直に学ぶことができ、日本の歴史を見直す機会も与えられた研修となりました。バンコクでは、近代的な高層ビルを体感し、タイの伝統的な美しい装飾の建築寺院と比較することができ、タイ王国の魅力を十分に味わうことができました。

この報告書には、研修に参加した生徒たちが現地で経験し、多くを学び、感じ取ったことを素直な気持ちで表現してくれています。この報告書を見ていただいたすべての方々に、この研修に参加した生徒たちが研修で得られた何かを感じ取っていただければ幸いです。

最後に、本研修を実施するにあたり、ご尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。国際化事業推進委員会は、今後も「高校生海外研修」をはじめ、国際化事業の推進に一層努めてまいります。

## Ⅱ 第26回高校生海外研修実施要項

令和8年4月1日

### 第26回高校生海外研修実施要項

- 1 目 的 グローバル社会を迎え、工業高校においても国際感覚を身に付ける教育が求められている。このような社会状況に鑑み、本協会では工業教育の活性化を図る事業の一環として海外研修を実施する。
- 2 期 日 令和8年7月18日（土）～7月25日（土）の8日間
- 3 研修地 タイ王国
- 4 研修内容 現地学生との交流、学校見学、企業見学、文化遺産・史跡の見学等
- 5 宿 泊 ホテル（ジャスミングランデレジデンスホテル）
- 6 経 費
  - (1) 自己負担
    - ① 参加費 5万円
    - ② 全体集合・解散から自宅間の国内交通費、パスポート申請料、燃油サーチャージ、空港使用料、空港税、任意の海外保険等は自己負担とする。
  - (2) 補 助  
国際線の航空運賃及び現地の交通費、宿泊費、食費等は、全工協会が負担する。
- 7 参加条件：次の（１）～（３）をすべて満たす生徒
  - (1) 全工協会の会員校に在籍し、学業・人物ともに優秀で、所属校長と地区代表校長の推薦する2学年以上に在籍する生徒（同一校からの2名以上の推薦は不可）
  - (2) 他の海外研修等に参加した経験のない生徒（修学旅行を除く）
  - (3) 国際的な感覚を身に付け、今後の学校生活に意欲をもって取り組める生徒
- 8 留意事項
  - (1) 研修中の公式行事は、制服を着用すること。
  - (2) 参加者は帰国後、全工協会指定形式の報告書を提出すること。
- 9 参加人員 25名（生徒22名、引率3名）

**<9地区の生徒推薦枠>**

|                                       |
|---------------------------------------|
| 北海道1、東北3、関東4、北信越2、東海3、近畿3、中国2、四国1、九州3 |
|---------------------------------------|

引率は全工協会から委嘱する。
- 10 推薦手順
  - (1) 参加希望者は様式1「第26回高校生海外研修 参加申込書・推薦書」と様式2「第26回高校生海外研修 参加理由書」（A4 用紙800字程度）を所属校長へ提出する。
  - (2) 所属校長は提出された様式1「第26回高校生海外研修 参加申込書・推薦書」にある「推薦書」欄に記載のうえ、様式2「第26回高校生海外研修 参加理由書」とともに**令和8年5月8日(金)**までに地区代表校長へ提出する。
  - (3) 地区代表校長は、候補者を選考し、決定したうえで様式3「高校生海外研修参加者 地区推薦書」を作成し、提出された様式1「第26回高校生海外研修 参加申込書・推薦書」、様式2「第26回高校生海外研修 参加理由書」と合わせて**令和8年5月15日(金)**までに全工協会へ提出する。
  - (4) 様式1「第26回高校生海外研修 参加申込書・推薦書」と様式2「第26回高校生海外研修 参加理由書」、様式3「高校生海外研修参加者 地区推薦書」は、本協会ホームページからダウンロードする。
- 11 応募締切 **令和8年5月15日（金）厳守（消印有効）**

※ なお、派遣国の事情等により、計画が変更、中止になる場合もある。
- 12 応募書類提出先及び問合せ先  
公益社団法人全国工業高等学校長協会 事務局次長 江口 敏彦  
TEL 03-3261-1500 [eguchi@zenkoukyo.or.jp](mailto:eguchi@zenkoukyo.or.jp)

### Ⅲ 海外研修日程表

|   | 月/日  | 曜日 | 発着地・滞在地                                     | 現地時間                                              | 交通機関                    | 行動予定・宿泊                                                                                                                   | 食事                         |
|---|------|----|---------------------------------------------|---------------------------------------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 1 | 7/18 | 土  | 結団式会場着<br>(日本工学院専門学校蒲田キャンパス)                | 午 後                                               | 各 自                     | 前日(結団式会場) 集合<br>健康観察・結団式・事前研修<br>結団式後視察研修(電車移動)<br>視察研修後電車でホテルに移動<br>＜羽田空港近隣ホテル泊＞                                         | 夕食                         |
| 2 | 7/19 | 日  | 羽田ホテル発<br>羽田空港着<br>羽田空港発<br>バンコク空港着<br>ホテル着 | 07:15<br>07:40<br>10:40<br>15:10<br>19:30         | 無料送迎<br>JL-31 便<br>専用バス | 羽田空港第3ターミナルへ<br><br>出国手続き、バンコクへ<br>入国手続き<br><br>＜ホテル泊＞                                                                    | 朝食<br>昼食<br>(機内)<br><br>夕食 |
| 3 | 7/20 | 月  | ホテル発<br><br><br>ホテル着                        | 08:00<br><br><br>終 日                              | 専用バス                    | 【バンコク市内見学】<br>(渡し舟、ワットアルン、<br>ワットポー、王宮、ワットプラケオ、<br>ワットパクナム、アイコンサイアム<br>＜ホテル泊＞                                             | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食     |
| 4 | 7/21 | 火  | ホテル発<br><br><br>ホテル着                        | 07:00<br>09:20<br><br>14:30<br>20:00              | 専用バス                    | 【企業訪問】<br>FUNUC Thai Ltd.<br>説明、施設見学、意見交換会<br>【チャチュンサオ見学】<br>(ピンクガネーシャ) ＜ホテル泊＞                                            | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食     |
| 5 | 7/22 | 水  | ホテル発<br><br><br>ホテル着                        | 08:15<br>09:00<br><br>13:30<br>14:30<br><br>19:30 | 専用バス                    | 【大学訪問・交流】<br>泰日工業大学<br>授業参加・実習施設見学、<br>大学生との交流など<br>【バンコク市内見学】<br>国立博物館<br>＜ホテル泊＞                                         | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食     |
| 6 | 7/23 | 木  | ホテル発<br><br><br>ホテル着                        | 08:00<br>09:00<br><br>12:45<br>14:00<br><br>20:30 | 専用バス                    | 【企業訪問】<br>YASKAWA ELECTRIC<br>THAILAND CO.,LTD.<br>説明、施設見学、意見交換会<br>【アユタヤ見学】<br>日本人町跡、ワットマハタート、<br>ワットプラシーサンベット<br>＜ホテル泊＞ | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食     |
| 7 | 7/24 | 金  | ホテル発<br><br>バンコク<br><br>バンコク発               | 07:00<br>08:30<br><br>19:30<br>21:40              | 専用バス<br><br>JL-34 便     | 【バンコク市内見学】<br>(メークローン線路市場、<br>ダムヌンサドゥアク水上市場、<br>マハナコン スカイウォーク)<br>スワンナブーム空港着<br>出国手続き、羽田へ ＜機中泊＞                           | 朝食<br><br>昼食<br><br>夕食     |
| 8 | 7/25 | 土  | 羽田空港着                                       | 05:55                                             |                         | 帰国<br>入国手続き<br>解散式、解散                                                                                                     | 朝食<br>(機内)                 |

※時間や内容は、現地の状況等によって変更する場合があります。

※ 利用航空会社 日本航空(JL)

※ 時刻はすべて現地時間にて記載 タイ王国との時差は2時間

#### IV 海外研修 結団式・事前研修・視察研修

日 時：令和8年7月18日（土） 13：00～15：00

会 場：日本工学院専門学校蒲田キャンパス 3号館 1階多目的ルーム 1、2

結団式司会 江口 敏彦（全国工業高等学校長協会事務局次長）

写真撮影

##### <結団式>

- 1 開式の言葉 岩井 幸一（埼玉県立大宮科学技術高等学校長）
- 2 挨拶
  - （1）主催者 東 秀行（全国工業高等学校長協会理事長）
  - （2）団 長 須田 孝之（神奈川県立磯子工業高等学校長）
- 3 引率者紹介
  - （1）団 長 須田 孝之（神奈川県立磯子工業高等学校長）
  - （2）引 率 鈮持 幸来（神奈川県立磯子工業高等学校実習助手）  
湯澤 修一（全国工業高等学校長協会事務局長）
  - （3）添乗員 戸田由紀子（株式会社 J T B）
- 4 出席者紹介
- 5 参加生徒自己紹介
- 6 生徒宣誓 千葉県立市川工業高等学校 建築科 3年
- 7 閉式の言葉 塩崎 智之（東京都立足立工科高等学校長）

事前研修司会 江口 敏彦（全国工業高等学校長協会事務局次長）

##### <事前研修>

- 1 日程及びタイ王国の状況説明及び諸注意
- 2 海外研修報告書と海外研修アンケートについて
  - （1）海外研修報告書の提出について（別紙）
  - （2）海外研修日誌（ノートの記入方法と毎日の提出）
  - （3）海外研修アンケート（ORコード）
- 3 研修内容について
  - （1）研修全般について
  - （2）訪問先企業見学について
- 4 その他
  - （1）班長選出

(株) J T B 戸田 由紀子  
事務局次長 江口 敏彦



事務局長 湯澤 修一

##### <視察研修> 16：00～17：00

株式会社ロクイチ HICity RACING（プロバイクレースチーム）

所在地：〒144-0041

東京都大田区羽田空港 1-1-4 羽田イノベーションシティ

# <出席者>

- 1 参加生徒 22名（下表参照）及び保護者、関係者
- 2 理事長 東 秀行（大阪府立堺工科高等学校長）  
副理事長 加藤 満明（愛知県立愛知総合工科高等学校長）  
副理事長 中谷 竜也（大阪府立城東工科高等学校長）
- 3 国際化事業推進委員  
委員長 須田 孝之（神奈川県立磯子工業高等学校長・引率）  
委 員 岩井 幸一（埼玉県立大宮科学技術高等学校長）  
塩崎 智之（東京都立足立工科高等学校長）  
小林 正明（千葉県立清水高等学校長）
- 4 引率者 鋤持 幸来（神奈川県立磯子工業高等学校実習助手）
- 5 旅行会社 久下 裕（株式会社 J T B 営業担当課長）  
戸田由紀子（株式会社 J T B 添乗員）
- 6 事務局 湯澤 修一（全国工業高等学校長協会事務局長・引率）  
江口 敏彦（全国工業高等学校長協会事務局次長）  
草刈 廣直（全国工業高等学校長協会事務局次長）  
渡邊 隆（全国工業高等学校長協会事務局参与）  
楚山 真理（全国工業高等学校長協会事務局主事）

| 地区名 | 学 校 名              | 地区名 | 学 校 名             |
|-----|--------------------|-----|-------------------|
| 北海道 | 北海道<br>札幌工業高等学校    | 東 海 | 岐阜県立<br>岐南工業高等学校  |
| 東 北 | 岩手県立<br>宮古商工高等学校   | 東 海 | 三重県立<br>津工業高等学校   |
| 東 北 | 山形県立<br>山形工業高等学校   | 近 畿 | 京都府立<br>工業高等学校    |
| 東 北 | 福島県立<br>福島工業高等学校   | 近 畿 | 京都市立<br>京都工学院高等学校 |
| 関 東 | 千葉県立<br>市川工業高等学校   | 近 畿 | 大阪府立<br>都島工業高等学校  |
| 関 東 | 東京都立<br>総合工科高等学校   | 中 国 | 岡山県立<br>笠岡工業高等学校  |
| 関 東 | 神奈川県立<br>磯子工業高等学校  | 中 国 | 山口県立<br>下関工科高等学校  |
| 関 東 | 神奈川県立<br>神奈川工業高等学校 | 四 国 | 高知県立<br>高知工業高等学校  |
| 北信越 | 富山県立<br>高岡工芸高等学校   | 九 州 | 佐賀県立<br>鳥栖工業高等学校  |
| 北信越 | 金沢市立<br>工業高等学校     | 九 州 | 長崎県立<br>長崎工業高等学校  |
| 東 海 | 愛知県立<br>愛知総合工科高等学校 | 九 州 | 熊本県立<br>玉名工業高等学校  |

## V 海外研修の概要

### 第 26 回高校生海外研修実施報告概要 (タイ王国研修)

第 26 回高校生海外研修団長 須田 孝之  
神奈川県立磯子工業高等学校長

#### 1 はじめに

全国工業高等学校長協会が主催する「高校生海外研修」は、今年度で第 26 回を迎えた。研修先は台湾なども視野に入れ検討したが、昨年度に引き続き、親日国と知られ、安全性が高く日本との歴史的・経済的つながりも深いタイ王国にて実施した。タイ王国は、独自の伝統的文化や歴史的建造物が存在するだけでなく、数多くの日系企業が進出し、アジアにおけるものづくり・産業の拠点としての役割を果たしている。工業高校生が異文化に触れるとともに、最先端の技術や海外での産業振興を学ぶ海外研修先として教育的にも極めて有意義な地である。

今回の研修では、これまでの実施成果や反省点をふまえ、出発前および現地での指導体制に新たなアプローチを取り入れた。出発前に「研修目標の明確化」と「タイ王国の事前調査」および「国内事前研修」を徹底して実施した結果、生徒一人ひとりの研修に臨む意識が飛躍的に高まり、出国前から研修団としてのチーム全体の結束も強固なものとなった。各研修先では生徒から積極的な質問が相次ぎ、例年以上に実り多い海外研修となった。

#### 2 第 26 回高校生海外研修実施要項

##### (1) 研修期間 (8 日間)

令和 8 年 7 月 18 日(土) ～7 月 25 日(土)

##### (2) 研修地

○日本国内

(株) ロクイチ HICity RACING  
(プロバイクレースチーム)

○バンコク市内

ワット・アルン(暁の寺)、ワットポー、王宮 (外観)、ワット・プラケオ (エメラルド寺院)、ワット・パクナム、アイコン アイサム、国立博物館、FANUC Thailand Ltd.、泰日工業大学 Thai-Nichi Institute of Technology、安川電機タイランド、メークローン線路市場、ダムヌンサドゥアク水上市場、マハナ コン スカイウォーク

○アユタヤ市内

日本人町跡、ワット・マハタート・ワット・プラシーサンペット

##### (3) 宿泊地

○国内 東横イン羽田空港 2 (1 泊)

○バンコク市内

Jasmine Grande Residence (5 泊)

○機内 (1 泊)

##### (4) 参加費および補助

5 万円、自宅から羽田空港までの交通費、パスポート申請料、燃油サーチャージ、空港使用料、空港税、海外保険等は個人負担 (但し、航空運賃、宿泊費、食事等の経費は全工協会が負担)

#### 3 研修参加者の構成

参加生徒は 22 名、3 年 (男子 6 名、女子 4 名)、2 年 (男子 8 名、女子 4 名)、引率教員は、国際化事業推進委員長 須田孝之 (神奈川県立磯子工業高等学校校長)、釘持幸来 (神奈川県立磯子工業高等学校実習助手)、湯澤修一 (全国工業高等学校長協会事務局長) の 3 名が同行した。

#### 4 以前の研修との主な違い・改善点

##### 【本年度研修の 3 つの特徴】

- ① 出発前の研修目標の明確化： 事前指導において、生徒各自が「何を学び、持ち帰るか」という研修目標を明確に設定させてから参加させたため、研修全体に対する学習意欲と意識が格段に高まった。
- ② 出国前の国内事前研修の強化： 結団式及び出国前の国内研修プログラムを実施

したことで、出発時点で生徒間の団結力とグループワークの意識が向上した。

- ③主体的な研修・積極的な質疑応答：訪問研修先（企業・大学）のすべてにおいて、生徒から主体的かつ深い質問が活発に飛び交い、現地関係者からも高く評価される非常に有意義な研修となった。

## 5 活動内容

【1日目】7月18日(土)

結団式・国内事前研修

日本工学院専門学校蒲田キャンパスにて結団式を執り行った。全国から選抜された生徒たち22人が顔を合わせ、全工協会理事長挨拶、団長挨拶、生徒代表宣誓を行った。その後、本年度の重点取組のひとつである「国内事前研修」を実施した。全日程や研修目標の再確認、諸注意に加え、(株)ロクイチHICityRACINGで視察研修を行うことで研修団のチームビルディングを行った。出国前に全員が目標を共有し、互いに打ち解けたことで、強固な団結力が形成された。終了後、空港近くのホテルへ移動し前泊した。



事前研修後の羽田空港付近

【2日目】7月19日(日)

出国手続きで若干のトラブルがあったものの、羽田空港より機内へ乗り込み、バンコクへ向けて出発した。夕刻にバンコク・スワンナプーム国際空港に無事到着。現地ガイドと合流し、専用バスにて夕食会場へと向かった。夕食時には結団式・事前研

修で深まった団結力もあり、和気藹々とした雰囲気の中で現地での最初の食事を楽しんだ。

【3日目】7月20日(月)

3日目はバンコク市内の代表的な寺院を巡り、歴史や建築について学んだ。

渡し舟で川を渡り、川沿いに立つワット・アルンを見学したほか、巨大な涅槃仏で有名なワット・ポー、そして天井画が美しいワット・パクナムを訪れた。特に王宮敷地内にあるワット・プラケオ（エメラルド寺院）では、翡翠の一塊から削り出された本尊のエメラルド仏や、色ガラスのモザイクと金箔で埋め尽くされた壮麗な本堂をじっくりと見学した。

各見学先では、タイの寺院に見られる3つの建築様式やその見分け方を現地ガイドから教わった。生徒たちは単に見物するだけでなく、工業高校生ならではの視点で、重層屋根の構造や外壁の装飾技術、施工の精密さなどに興味津々な様子で観察していた。夕食時には、美しい伝統衣装を着たダンサーによるタイの伝統舞踊を観覧し、生徒達も一緒にダンスを楽しんだ。



王宮

【4日目】7月21日(火)

午前中はFANUC Thailand Ltd.を訪問し、2班に分かれて会社概要説明、工場、マシニングセンタ、産業用ロボット、保守部品倉庫を見学した。

生徒たちは人と共に作業する協働ロボットに高い関心を寄せて熱心に見入っていたほ

か、全種類の保守部品が完全にストックされている管理体制に大変驚いていた。質疑応答では、当初緊張から口数が少なかったものの、次第に緊張が解け、フィジカルAIに関する専門的な疑問や、高校生ならではの率直で鋭い質問を投げかける姿が見られた。また、ご用意いただいた昼食のお弁当も大変美味しく、一同大満足だった。

午後はワット・サマーン・ラッタナーラームへ移動し、巨大なピンクガネーシャを見学した。現地ガイドからネズミの像を通した独特の参拝方法を教わり、生徒たちはそれぞれ思いを込めて願い事をしていった。



FANUC Thailand Ltd.

#### 【5日目】7月22日(水)

午前中は泰日工業大学（TNI）を訪問した。TNIのオープニングセレモニーでは、生徒各自ができる限りの英語力で堂々とスピーチを披露した。その後の授業では「仮想マシン」について英語で学び、専門講義に圧倒されつつも、語学力に加え背景となる技術的知識の大切さを痛感した様子だった。

校内見学や交流セッション、美味しいタイ料理のランチを通じて学生と親交を深めた。現地で学ぶ日本人学生の参加もあり、海外留学を身近に感じる貴重な機会となった。

午後は国立博物館を訪れ、生徒たちはタイの歴史や時代ごとに異なる仏像の特徴を熱心に学んだ。特に館内に日本の仏像が多く展示されていたことには大変驚いていた。

研修も終盤を迎え、生徒たちからは「タイもあと2日だ」と名残を惜しむ声が聞かれ始めた。先端技術と異文化を肌で吸収し、大き

く視野を広げる一日となった。



泰日工業大学

#### 【6日目】7月23日(木)

安川電機タイランドへの企業視察と、世界遺産アユタヤの歴史見学を実施した。

午前中は安川電機を訪問し、会社概要やロボットの基本説明を受けた後、実機見学とロボットのティーチングの実習を体験した。専門分野以外の生徒も自らの手でロボットを動かすことで技術を身近に感じ、ショールームでの溶接実演にも強い興味を示していた。社員の方々が同郷の生徒に気さくに声をかけてくださるなど、温かく迎えていただいた。また、用意された美味しい昼食やおやつに喜ぶ生徒たちの笑顔も印象的だった。FANUCに続き、各社の特色や強みの違いを肌で感じる貴重な学びとなった。



安川電機でロボットのティーチング

午後はアユタヤへ移動し、日本町跡、ワット・マハタート、ワット・プラシーサンペットを見学した。生徒たちは教科書などで見た風景に歓声を上げつつ、日本とタイの歴史的な深いつながりやアユタヤ繁栄の背景を学んだ。これまでの見学の成果もあり、時代背景による仏像の表情の違いをしっかりと捉えて

いた。

初めてスコールにも見舞われたが、南国ならではの貴重な体験となり、学びの多い一日となった。



アユタヤ ワット・マハタート

#### 【7日目】7月24日(金)

現地最終日は、タイの庶民の日常と近代的な大都市の景観を体感する研修を実施した。

電車の到着時刻に合わせ、朝7時に宿を出発してメークローン線路市場へと向かった。活気ある市場の雰囲気を通じてタイの庶民的な暮らしに直接触れるとともに、列車通過に合わせて店主たちが一斉に商品や日よけを片付ける、テレビ等でおなじみの光景を間近で見学することができた。その後、ダムヌンサドゥアク水上市場を訪れ、買い物を楽しんだ。

午後はマハナコン・スカイウォークを訪れた。午前中の下町情緒とは打って変わり、タイで一番高い近代的な超高層ビルの屋上を体験した。足元に広がる大パノラマに圧倒されながら、生徒たちはバンコク全体を一望する素晴らしい景色を堪能した。

本日の研修を通じて、タイの歴史的な側面、近代的な側面、そして庶民的な側面の多様さを実感するとともに、現地の人々の温かさや優しさに触れることができた。

その後、名残を惜しみつつ空港へ移動し、深夜便にて帰国の途に就いた。

#### 【8日目】7月25日(土)

タイ・バンコクを出発した復路の航空便は、発生していた台風の影響によりフィリピン方面へと大きく迂回するルートをとった。

飛行中は多少の揺れを感じる場面もあり、予定よりやや遅れて朝6時30分頃に無事羽田空港へ到着した。

到着後は、生徒各自の地元へ戻るための国内線乗り継ぎ便や新幹線の出発時刻の関係を考慮し、空港内にて簡単に解散式を行った。

全国各地から選抜されて集まり、濃密な研修期間を共に過ごした仲間たちだけに、「次にいつ再会できるかわからない」とお互いに別れを惜しんでいる姿が大変印象的だった。長旅とフライトの後にもかかわらず、生徒たちにはあまり疲れた様子は見られなかった。全員が充実感と達成感に満ちた晴れやかな表情でそれぞれの帰路に就いた。

#### 6 おわりに

全日程を通じて大きな事故や体調不良を訴える生徒が一人も出ず、無事に全行程を終了できたことを何より嬉しく思う。

今年度からの新たな取り組みとして、出発前に生徒各自が研修目標を設定した。この事前指導が功を奏し、企業視察や大学での積極的な質問はもちろん、現地の方々や仲間へ自ら進んで声をかけるなど、極めて主体的な研修態度へとつながった。

全国から選抜された生徒たちだけに規律やマナーの意識が非常に高く、飛行機に乗るのが初めてという生徒が数名いたものの、行動面での不安は一切なく、終始安心して引率することができた。何より嬉しかったのは、これまで将来に「海外」という選択肢を持っていなかった生徒から、「留学も視野に入れて考えてみたい」という前向きな声が聞かれたことだ。また、街中や研修先で出会ったタイの人々は非常に温かく親切で、その優しさに触れたことも生徒たちの心を大きく開ききっかけとなったと思う。

多感な高校生という時期に、タイの地で異文化や人々の優しさに触れ、仲間と多様な経験を重ねたことは、彼らの人生において極めて有意義でかけがえのない財産になると確信している。

## 「全国の高校生と学ぶタイの工業力」

神奈川県立磯子工業高等学校  
引率 釧持 幸来

### 1 はじめに

私が初めてタイを訪れたのは2019年の夏。象に乗るために行った一人旅。言葉の壁にぶつかりながらも、タイの人々の優しさに触れ、もう一度訪れたいと思う国の一つであった。今回研修という形で、タイの地にまた訪れることができることを大変嬉しく思う。前回訪れることができなかった場所に加え、全国の工業高校生とともに、個人では訪れることができない企業や大学の訪問によって、自身の視野を広げることができる、貴重な経験であると考えている。

### 2 研修記録

#### ◆結団式 (7/18)

会場に到着すると多くの生徒が既に到着しており、緊張の面持ちでありながらも、隣の生徒と声を掛け合う様子が印象的であった。おそらく私の方が緊張していて「どのように声をかけようか、あの生徒にはこんな質問をしようか」と考えていたが、前日までの不安は吹き飛び、結団式が終わった頃には「なんとかやっていけそうだな」と期待の気持ちでいっぱいであった。

#### ◆羽田からタイへ (7/19)

見慣れた羽田であったが、生徒たちが写真をとっている様子を見て、生徒たちにとっての初めての経験は既に始まっているのだと感じた。緊張の入国検査であったが、生徒自ら対応を考え、入管での質問の答えを練習し、無事に通過することができた。初日は夕食のみであったが、生徒同士で食事の感想を言い合ったり、現地のスタッフに英語で声をかけたり進んで交流をしていた。現地のスタッフと腕相撲大会を始めた時は、生徒たちのコミュニケーション能力の高さにとても驚い

た。私も見習わないといけないと感じた。



#### ◆企業訪問

##### FANUC THAI (7/21) 安川電機 (7/23)

研修では、産業ロボットやFAに関わる業界において、世界的に有名な2社を訪問した。恥ずかしながら、工業に携わりながらも建築しか学んでいなかったのも、見聞きするものが全て初めてで、生徒よりも学ぶことがたくさんあった。漠然とロボットは電気や機械の分野のものと考えていたが、建築資材の製造や土木工事も担っていることを知り、実際にロボットが溶接を行うところを見ることができ、多くの学びを得ることができた。

FANUCでは、生産が終了している製品の部品の多くを保管しており、顧客への生涯サポートを行っていることが印象的で、たくさんの部品を保管する倉庫を見学させていただいた。安川電機では自動化技術に力を入れており、実際にロボットを操作し、触れさせてもらう経験ができた。



生徒たちは時間が足りないほど、積極的に質問していて、建設に携わる生徒も、自身の分野と関連づけて感想を綴っていたことに感心した。これを機に、生徒の進路選択に国際的な視点が加わると良いと思う。

#### ◆大学訪問 泰日工業大学 (7/22)

大学訪問では実際の授業に生徒が参加し、現地の学生たちと交流を行った。泰日工業大学は、日本のものづくりや経営、技術教育をカリキュラムに取り入れた、技術者・経営者を育成する学校であり、日本語を話せる学生も大変多く驚いた。授業中はこちらのサポートなく、生徒たちだけで参加をしたが、最後には連絡先を交換し、上手く交流できていた。お菓子を用意するなど日本の文化体験を通じてさらなる交流を図る予定であったが、時間の関係でお昼を一緒に取るだけになってしまった。しかし、生徒自ら学生たちにお土産を配り、自ら交流の機会を作っていた。タイに留学している日本人の学生の話も聞くことができ、私は海外留学の先として、タイはあまりイメージがなかったが、日本に近い環境や技術を学べるので、もし自分が生徒であったらタイへの留学も視野に入れたと感じた。生徒たちも英語をもっと勉強して、留学も考えたいと感想に書いていた。



#### ◆文化遺産見学

寺院やアユタヤは、前回の滞在でも訪れていたの、より建築的な視点で見学することができた。またガイドさんの説明を聞きながら、個人旅行では知ることのできなかった、歴史的背景などを感じながら見学ができた。初めて訪れた場所の中で特に印象的だったのは、王室寺院であるワット・パクナムである。壁から天井までのデザイン、そして鮮やかな色はとても美しく、ガラスで彫刻された仏塔は感動的であった。

最終日はタイを離れることを実感し、寂



しさも感じていたが、この日のすべての訪問先が、前回の滞在で行くことができなかった場所なので、とても楽しみにしていた。メークローン市場では、観光客の眼前を列車が通る様子が有名であるが、何より面白かったのはローカルな露天で、日本では見ることのない食材や、魚を捌く様子が見られたことである。また、列車が通るギリギリに素早く商品を下げるため、地面にレールが取り付けられ、陳列台が滑車で動かせるように工夫されていたことが発見であった。



水上市場では迫力ある船上体験ができた。観光客が多かったものの、こちらでもローカルな食べ物や露天を見ることができ、生徒たちも最終日ということで多くのお土産を手に入っていた。ローカルな雰囲気をとくさん感じたところで、最後に2018年にできた、マハナコンスカイウォークを訪れ、タイの最先端の建築、そしてバンコク全体を感じることができた。

#### 3 おわりに

研修を通して、タイの文化を体験することができただけでなく、全国各地の工業高校から参加した生徒たちと交流できたこ

とは、私にとって大きな経験であった。自校と違ったそれぞれの学校の特色や、地域の産業について話を聞くことができ、生徒自身の工業への向き合い方や学ぶ姿勢を知ることが、教える側としてとても有意義なものであった。

また、今回の研修は、建築についても自身が学ぶうえで大きな刺激となった。他国の要素を取り入れたものが多く見られ、その背景にタイがこれまで歩んできた歴史や、様々な国との関わりが感じられた。2019年に訪れたときよりも高層建築が増えており、タイの建築の変化を感じた一方で、日本に比べて不安定に感じる建築物も多く、他国の法規について学んでみたいと感じた。

今回出会った生徒たちが、研修を通して、これまでよりも広い視野を持ち、将来の進路や行動についてグローバルな視点から考えるようになってくれればと思う。研修の経験を胸にそれぞれの場所でさらなる経験を積み、将来の工業を支える人材となることを願っている。工業に携わっていればまた出会えるかもと、成長した姿で再び出会えることを楽しみに思う。

最後に、今回の研修を企画運営いただいた全国工業高等学校長協会をはじめとし、微力な私を支えていただいた団長・局長、滞りなく研修を企画進行して下さった添乗員の方々に心より感謝申し上げたい。また、生徒たちをこのような機会へ送り出してくださった保護者の皆様、交流してくれた生徒の皆さんにも深く感謝申し上げます。



～Memorial photo～  
7月18日結団式・事前研修  
日本工学院専門学校蒲田キャンパス



## 第 26 回高校生海外研修実施報告 (タイ王国研修)

公益社団法人全国工業高等学校長協会  
事務局長 湯澤 修一

### 1 はじめに

全国工業高等学校長協会が主催する「高校生海外研修」は今年度で第 26 回を迎えた。研修先については台湾なども候補として検討したが、昨年度に引き続き、親日国として知られ、安全性が高く、日本との歴史的・経済的つながりも深いタイ王国で実施した。タイ王国は、独自の伝統文化や歴史的建造物を有するだけでなく、数多くの日系企業が進出し、アジアにおけるものづくり・産業の拠点として重要な役割を果たしている。工業高校生が異文化に触れつつ、最先端技術や海外における産業振興を学ぶ研修地として、教育的にも極めて有意義な地域である。

今回の研修では、これまでの実施成果や課題を踏まえ、出発前および現地での指導体制に新たなアプローチを取り入れた。具体的には、生徒に対し「研修目標の明確化」と「タイ王国に関する事前調査」を目的とした研修目標等の提出を求めるとともに、研修初日に行われる全工協会主催の「国内事前研修」の充実を図った。

これらの取組により、生徒一人ひとりの研修に臨む意識が飛躍的に高まり、出国前から研修団としての結束が強化された。また、タイ王国での各研修先においては、生徒から積極的な質問が相次ぐなど、主体的で意欲的な活動へと繋がり、実り多い研修を実施することができた。以下に、活動内容を報告する。

### 2 国際化事業推進委員会の役割

国際化事業推進委員会は、産業の国際化に対応し、国際理解教育を推進するために設置された委員会である。生徒の海外研修を通じて国際的な視野や能力を育成することを目的としている。

委員の構成は、校長職 5 名程度、事務局長、事務局次長で構成される。なお、委員長は校長職の中から理事会が選任する。

主な業務内容は、国際理解教育の推進に関する事業計画の立案および普及活動である。

また、委員会の事業の一つとして、海外派遣研修事業の計画と実施を担っている。

今回の研修内容についても、推進委員会において検討が行われ活動内容が決定された。

主な意見として、これまでの実績や報告から、現地大学生との交流活動は非常に有意義な体験となるため、必ず実施してほしいとの要望があった。また、研修全体を充実させるため、事前研修の内容をさらに強化してほしいとの意見も寄せられた。

### 3 事前研修

令和 8 年 7 月 18 日（土）13 時より、日本工学院専門学校にて結団式および事前研修を実施した。その後、羽田イノベーションシティへ移動し、次の体験をした。

#### (1) ICXIL × HICity RACING Collab

モビリティ関連企業のイベントに参加し、本物のレーシングマシンを使用したメカニク体験と世界の第一線で活躍するプロライダー・岡谷雄太選手から、「プロとして活躍するとは何か」「夢に向かって努力し続けるとはどういうことか」など貴重な話を受講

#### (2) ㈱DOHO

金属素材・加工品・3D 金属造形を扱う総合サプライヤーにて、3D 金属造形に関する説明を受講

#### (3) ㈱エイム

地図と位置情報を活用して業務を最適化する仕組みである GIS ソリューションについて説明を受講

#### (4) 屋上での団欒

羽田空港を一望できるイノベーションシティの屋上で談話を楽しみながら足湯を体験

#### (5) 南国酒家 羽田店で夕食

団員全員で食事をとめることで会話ははずみ、互いに親睦を深めることができた。

## 4 研修内容

### (1)企業訪問

#### FANUC Thailand 様

FANUC Thailand は、日本の FA・ロボットメーカーであるファナックのタイ現地法人で、産業用ロボット、CNC、サーボモーターなどの販売・保守サービスを提供する拠点である。タイ国内の製造業向けに自動化ソリューションを展開し、導入支援、技術トレーニング、アフターサービスを行うことで、生産効率向上と工場の自動化を支援している。

#### 【目的】

- ・産業用ロボットについて理解を深める。
- ・職員の方との意見交換を通じて、海外勤務についてさまざまなことを教えていただく。

#### 【研修内容】

FANUC 本社の紹介ビデオと FANUC Thailand の会社概要の説明を受けた。その後、展示ルームにて、FANUC の三本柱である FA、ロボット、ロボマシンの説明を受けた。工業高校の実習では、FANUC 製 CNC を搭載した加工機が多く使用されていること、ロボットには 6 軸ロボットや協働ロボットなど多様な種類があり、それぞれの性能や特徴について理解を深めた。また、近い将来ロボット自身が判断して動作する「フィジカル AI」の実現に向けて取り組んでいることを理解した。

さらに、保守部品倉庫にて、FANUC は創業以来、製品を使用する限り継続して保守サービスを提供する「生涯保守」を実施し、現場の高い稼働率維持に貢献していることを理解した。

最後に、山本所長、従業員の方を交え、会社の概要についてと海外勤務についてなどの意見交換を行った。

お昼にご提供いただいた「ガパオライス」と飲み物は、生徒たちから「とても美味しかった」と大好評であった。



#### YASKAWA Thailand 様

YASKAWA Electric (Thailand) Co.,Ltd. は、産業用ロボット、サーボモータ、インバータなどを提供する安川電機のタイ現地法人で、2004 年に設立された。バンコク本社とチョンブリーのサービスセンターを拠点に、製造業向けの自動化ソリューション、技術サポート、保守サービスを展開している。

溶接・搬送・組立ロボットやモーションコントロール機器、生産ライン向けシステムエンジニアリングを提供し、地域密着型の迅速なサポート体制でタイの製造業の生産性向上に貢献している。

#### 【目的】

- ・産業用ロボットについて理解を深める。
- ・職員の方との意見交換を通じて、海外勤務についてさまざまなことを教えていただく。

#### 【研修内容】

全体研修では、ロボティクスソリューションの概要およびロボットの安全教育（留意点）について説明を受けた。

その後、参加者は 3 班に分かれて行動し、A コースは、**Robotics Training Zone** (2F) にてロボット操作（ティーチング）実習、B コースは人協働 **Robotics Zone** (1F) にてロボット操作（ティーチング）実習、C コースは **Robotics Zone** (1F) にて溶接（アークスポット）実演の見学を行った。

短い時間ではあったが、ロボットの教示操作などが体験でき、大変好評を得た。

お昼に提供いただいた「ガパオライス」と大量のお菓子は、生徒たちから大変好評であった。また、多くの現地スタッフの方々が生徒たちと交流してくださり、非常に有意義な時間が持てた。生徒たちの笑い声や笑顔がとても印象的であった。



## (2) 大学学生との交流活動

### 【概要】

泰日工業大学(TNI)は、タイ・バンコクに2007年に開学した日本型ものづくり教育が特色の私立工業大学である。母体である泰日技術振興協会が長年培ってきた日本式生産管理や技術教育を基盤とし、工学・情報学・経営学の各分野で実践的な産業人材を育成している。日本語・英語教育を重視し、全学生が企業での長期インターンシップを経験する点が特徴で、卒業生の約4割が日系企業へ就職している。近年は国際学院(TNIC)を設置し英語による国際プログラムを拡充するなど、グローバル人材育成にも力を入れている。

### 【目的】

国際学院(TNIC)の学生との交流を図る。

### 【報告】

#### ① Welcome to TNI (セレモニー)

・コンキットヴォラプッタポン副学長挨拶  
副学長は日本滞在経験があり、流暢な日本語で歓迎の言葉と学校の概要説明を行った。

その挨拶の中で、高校生に対し「日本から見る日本とタイ王国から見る日本は違う」と述べ、日本では当たり前すぎて気づかないことが、タイでは大きな魅力として受け止められている例を挙げながら、タイ王国での滞在を通じて自国の良さに気付いてほしいというメッセージがとても印象的であった。

#### ② 「Computer Programing」授業見学

大学生とペアを組み、コンピュータ室で行われた授業に参加した。生徒は当初、英語で進行する授業に戸惑う様子が見られたが、大学生が生徒の理解に合わせて説明したり、片言の日本語を交えてコミュニケーションを取ったりするなどの配慮があり、生徒は楽しそうに授業へ参加していた。

#### ③ 昼食

大学生とともに美味しいタイ料理のランチを取り、交流を深めた。

#### ④ 施設見学

図書館やトヨタ式生産方式を導入した実習施設などを見学した。

## (3) 遺跡・文化

国際化推進事業委員会への報告にあたり、これまで訪問したことのない見学施設を中心に記述することとする。

### ◇Wat Paknam Phasicharoen

ワット・パークナムは、バンコク旧市街西側のパーシーチャルーン地区に位置する歴史ある仏教寺院であり、アユタヤ王朝時代に建立された王室寺院である。近年、巨大な黄金の大仏像や、大仏塔5階に設置された緑色に輝くガラス製の仏塔、その周囲を彩る天井画が広く知られ、写真映えするスポットとして世界的な人気を集めている。なお、千葉県成田市には、同寺院の教えを伝えるワット・パークナム日本別院がある。

初めて見学した大仏塔5階にあるエメラルドグリーンガラス製の仏塔は光の反射で輝き、宇宙を思わせる幻想的な雰囲気があり、仏塔の周囲を囲む天井画は色彩が鮮やかで思わず見上げて立ち尽くすほどの迫力があつた。また、観光地でありながら寺院としての静けさが保たれており、心が落ち着き長く滞在したくなる寺院であった。

### ◇Wat Saman Rattanaram

ワット・サマーン・ラッタナーラームは、バンコクから車で約1時間半のチャチュンサオ県に位置する寺院であり、高さ24メートル・幅16メートルの巨大なピンク色のガネーシャ像で広く知られている。2011年に一般参拝を目的として建立され、祈願成就までのスピードが速いご利益寺としてタイ国内外で人気を集めてきた。ガネーシャ像の周囲には合計14匹のネズミ像が配置されており、誕生日の曜日に対応した色のネズミに願い事を囁くことでネズミが祈願者に代わってガネーシャへ願いを届けるとされている。初めて見学して、ピンク色のガネーシャ像の迫力とユニークな祈願方法が印象的であり、訪れる価値の高い寺院であると感じた。



#### ◇Bangkok National Museum

バンコク国立博物館は、バンコク・プラナコーン区に位置し、旧王宮の一部を利用して1926年に創設された歴史的背景を持つ、タイ最大規模の博物館である。タイ文化省芸術局の国立博物館部によって運営され、国内の考古学遺物、美術品、民俗資料などを収集・保存・研究し、その成果を広く公開することを目的とした施設である。展示内容は先史時代から現代に至るまでの多様な文化遺産を含み王室ゆかりの品々、仏教美術、古代遺物など、タイの文化的アイデンティティを象徴する資料が豊富に収蔵されている。



今回の訪問は2度目であるがタイの歴史・文化・芸術を体系的に理解できる場として極めて有意義であり、タイ王国を研修の目的で訪れている以上、可能であれば研修の早い段階で見学し、タイ王国への理解を深めるべき施設であると強く感じた。



#### ◇Maeklong Railway Market

メークローン線路市場は、タイ・サムットソクラーム県に位置する、鉄道と市場が共存する世界的にも珍しい市場である。市場の中央をメークローン線の列車が通過する構造となっており、列車が近づくと商人たちが日よけや商品棚を素早く引き上げ、列車通過後に再び元の状態へ戻す独特の光景が見られる。市場では魚介類、野菜、果物、調味料など、地元住民の生活を支える生鮮食品が中心に並び、観光地でありながら生活市場としての機能を保っている。

列車が市場をゆっくりと進む際、観光客は数十センチの距離で列車と商人の動きを目の当たりにすることができ、日常と非日常が交差する特異な空間として高い人気を集めている。タイの生活文化、交通、都市計画の観点からも興味深い事例であり、訪問者に強い印象を与える市場である。

ここも初めての見学であり、市場の中央を列車が通過するという独特の光景に強い驚きを覚えた。列車が近づくと商人たちが一斉に日よけや商品棚を素早く引き上げ、列車通過後には何事もなかったかのように元の状態へ戻す一連の動作は、生活の知恵として長く受け継がれてきた文化であると感じられた。

なお、安全面での注意事項としては、列車と接触しないよう十分に距離を保つこと、列車が来ない時間帯であっても線路上に立ち入らないこと、商人が日よけや商品棚を引き上げる際の動作を妨げないこと、そして床が濡れて滑りやすい場所があるため足元に注意することが挙げられる。

また、添乗員から受けたアドバイスには、見学の機会を確保するには、メークローン線は1日に数本しか市場内を通過しないため、列車の通過時刻を事前に確認すること、列車通過前後は観光客が集中することから、混雑時間帯を避けること、安全のため写真撮影に集中しすぎないこと、事前に市場の営業状況を確認すること、商人の動作を妨げないことなどがあった。

#### ◇Mahanakhon SkyWalk Observation Deck

マハナコーン・スカイウォーク展望台は、バンコクで最も高い建物であるキングパワー・マハナコーン(高さ314m)の最上階に設置された展望施設であり、バンコク市内を360度のパノラマで見渡すことができる観光名所である。屋内展望フロアは74階に位置し、冷房の効いた快適な空間で市街地やチャオプラヤー川の景観を楽しむことができる。さらに、地上310メートルに設けられたガラス張りのスカイウォークでは、足元が透明なガラス床となっており、まるで空中に立っているかのようなスリルを体験できる点が特徴である。屋外の360度展望デッキからは、昼間の市街地の広がり、夕焼けに染まるバンコクの街並み、そして夜景へと移り変わる壮大な景色を一望できる。

屋内展望フロアから眺める景色は非常にクリアであり、市街地の広がりを一望できる点がとても印象的であった。また、これまでバンコク市内研修で訪れた寺院などの位置を確認することもできた。さらに、ガラス張りのスカイウォークでは、足元が透けて見える構造により、まるで空中に立っているかのような感覚を味わうことができ、ほかでは体験できない強いスリルを感じる非常に価値の高い体験であった。

なお、タイ王国の文化遺産・史跡については、これまでに述べた見学先のほかに、1日目に見学したバンコクを代表する寺院であるワット・アルン、ワット・ポー、王宮およびワット・プラケオ(エメラルド寺院)、さらに6日目に訪問したアユタヤ県の日本町跡、ワット・マハタート、ワット・プラシーサンペット、7日目に体験したダムヌンサドゥアク水上市場などがある。これらの見学を通して、タイ王国の歴史的背景や建築様式の特徴、さらには人々の生活文化や価値観について多角的に学ぶことができた。これらの内容については、団長をはじめ参加者の報告に詳しく記述されていることから、本報告では重複を避けるため省略する。

#### 5 タイ王国での工業高校生の活動

報告書の本題からは少し趣旨が離れるが、この後に開催される国際化事業推進委員会に提案したい内容について簡単に述べたい。

海外研修先であるタイ王国をはじめ、アジア諸国を中心に多くの地域で受け入れられている福祉支援活動(奉仕活動)の一つとして「空飛ぶ車いすプロジェクト」がある。

この活動は、栃木県立栃木工業高等学校が1991年から実施している「タイボランティア活動」の特徴ある取り組みの一つとして1993年に開始されたものである。現在では全国の多くの工業高校が参画し、車いすの修理ボランティアに参加している。寄付された車いすの多くは、タイ王国の病院や施設等で活用されている。

このタイ王国での研修内容の一つとして、これらの病院や施設を訪問して、これまでの活動の成果を視察することも有意義な研修になると考える。現地で車いすがどのように活用され、地域の人々の生活支援にどのように寄与しているのかを確認することは、生徒にとって社会貢献の意義を実感する貴重な機会となるため、今後の研修計画の中に積極的に提案していきたい。

#### 【参考まで】

#### ◇Flying Wheelchair Project

空飛ぶ車いすプロジェクトとは、日本国内で使用されなくなった車いすを整備し、海外の必要とする地域へ届ける福祉支援活動である。公益財団法人日本社会福祉弘済会が中心となり、企業・学校・ボランティア団体などと連携して実施されている取組であり、車いすの再生と国際福祉支援を同時に実現する点に特徴がある。

寄贈される車いすは、専門スタッフやボランティアによって安全性を確保するために丁寧に点検・修理され、現地でそのまま使用できる状態に整えられる。こうした活動は、福祉機器の再活用を促進するとともに、車いすを必要とする人々の生活の質を向上させる役割を果たしている。

また、プロジェクトは国際協力の一環として位置づけられ、アジア諸国を中心に多くの地域で受け入れられている。参加者にとっては、福祉の実践を通じて国際理解を深める機会となり、社会貢献活動として高い意義を有している。

令和7年度「空飛ぶ車いす」フライト状況  
(令和7年度〔4月～3月〕)はこちらをご覧ください。

<https://www.nisshasai.jp/soratobu/soraisutoha/R07.html>

なお、令和7年度、修理ボランティアに関わった工業高校は以下のとおりである。

◇修理ボランティア修理実施校(順不同)

岩手県立黒沢尻工業高等学校  
岩手県立千厩高等学校  
岩手県立水沢工業高等学校  
岩手県立盛岡工業高等学校  
秋田県立秋田工業高等学校  
秋田県立大曲工業高等学校  
秋田県立湯沢翔北高等学校  
秋田県立横手清陵学院  
新潟県立新津工業高等学校  
栃木県立栃木工業高等学校  
東京都立世田谷泉高等学校  
東京都立葛飾ろう学校  
大森学園高等学校  
静岡県立掛川工業高等学校  
愛知享栄学園享栄高等学校  
名古屋工業大学名古屋工業高等学校  
滋賀県立瀬田工業高等学校  
神戸市立科学技術高等学校  
兵庫県立相生産業高等学校  
山口県立岩国工業高等学校  
福岡県立浮羽工業高等学校  
熊本県立熊本工業高等学校



タイ高専生と一緒に修理活動

## 6 おわりに

高校生海外研修の派遣先をタイ王国に変更して4年目となった。海外研修事後アンケートの結果や引率者総括会議での報告等から、事前研修および研修内容が毎年改善され、研修の充実度が着実に高まってきていることが確認できた。

これらは、研修全体を検討していただいている国際化事業推進委員会の皆様ならびにこれまでお世話になった旅行業者3社の皆様によるご検討とご尽力の賜物である。

特に、今年度から新たに導入した「研修前に参加生徒へ研修目標を立てさせる取組」は大きな効果を上げた。生徒が自ら目標を設定したことで研修内容を自分事として捉え、学習への主体性が高まったこと、行動目標が明確になり具体的な行動変化が生じやすくなったこと、さらに自分でまとめた目標を研修中も意識し続けたことで研修意欲と責任感が向上したことが、研修中に記録する研修ノートから、また、毎日、さわやかな笑顔と意欲に満ちた顔で研修に参加してくれた生徒たちから強く読み取れた。

事前研修では、生徒に対し「高校生海外研修は、研修前(目標設定)、研修中、研修後(写真等による振り返り)の三段階で楽しみながら学んでほしい」と伝えたが、事後アンケートや生徒の報告書を拝読し、生徒たちにとって非常に有意義な研修となったことを確認できた。全日程を通じて事故や体調不良を訴える生徒は一人もおらず無事に研修を終了できたことに安堵している。

最後に、各地域から選抜をしていただいた各地区の校長先生方、国際化事業推進委員会の皆様、現地で充実した研修を実施いただいたFANUC Thailand様、泰日工業大学様、YASKAWA Thailand様、安全管理・現地調整などをしていただいたJTB様、アドバイスと支援をしていただいた㈱キャリア・ナビゲーション様、㈱イクシル様、生徒との連絡調整をしてくれた校長先生と担当者様に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

## VI 参加生徒の報告

### 海外研修に参加して

北海道札幌工業高等学校  
建築科 3年

#### 1 研修目標

- (1) 国際交流を通して、コミュニケーション力や人間力を高める。
- (2) 建築技術をはじめとした日本の技術が、どのように活用され役割を果たしているのかを学ぶ。
- (3) 急速に発展するバンコクの近代建築と歴史的な寺院が隣り合わせで存在する街並みを体験し、都市開発と文化保存のバランスについての考察を深める。

#### 2 学校見学

大学訪問では、泰日工業大学（TNI）を訪れました。最初はとても緊張していましたが、日本語で温かく迎えていただき、すぐに安心することができました。校内には鳥居があり、着物を着ている学生の姿も見られ、日本文化を身近に感じられる環境であることに驚きました。

この大学では、日本語や日本文化について学ぶことができます。他国の文化に触れることで、国によって考え方や感じ方が異なることを学び、それらの多様な価値観は、ものづくりにも生かせるのではないかと感じました。

図書館には多くの日本の漫画や書籍が並んでおり、日本の文化がタイでも親しまれていることを、日本人として誇らしく思いました。また、安倍元首相が寄贈した書籍もあり、日本とタイの交流の深さを実感しました。

特に印象に残ったのは、学長がお話しされた「日本から見る日本と、タイから見る日本は違う」という言葉です。日本では当たり前だと思っていることが、タイでは魅力として受け止められていることを知り、自分たちが

気付いていない日本の良さがあることに気付きました。

さらに、大学には北海道出身の日本人学生も在学しており、地元に近い地域から世界へ挑戦している人がいることに驚くとともに、私も世界で活躍できる人になりたいと思いました。

今回の交流を通して、国際交流では語学力だけでなく、自分の国について理解していることも大切だと学びました。日本文化やアニメについて詳しい学生が多く、共通の話題をつくるためにも、自国を知ることの重要性を実感しました。

半日という短い時間でしたが、とても充実した貴重な時間となりました。

#### 3 企業見学

企業訪問では、FANUC THAI LIMITED と Yaskawa Thailand を訪問しました。

FANUCは山梨県に本社を置き、工場の自動化（FA）を中心とした事業を展開する企業です。会社の方から、「お客様とのコミュニケーションを大切にすること」が企業理念の一つであると教えていただきました。製品が故障した際には迅速に対応することで、お客様との信頼関係を築いていることを知りました。

また、1977年に最初のロボットが製造され、2017年には累計50万台、2023年8月には100万台を突破したという説明を聞きました。この実績は、お客様との信頼を積み重ねてきた結果であり、大きな目標を達成するためには日頃の小さな積み重ねが大切だと感じました。

さらに、安全性への配慮にも驚きました。人がロボットに触れると瞬時に停止する仕組みや、ビジョンセンサを活用した精密な作業を見学し、ロボットの技術の高さを実感しました。

私は当初、「細かな作業は人にしかできない」と思っていました。しかし、ロボットにも高い精度で作業できる技術があることを知り、人間とAI・ロボットがそれぞれの得意

分野を生かして協力することで、より良いものづくりができると感じました。

Yaskawa Thailandは福岡県に本社を置く安川電機のグループ会社で、産業用ロボットを中心とした事業を展開しています。ロボットは溶接や塗装、組立、部品搬送など、さまざまな工程で活用されていました。

説明の中で、女性社員が多く活躍していることも印象に残りました。工業分野では女性が少ないというイメージを持っていましたが、海外では多くの女性が第一線で活躍しており、とても励みになりました。

品質管理では、「人を育てること」が重要であり、社員一人一人の能力や成長を支えることが品質向上につながると学びました。技術が進歩しても、ものづくりの出発点は人であり、人に求められる技術や判断力は変わらないと感じました。

アーク溶接の見学では、1ミリの違いが製品の品質を左右することを知りました。ロボットが繰り返し作業を担う一方で、基準となる位置決めや最終的な調整は熟練した技術者が行っており、人とロボットが協力して高品質な製品を生み出していることを学びました。

今回の企業訪問を通して、安全への意識や危険を予測する力、人が適切に判断することの重要性を学ぶことができました。



溶接ロボット



アーク溶接したもの

#### 4 現場見学

現場見学では、寺院や王宮、アユタヤ遺跡、近代的高層ビルなどを見学しました。

特に印象に残ったのは、キングパワー・マハナコーンです。高さ314メートル、78階建て

のタイで2番目に高い超高層ビルで、ブロック状に削り取られたような特徴的な外観が印象的でした。上層階にはガラス張りの床を歩くことができる「マハナコーン・スカイウォーク」があり、多くの観光客でにぎわっていました。

私は、タイには寺院が多いという印象を持っていましたが、実際には都市開発が進み、高層ビルが数多く建ち並んでいることに驚きました。展望台から見下ろすと、高層ビルの間に寺院や高床式住居が点在しており、近代的な都市と伝統文化が共存する景色がとても印象的でした。

また、タイは国民の約9割が仏教徒であり、寺院が人々の生活に深く根付いていることも学びました。

さらに、高温多湿な気候に対応するため、風通しを良くする建築の工夫が随所に見られました。歴史や気候と建築との関係を学び、今後の建築の学びにも生かしていきたいと思いました。

#### 5 研修成果

私は今回の研修で、国際交流を通してコミュニケーション力や人間力を高めること、日本の技術がタイでどのように活用されているのかを学ぶことを目標として参加しました。

大学訪問や現地の方々との交流では、国境を越えたコミュニケーションを経験することができました。初めてのことでばかりの一週間でしたが、多くの挑戦を通して人間力を高めることができたと感じています。

また、タイで活躍する日本企業を訪問し、日本の技術力の高さを実感しました。安全性や効率性、精密なものづくりの技術がタイの産業を支えていることを学び、日本の技術が世界で高く評価されていることを知ることができました。

#### 6 感想

今回の研修を通して、私は大きく成長する

ことができたと感じています。

私は今年、「挑戦する一年にする」という目標を掲げていました。その中で海外研修の募集を知り、自分にぴったりの機会だと思って参加を決めました。

出発当日は、一人で飛行機に乗ることや初めての海外に不安もありましたが、それ以上に期待で胸がいっぱいでした。全国各地から集まった仲間との出会いも、とても刺激的でした。

タイでは、日本では見ることのできない景色や文化を数多く体験しました。電線が複雑に張り巡らされた街並みや交通事情、食文化など、すべてが新鮮で印象に残っています。

また、日本では地震の影響で見る機会が少ない歴史ある寺院や遺跡が美しく残されていることにも感動しました。タイの歴史を学ぶ中で、徳川家康をはじめとする日本の歴史ともつながりがあることを知り、世界の歴史は互いに結び付いていることを実感しました。

さらに、タイの人々や全国の仲間と交流する中で、自分は日本や北海道についてまだ知らないことが多いと気付きました。これから社会に出て多くの人と関わるためにも、自分の住む地域についてもっと学びたいと思いました。

今回の研修では、多くの仲間と挑戦を重ね、深い絆を築くことができました。将来、一緒に仕事がしたいと思える仲間にも出会えたことは、大きな財産です。

一週間という短いようで長い研修でしたが、ここで学んだことを今後の学校生活や将来の仕事に生かしていきたいと思います。このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



～Memorial photo～  
7月18日視察研修  
羽田イノベーションシティ  
(株)ロクイチHICity RACING



## 海外研修に参加して

### 研修で得た知識と、タイと日本の繋がり

岩手県立宮古商工高等学校  
電気システム科3年

#### 1 研修目標

現地の方と積極的にコミュニケーションをとり、表現力や積極性を高め、視野を広げて将来を考える。

#### 2 学校見学

泰日工業大学の訪問では、初めに大学についての紹介ビデオを見ました。映像の中で、着物を着てお茶をたてたり、習字をしたりする姿などが見られ、様々な日本文化が取り入れられていることを知ることができました。私たちも実際に授業を見学させていただいたのですが、英語を理解するのが難しく、授業を受けていた生徒さんとあまり満足いく会話ができなくて、もう少し英語を勉強しておけば良かったなと少し後悔しました。また、校内の図書館には日本の漫画がたくさん置いてあり、そこにも日本との繋がりを感じることができました。最後は、私がホテルで折ってきた羽が動くドラゴンを生徒さんにプレゼントすることができ、実際に羽を動かして遊んでくれていたのでとても嬉しかったです。

#### 3 企業見学

ファナックタイでは、保守部品倉庫の見学が一番印象に残っており、膨大な量の部品を管理していることにとても驚きました。また、会社説明の中で、連絡を受けたらタイ全土どこでも駆けつけるということを知り、すごいなと思いました。また、会社が地域から信頼されている理由であると思いました。

安川電機では会社説明の後に実際に体験を交えながら見学をしました。見学の中で、ロボットは危険が伴う作業を人の代わりに行うことができ、人的ミスが生じる作業もロボットが行うことによって長く作業でき、人手不足解消にもつながることを知ることができました。しかし、ロボットには大きなメリットがありながら、活用するためのルールや対策を確実にすることが必要だと学びました。

#### 4 現地見学

現地見学ではタイの有名な寺院などの見学を通してタイの様々な文化や歴史を知ることができました。特に、アユタヤ見学でタイの歴史について一番体感することができました。私はアユタヤ遺跡の見学でほとんどの仏像の頭がなかったのが印象的で、日本では考えられない光景だと思いました。それとは対照に木の中に埋まっている仏頭もとても印象的で、自然の力はすごいなと思ったのと同時に、長い年月をかけて仏頭が木の中に埋まったのを考えると、とても神秘的だなと感じました。



アユタヤ遺跡

また、ピンクガネーシャもその場で見ると迫力があり、とても思い出のある場所となりました。私の生まれた火曜日の色はピンクだったので、ピンク色のネズミをお願いごとを

話し、ガネーシャに届けてもらいました。



ピンクガネーシャ

現地見学はもちろん、バスで移動中もいろいろな発見がありました。一番印象的だったのは街の電柱や電線で、電柱が四角型で、がいしの色や配線の仕方が日本とは異なっていて、とても勉強になりました。そして、街のいろいろなところに国旗や王様の写真があって愛国心が強いことを体感することができました。

## 5 研修成果

私が現地の方とコミュニケーションをとる場面が特に多かったのはショッピングの場面でした。最初は表現力に自信がなく、上手く会話できるか不安でしたが、私が拙い英語で話しかけても笑顔で接客してくださり、安心してコミュニケーションをとることができるようになりました。そのことがきっかけとなり、自分から積極的に現地の方に話しかけられるようになりました。また、研修中、どこに行っても笑顔で迎えてくれる現地の方を見て、タイの「微笑みの国」を体感しました。

研修を通して、自分の伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるための表現力も身についたと思います。ホテルに泊まった最後の日にホテルのエレベーターで外国の方に声をかけられたとき、自分が伝えたいことを上

手く伝えることができ、とてもうれしかったのを覚えています。また、日本とは違う文化や生活習慣を実際に体験して、外国の文化や人々への興味がさらに深まり、もっといろいろな国へ行ってみたいとを感じるようになりました。

## 6 感想

今回の研修は私の高校生活において最も思い出に残る経験となりました。私は海外に行くのも、飛行機に乗るのも初めてで最初は不安なことも多かったけれど、それ以上に得た知識や経験が大きく、とても充実した研修になりました。タイでの食事は、私が日本であまり食べない辛い料理が多く出ましたが、友達がチャレンジして食べている姿を見て、私も一口は食べるよう心掛けてみると辛くてもおいしいものがたくさんあり、食わず嫌いは良くないことを、身をもって体感しました。また、研修を通してたくさんの友達ができ、たくさんの思い出をつくることができました。研修が終わりに近づくにつれて寂しいと思うようになり、友達との別れはとても悲しかったのですが、また会いたいと思える仲間ができたことも私の研修成果です。

そして、引率していただいた先生方や添乗員さん、現地のガイドさん、皆さんとても優しく、様々なことを教えていただき、安心して一週間を過ごすことができました。ありがとうございました。この研修に携わってくださったすべての方に感謝し、この経験が無駄にせず、自分の将来に活かせるように努めていきたいと思います。

最後に、このような貴重な経験をさせていただける場を作っていただいた全国工業高等学校長協会の皆様、本当にありがとうございました。

## Be Hungry, Be Foolish!

山形県立山形工業高等学校  
情報技術科 3 年

### 1 研修目標

今回の研修には、主に 2 つの目標がありました。1 つ目は、日系企業がなぜタイに根付いているのか、そして各企業の戦略や工夫を理解することです。2 つ目は、「グローバル力」を身に付けることです。多様な考え方を持つ人々と関わるためには、それらを受け入れる柔軟性が必要だと考え、この目標を設定しました。

### 2 学校見学

学校見学では、泰日工業大学および泰日国際学院を訪問しました。最初に大学の取り組みや教育方針について、英語で説明を受けました。私は英語が得意な方ですが、現地のアクセントが強く、一部聞き逃してしまう場面もありました。事前学習で日本との関わりが深いことは知っていましたが、実際に訪問すると想像以上の深さでした。特に印象的だったのは、日本語を流暢に話す学生が多い点でした。日系人の学生をはじめ、日本語での会話が円滑に成り立ち、すぐに仲を深めることができました。交流した学生の中には、何度も訪日経験がある人もいました。また、大学側も日本への留学を推進するプログラムを用意しているほか、日本語教育や日本式の「ものづくり」の精神、さらには日本文化の体験機会まで提供していました。図書室には多くの日本語の書籍が並び、売店では日本語能力試験の参考書が販売されているなど、異文化交流を活性化させるには文化教育が不可欠であることを強く実感しました。

### 3 企業見学

企業見学では、FANUC THAI LIMITED と安川電機を訪問しました。両社ともロボット業界をリードするグローバル企業です。タイで

は自動車産業が盛んですが、工場で稼働している作業用ロボットの多くがこの 2 社製であるとお聞きしました。

特に印象に残ったのは、FANUC の「生涯保守」という理念です。自社製の機械であれば、どれだけ古いモデルであっても修理対応を行うという方針を掲げています。実際に 40 年前に製造された機械の修理依頼にも応えられるよう、倉庫に膨大な部品を保管しており、最近では外部倉庫を借りるほど拡大しているとのことでした。「生産終了」を理由にサポートを切り捨てない姿勢は顧客との強い信頼関係を生んでおり、ほかの企業も見習うべき戦略だと感じました。

安川電機では、ロボット技術にとどまらず、AI 導入による産業構造の変化についてお話を伺いました。時代や技術の変化には、個人の感情にかかわらず適応しなければ取り残されてしまいます。安川電機ではそれを見据え、自社製品の提供だけでなく、顧客に対するロボット技術教育まで行っている点に感心しました。

両社とも AI や最新技術を積極的に取り入れ、変化に適応しようとしています。私の専門は機械ではありませんが、ロボット技術には AI や IoT などの情報技術が深く関わっていることを知り、将来はこの分野にも携わってみたいという新たな興味が湧きました。



FANUC の部品倉庫

### 4 現地見学

現地見学では、タイの様々な寺院を巡りました。美しく独特な建築様式からは、タイの

人々の仏教に対する深い信仰心が伺えました。日本の寺院とは異なり、華やかな装飾が多く施されている点も興味深い違いでした。また、初日に訪れた王宮内の建物には他国の建築様式を取り入れたものもあり、古くから多国との交流がされていた歴史を感じ取ることができました。

特に印象的だったのは、最終日に訪れたダムヌンサドゥアック水上マーケットです。バスから市場へ移動する際、水しぶきを感じながら小型ボートで狭い水路を高速で駆け抜ける体験は非常にスリリングでした。市場に到着すると、実際に船の上で賑やかに商売が行われており、活気にあふれていました。買い物をした際、店員さんが笑顔で「ありがとう」と声をかけてくれたことも心に残っています。

バスでの移動中、非常に多くのバイクが走る様子が見えました。バンコクの人々にとってバイクは自転車代わりの身近な移動手段なのだと思います。ヘルメットの未着用や三人乗りなど、一見危険に思える場面もありましたが、大きな事故を起こすことなくスムーズに運転しており、現地の運転技術の高さに感心しました。



大量のバイク

## 5 研修成果

今回の研修を通して、当初の目標を達成できただけでなく、それ以上の大きな収穫を得ることができました。特に実感したのは「英語の汎用性の高さ」です。企業や大学での説明はもちろん、市場でのやり取りやホテルのスタッフとの会話に至るまで、あらゆる場面

で英語を使用しました。私はこれまで英語圏以外の国を訪れたことがありませんでしたが、今回の経験を通じて英語は世界中どこでも通じるのだと身をもって実感しました。

## 6 感想

この研修を通じて、ここには書ききれないほど多くの学びを得ることができました。目標に掲げていた企業の戦略理解やグローバル力の習得だけでなく、タイの歴史や文化、そして1週間の滞在の中で感じた現地の生活感など、多くの体験が自身の知見を大きく広げてくれました。また、海外で生活したからこそ、改めて日本の良さにも気づくことができました。

さらに、今回の最大の学びは「主体的に行動すること（自分から動くこと）の大切さ」です。参加メンバーとは全員初対面だったため、自ら進んで声をかけなければ仲良くなることができませんでした。また、目標達成や疑問の解消のためには、周りの人や説明をしている人に積極的に質問をする必要がありました。初めは「変なことを言うてしまうのではないか」という不安もありましたが、質問を躊躇して機会を逃すことこそが一番の損失だと気づきました。周囲のメンバーが疑問に思ったことをすぐに質問し、主体的に学ぼうとする姿に大きな刺激を受けました。失敗を恐れない好奇心と主体的な行動力こそが、成長につながる大切な要素だと実感しています。この研修で得た学びと積極的な姿勢を、今後の学生生活に活かしていきたいと考えています。



## 海外研修を通して

福島県立福島工業高等学校  
機械科2年

### 1 研修目標

- ・他のアジア圏の国の文化に触れ、将来の目標である中学校の英語教員になり、「多文化共生」というテーマについて正しく教えられるようにしたい。
- ・日本の工業文化だけでなく、タイの工業や産業文化について学び、日本で学ぶことができない知識に触れ、深めていきたい。
- ・日本とタイの工業技術の違いや共通点を理解したい。

### 2 学校見学

学校見学では泰日工業大学に行きました。泰日工業大学とは、タイ・バンコクにある、「日本型ものづくり大学」を目指している学校で、日系企業との強いつながりが大きな強みの大学です。そこでは、自分より少し上の世代の方が私たちと同じように機械のプログラミングやエンジンのことなど、工業について学習している所を見学することができました。日本との関係が強い大学であることも関係して、日本について学ぶ授業があることに驚きました。また、現地の大学生と交流し、自分の人生の中で初めて実際に英語でコミュニケーションをとることができました。完璧ではなかったですが、楽しく、そして現地の人と会話をすることができ、とても有意義に交流することができてよかったです。



泰日工業大学の実習室の様子

### 3 企業見学

企業見学では、主に産業用ロボット関連の企業を見学しました。FANUC と YASKAWA を見学しました。用途によって機械の大きさが使い分けされており、AI をロボットに導入することで、作業の効率化が大いに進んでいます。また、最近では人とロボットが協働して作業する「協働ロボット」という製品もあり、溶接などのロボットが覚えづらい作業を、人がアームを直接持って動きを覚えさせることにより、今まで危険が伴っていた作業をより安全に、そして正確に作業することができます。このようなことを双方の企業で学ぶことができました。

また自分が気づいた2つの会社の主な相違点はロボットのカラーリングです。FANUC は黄色がメインの配色になっているのに対し、YASKAWA は青色がメインの配色になっていました。FANUC が黄色を使用している理由は、独立時の色分けが関係していること、YASKAWA は企業のブランドカラーが青であることから使用していることが分かりました。実際に産業用ロボットを見学して、今後の工業で必要になるのはやはり AI の技術であること、その技術の先陣を切って開発に取り組んでいる方たちのおかげで今の工業・産業が成り立っているのだと思いました。



FANUC での企業見学の様子

### 4 現地見学

現地見学では、ワットアルンやワット・パクナムなどの非常に多くの寺院を回ったり、メークロン鉄道市場などの少しディープなタイの文化を見学したり、タイ国立博物館では

古代のタイの歴史や文化、暮らしなどの知識を深めることができ、とても勉強になりました。その中でも自分がとても興味が湧いたことは、「アユタヤ遺跡」です。アユタヤ遺跡とは、かつてタイで栄えたアユタヤ王朝の首都だった遺跡群で、1350年から417年もの間、東南アジア有数の国際貿易都市として繁栄したとされている都市です。そこには数多くの遺跡があり、自分が特に興味を持ったのはワット・プラシーサンペットという3つの塔が並ぶ遺跡です。この遺跡は、アユタヤ王宮内にあった、最も重要な寺院であったと言われています。現地に着くと、まず3つの塔に圧倒され、やはり単なる寺院跡でなく、アユタヤ王室そのものの象徴であるのだと考えさせられました。また、3つの塔が静かに聳え立っている姿を見上げた時、他の破壊された寺院と違い、きちんと整えられた印象があり、先代の方々の「ここだけは守る」という意思をこの身をもって感じることができました。寺院周りには森に囲まれており、日本ではあまり見ることができないリスを見ました。伝染病等のリスクがあるため、触るなどの行為は行いませんでしたが、遠くから写真を撮りました。また、ここでタイに来て初めてのスクールに遭い、急に大粒の雨が一気に降り始め、とても驚きました。タイでは必ず来るべきと言われている理由が、訪れてみてよくわかるすごみを肌で感じることができました。



ワット・プラシーサンペット

## 5 研修成果

研修成果では、当初の目的であった文化の

違いについて実際に知り、また現地の方と会話することによって、多文化共生について理解を深めることができました。工業技術については、日本の企業が技術提供をしていることが多いため、あまり違いは感じることはできませんでした。しかし、街中で電柱の配線があり得ないほどぐるぐる巻きになっている様子を見かけたり、工事現場をよく見ると、ヘルメットをしていない作業員が多く見受けられたりと、細かいところの安全基準が日本と比べて異なることを学ぶことができました。

## 6 感想

この海外研修という体験を通して、自分はタイの人たちの文化や生活に触れ、タイ独自の街並み、歴史について知り、知見を深めることができました。自分が思ったことは、タイの人はみんな、心が温かく、優しい人が多いということです。買い物をする際にも、必ずと言っていいほど、笑顔であいさつや返事をしてくれ、自分もその姿を拝見し、人間として深く学ばされました。タイの人は優しい人たちであるということを知り、現地に行かないと分からないことも多くあるんだなと感じました。このような貴重な体験ができたのも、全国工業高等学校長協会の皆様のおかげです。このような機会を設けていただき、本当にありがとうございました。また、この海外研修を通して、日本全国各地に友達ができたことで、自分自身の人間としての幅を広げることができました。参加した皆様方へ、タイでは本当にお世話になりました。また、みんなで会いましょう！



夕食前の写真

## 海外研修に参加して

～得た知識、経験、繋がり～

千葉県立市川工業高等学校  
建築科3年

### 1 研修目的

タイの文化や建築物について学び、建築に関する知識を深めるとともに、全国の工業高校生やタイの学生と積極的に交流し、今後の国際的な視点に立った学習活動に活かすことを目的とする。

### 2 学校見学

私たちは2007年にタイの首都バンコクに設立された泰日工業大学（以下 TNI）を訪問しました。

TNI は、日本の産業技術や管理手法を取り入れた「日本型ものづくり」を教育の核に掲げた大学で、専門知識だけでなく、日本語と英語の語学教育にも力を入れている学校です。TNI 内に設置された全講義を英語で行う泰日国際学院（以下 TNIC）という国際学部の授業に参加させていただき、実習施設の見学や大学生と交流することができました。

見学させていただいた TNIC では、コンピュータやプログラミングを多く活用した、先進的な授業を行っていました。私達も授業に参加させていただき、TNIC の学生とペアを組み、一緒にプログラミングの作業を行いました。授業は、基本的には英語で行われ、TNIC の学生のほとんどが、英語が堪能で、タイ語、英語、そして中には日本語も話せる方もいて、とても驚きました。

授業は、基本的に英語が使用され、プロジェクターに投影させるスライドも全て英語が用いられていました。私は英語はあまり得意ではありませんが、乏しい語彙で伝えようとすると、TNIC の学生はこちらのペースに合わせて話してくれたため、とても楽しく過ごすことができました。

### 3 企業見学

企業見学では、産業用ロボットや工作機械用 CNC（数値制御装置）で世界トップクラスのシェアを誇る日本を代表する FA（ファクトリーオートメーション）機器メーカーである FANUC 株式会社の海外現地法人 FANUC THAI LIMITED（以下 FANUC）と、同じく日本の株式会社安川電機のタイ現地法人で、タイの製造業の自動化を支えるメカトロニクス企業である YASKAWA ELECTRIC THAILAND（以下 YASKAWA）の2社を見学しました。



FANUC 企業見学記念撮影

FANUC はタイ国内の製造業における自動化と省力化を強力に牽引しており、自動車や金属加工をはじめとするタイの製造業の発展を支え続けている企業です。

企業概要の説明を受けた際の、「ファナックの協働ロボットは人とロボットが共存する未来の懸け橋となる」という言葉が印象的でした。そして、FANUC の掲げる高品質、高品位、高精度というものは、CNC によりさらに実現可能となることなどを学びました。

見学が終わった後の質疑応答で、「この先ロボットが自分たちを追い詰める可能性を怖いと感じたことはありませんか？」と質問したところ、「怖いとは思いません。溶接などはまだまだ人の手でないとできないし、AI にとられる仕事もたくさんあるだろうが、その逆ももちろんあります。それが技術者です。だから私たちは私たちの仕事に誇りをもって取り組めるんですよ。」と言われ、私もその技

術者の卵、日本の工業高校生であることを誇りにしたいと思いました。

企業見学の2つめとなる YASKAWA は、高性能な産業用ロボットやサーボモータ、インバータなどの販売から、アフターサービスまで一貫して提供している企業です。

YASKAWA では FANUC と同様、ロボット技術を見学させていただきました。FANUC はどちらかというと自社の製品と他社の製品をうまく織り交ぜて一番いいものを、というスタイルでしたが、YASKAWA は小型ロボットから大型ロボットまで作業の一連を自社製品完結で行う企業だと感じました。

何か頼みたいときに「YASKAWA に頼めば大丈夫」と、数社に頼ることなく、1社でまとめて作業ができるということを強みとしていることを知りました。

YASKAWA も高品質、高品位、高精度を掲げており、社内にロボットの耐久実験室や研究室を有し、常に良いものを生み出そうという企業の思いを感じました。

YASKAWA の社員の皆さんは、持久力、柔軟性、性能を維持することという意味で「フィジカル」を大事にしていると伺いました。

「YASKAWA の製品として送り出すロボットが誰かの役に立つように」と誰よりも願い、自社の製品に自信と誇りを持っているからこそ、今の YASKAWA があるのだと感じました。

「ロボットだって完璧じゃないからいつかは必ず壊れる日が来てしまう。壊れないものをつくることなんてほぼ不可能。でも、壊れないものに限りなく近いものを作るというのが、私たちの仕事です。メンテナンスや最終チェックなどは私たち次第でどうにでもなる。ロボットはダイナマイトと同じで一歩間違えれば取り返しのつかないことになる。だからこそ、どうしたら悪用されないかまで、考えることが重要となってくるのです。」という言葉に、会社の信頼度の高さの理由を垣間見ることができました。企業見学を通し、その違いがわかり、どちらの良さも見えてくるととても有意義な見学となりました。

#### 4 現地見学

バンコク市内見学や寺院めぐり、国立博物館や王宮、アユタヤ、メークローン線路市場、水上市場など様々な観光地を見学する中で特に印象的だったのが、アユタヤとメークローン線路市場と王宮でした。

タイでは生まれた曜日で自分の保護色が決まり、王宮もその色で彩られます。ラーマ 10 世は月曜日に生まれたため、月曜日のシンボルカラーである黄色、そしてタイで黄色は幸せの象徴ともされる色であり、王宮、町のいたるところのラーマ 10 世の肖像画が華やかに黄色で彩られていたのがすごく印象的です。

王宮の中には多くの守り神とされる猿や鬼の像があり、見た目はほぼ同じだが、素足が猿、靴を履いているのが鬼だと教えてもらいました。全く違う種族が協力して王宮の土台を支えているというデザインが神秘的で、少し怖さも感じ、とても印象に残りました。

メークローン線路市場では線路からわずか 30 cm 程度離れたところでお店が両サイドにぎっしりと並んでおり、そのほとんどのお店が線路の上にテントを広げていたため、最初は廃線跡にお店を並べているのかなと思うほどでした。しかし、警察官がホイッスルを鳴らした途端にお店の人が一斉に出てきてテントをしまっている様子を見て、とても驚きました。今でも日常的に使われている鉄道で、その周りに踏切や安全柵も何もないという光景が異様でとても印象に残っています。

タイで地域間格差が大きい理由は、経済的発展が一部に集中してしまったこともあるのではないかと考える機会にもなりました。

そして、一番感動して鳥肌が立つほど心を動かされたのがアユタヤです。アユタヤはとても有名で、私も以前から知っていました。タイに訪れる前にもう一度調べて、画像で見えていたのですが、画像では伝わらない迫力とオーラのようなものを感じました。決して呪われた遺跡というわけではありませんが、なぜかその周りでは寒気のようなものを感じて少し怖いと感じました。



アユタヤのキセキ

「人間が戦争で壊した仏像を、静かに自然が抱きしめ再び命を与えた」「数多くある石像の中から木が神聖な仏像を自ら選び、守るために包み込んだ」などというものは、現地を訪れるまで、ただの迷信でしかないと思っていましたが、何とも言えない表情の石像や木の根の張り方、完全に埋まるわけではなく、石像の顔の部分のみを残すように生えた木など、言い伝えができるのも納得でき、何とも不思議な気持ちにさせられ、一番印象に残りました。

## 5 研修成果

研修会に参加した全国の工業高校生やタイの学生と、積極的にコミュニケーションをとることを心掛けてこの研修会に臨みました。私は比較的、社交的ではありますが、全く知らない人たちと、寝食をともにするとすると、まわりになじめなかったらどうしよう、他の参加者とうまく話すことができるかなど、不安な気持ちでいっぱいでした。

それでも、積極的にコミュニケーションをとるように心掛けたこともあり、短い期間でも、その仲間とともに、有意義な研修にすることができました。

今回の研修では、タイの文化や歴史、専門科目である建築のことや、先進的なロボット技術の見学など、多くのことを学び、勉強になりました。そのどれもが私の将来の道を広げてくれるものばかりだったと思います。

私は、日本の建築は古き良き伝統を後世に伝えるといった考えが強くあるように感じて

います。同時に、都心部では1つの建物に多様な用途を集約し、限られた土地を有効活用するといった考えもあると思います。

東京ではほとんどが高層ビルで、飲食店はビル内のテナントなど独立店舗は少なく感じますが、タイではバンコクにも数多くの平屋が見られ、バンコクから少し離れると3~4階程度のアパートのような建物がほとんどを占めていました。

また、タイは国内に数多くの川が流れており、川辺に建てられている高床式の建物はいつ崩れてもおかしくない状態で、都心部の建物との差に疑問を感じました。タイでは古くても使えるものは使うという国民性から、新しいものと古いものが混在しやすい都市であると説明を受けました。そして、高温多湿な気候のため、高床式建築を古くから採用してきました。私は高床式をあまり見た事がなかったので、強度的に不安に思いました。しかし、タイの方々からすればメリットしかない建物であり、さらに高床式だからこそ、建物自体が軽いことや、日本に比べて地震が少ないことなど、その土地を理解した構造になっていることを知りました。

タイの高床式建築は柱で荷重を支える軸組構造となっており、木材だけでなく竹が使われているから自重の負担が少ないことなど、勉強になりました。

ホテルや夕食会場などで、壁が薄いのであまり大きな声を出さないでくださいとよく言われたのですが、なぜ壁が薄いのか気になり調べたところ、タイは日本より暑いことから熱が籠りにくく、風を通せるように、そして湿気を逃がすように、木材や編んだ竹を壁材とすることが多いことを知りました。

気候やその地で得られる材料によって建物自体が大きく変わってしまうところが、建築の面白いところだと改めて実感しました。

しかし、私の人生において、この先の宝となるものは、その中のどれでもなく、日本各地から集まり、一週間前に出会った最高の仲間たちと過ごした時間だと確信しています。

特定のコミュニティに囚われず、どのような場面でもいつものように振る舞うことや、慣れない環境でも、その中から自分のためだけでなく周りの人達のために行動すること、学びを自分のものにしようとする姿勢、広い視野、これらが今回の研修で得たものだと思います。他にもみんなの言葉の中や、考えから学べたことが多くあります。本当に多くのものをたくさんの人達からもらいました。

今回いただいた貴重な機会を、無駄にすることのないよう、みんなが切磋琢磨できたということが、最高の研修結果だと、私は思います。

## 6 感想

今回の研修に参加するにあたって、研修中は何事にも前向きな考え方で臨もうと自分の中で目標を立てていたので、笑顔で日本各地から集まった参加者である工業高校生と共に学ぶことができました。

個人的に興味深かったのは、普段受けている授業に関することで、学校によって実習内容などに違いがあることや、自分の住む地域では恐らく知ることのできなかったことが多く、同じ工業高校生でも、環境が違う人達と話すことは、発見や気づきが多く、とても楽しかったです。

その他にも、みんなと話していく中で、それぞれが、しっかりとした芯があってカッコいいなと思うことばかりでした。そんなみんなと一週間、一緒に過ごして、私も負けていけない、もっと頑張ろうと思いました。

今回の研修で知り合った高校生は私の大事な仲間ですが、それと同時に、憧れの存在にもなりました。

今回の研修の中で、一番よかったと感じたのが、誰一人として他の人の意見を否定することなく、誰かの言った意見を尊重し、自分だけの見解で終わらせなかったことだと思います。自分はこう思うからこれが正解と決めつけずに、そういう意見もあるのだ、なるほどと、どんなことでも自分の学びにつなげる

姿勢から、この人たちがなぜ海外研修の参加者として選ばれたのかがすごく理解できました。私自身も、みんなのそのような姿勢から、受け取り方や、伝え方、見方を変えてみようと思えるようになりました。

研修参加者の誰一人として、私はこういう人間だからと、妥協しているところを見たことがありませんでした。

研修期間は、ただ単にすごいなと思うだけでしたが、日本に帰ってきて研修を振り返ったときに、何人もの参加希望者がいた中で自分を選んでもらったからには、選ばれなかった人たちに失礼にならないように、選んでくれた人たちにも推薦してよかったと思ってもらえるように、責任ある行動をとって、自分自身が研修を通して成長しなければいけないと、みんなが思っていたからなのではないかと思いました。

学校で生徒会長として活動する中で、いつの間にかコンフォートゾーンに浸っていて、そこから抜け出すことができずにいました。しかし、研修が終わって、少し視野が広がり、みんなが自信をもって行動する意味を理解したときに、生徒会の他の役員に、そして会長になりたいと立候補したほかの生徒に、なんて失礼で頼りない姿を見せていたのだろうと恥ずかしくなりました。

今回の研修で、他校の参加者と関わり合い、生徒会長として改めて、その責任を見つめ直し、みんなが一呼百応して生徒会活動ができるような生徒会長になれるよう、普段の行動から改善したいと思いました。

この海外研修で、多くのことを学ぶことができました。このような貴重な機会を与えて下さった全国工業高等学校長協会の関係者の皆様をはじめ、推薦して下さいった青柳校長先生、この研修に関わった全ての方に深く感謝いたします。

この研修で学んだことを、今後の学習活動や、就職した後も生かせるよう、努力し続けたいと思います。

## タイへの研修で得た成果

東京都立総合工科高等学校  
電気・情報デザイン科 3年

### 1 研修目標

私は、本研修に参加するにあたり、2つの目標を立てました。1つ目に、現地の方と積極的にコミュニケーションをとる。2つ目に、訪問先で必ず1つ以上の質問をする。という2つです。この2つを研修の目標として挙げた理由は、自分は将来国際社会で活躍できる技術者になるという目標があり、その目標のためには、コミュニケーション能力はとても大切な能力だと感じているからです。

### 2 学校見学

大学訪問では、泰日工業大学（TNI）を訪問し、模擬授業の受講、現地学生との交流、研究室の見学、大学の施設見学などを行いました。その中で特に印象に残っていることが2つあります。1つ目は、現地の学生との交流です。学生の中には、日本語が喋れる学生がおり、英語だけではなく、日本語を交えてコミュニケーションをとることができました。タイで流行りの日本のアニメやゲームなどについての話題で盛り上がることができました。

2つ目は、大学の施設についてです。校内には、機械加工や自動車などのエンジンを整備するのに使う工場があり、学生フォーミュラに参加するマシンやトヨタ自動車から提供された車や約20,000冊を収容し、ミーティングルームなどを備えた図書室などがありました。どの場面を切り取っても学生が活発に活動している姿がとても印象的でした。

### 3 企業見学

企業見学では、ファナックタイと安川電機タイランドの2社を訪問し、企業の事業や製品の説明を受け、トレーニング用のロボットを用いて、ロボットが実際に動いている様子

も見ることができました。

ファナックタイでは、自社の強みとしているCNC制御について、またファナックの製品であるロボドリルやロボマシンなどの産業用ロボットや人とロボットが協力して行う作業に用いられる協働ロボットなどの製品が実際にどのような現場で活躍しているかを社員の方から丁寧に説明していただきました。その後、社内を見学して疑問に思ったことなどを社員の方に質問する時間があり、我々の些細な疑問についても、答えていただきました。

安川電機タイランドでは、初めに安川電機の事業に関する説明をして頂いた後、3班に分かれて産業用ロボット、溶接ロボット、協働ロボットを実際に動かしながら、どのような現場で使われているか、またそれらを用いて今まで人が行っていた作業をロボットに行わせることで得られるメリットなどの話を聞くことができました。さらに協働ロボットをタブレット端末で実際に動かす体験が出来ました。ロボットに対して正面を向いた状態で動きを入力した時と、ロボットに対して横に立って動きを入力した時では動きが異なります。ジャイロセンサーが使われており、自分が見た方向の向きで入力した動きを行うため、作業への負担が少なく、操作の仕方を覚えれば、誰でも簡単に操作できると思いました。

その後、昼食を食べ終わった後、現地の社員の方に質問する時間があり、職人の感覚で行う溶接の技術をロボットに学習させる難しさや、省エネに関する取り組みについて質問することができました。またその際に対応してくれた現地の社員の方々の対応がとても丁寧で、お忙しい中、私たちを暖かく迎え入れてくれて、本当に感謝しかありません。

### 4 現地見学

現地見学では、王宮や寺院を初めとする歴史遺産、地元の方が普段から利用されているスーパーやショッピングモールなどを見学することができました。特にタイの寺院はど

れも特徴的な物が多く、作られたその時代の建築様式が色濃く出ているのが印象的です。それ以外にも、アユタヤの日本人町跡やメークローン線路市場、ダムヌンサドゥアク水上市場、マハナコン・タワーなども訪れることが出来ました。

それらの場所を見学した中で、印象に残っているのがメークローン線路市場です。線路の上に覆い被さるようにテントが設置されていて、電車通過時には、一斉に畳んで運行に影響が出ないようにします。地面に安全のために引いてある赤い線が店舗の入り口付近にあって、場所によっては消えかかっているところもありました。その線まで下がっても、電車は手で触れられるぐらいの距離で走っていきます。日本ではこのような経験は出来ないの、海外ならではのすごく良い体験だと思いました。



メークローン線路市場の様子

さらに移動の際にふと見上げると、電線がぐちゃぐちゃに絡まっていて場所によっては人に触れるぐらいのところまで垂れ下がっている箇所もありました。後から調べたところこれはタイの急速な都市化が影響していると知りましたが、それを見た時にはこんなに絡まっているのによく燃えたり断線がおきたりしないものだと思っていました。

## 5 研修成果

私はこの研修を通じて、日本の当たり前が世界では当たり前ではないことを改めて再認識しました。そう感じた理由は大きく分けて



複雑に絡まっている電線の様子

2つあります。1つ目は、ゴミの分別です。日本ではゴミの分別は当たり前でゴミ捨て場には3つ程度のゴミ箱があり、可燃ごみ・不燃ごみ・資源ごみに分別して捨てるのが当たり前になっていますが、タイのゴミ捨て事情はそうではありません。タイではゴミは1つの袋にまとめて捨てます。また地域や施設によっては簡単な分別（濡れたもの・乾いたもの、ペットボトルなど）程度だそうです。2つ目は、送電関係です。日本の架空電線は整理されておりメンテナンス等も簡単に可能ですが、タイの電線はそうではありません。電線は絡まっており、一部では人に触れるぐらいの位置に垂れ下がっている箇所もありました。日本国内で普段通りに生活していれば、タイのように絡まっている電線を見る機会はないのです。これらの理由から日本の当たり前が世界では当たり前ではないことを知りました。さらに、日本という国で人々がどれだけ良い環境で生活できているかを改めて認識できた研修になりました。これらの研修で得た成果を将来自分の生活にも活かしていきたいです。

## 6 感想

この研修への参加が決まった時、私は嬉しさとそれと同じぐらいの不安がありました。なぜなら、今回の研修は全員初めて会う人達ばかりで、私は積極的にコミュニケーション

をとるのがあまり得意ではない点に不安を感じていました。研修初日に集合場所に参加すると顔合わせたとき、私はすごく緊張していましたが、周りもみんな同じ状況だからと考えていたら緊張もだんだんとはぐれてきました。

結団式が終わって事前研修のために移動しているときから、自分なりに考えながら積極的にコミュニケーションをとっていきました。特にルームメイトとは、他の人よりもいる時間が長いので、どんな人なのかと不安でしたが、同学年かつ電気科だったため、話のネタは尽きませんでした。

現地に着いてからは、ガイドの方の分かりやすい説明のおかげで、寺院をはじめとする歴史遺産や観光地で色々な知識を習得することが出来たと思います。さらに今回の研修では産業用ロボットの研究・開発をしている企業の訪問では、普段では実際に見る機会があまりない産業用ロボットを近くで見学でき、人とロボットが共に働く事が出来る共働ロボットに触れて操作する機会がありました。

この経験はたいへん貴重で、この機会を提供してくれた企業の方には感謝しかありません。また現地の大学生との交流を通して、タイの大学生の休日の過ごし方やタイで流行している日本のアニメなども知る事ができました。多くの体験を重ねたタイでの6日間は長いようで一瞬でした。タイに着いたばかりの時は、慣れないタイ料理に戸惑った事もありましたが、最終日にはタイ料理にも馴染むことができ、当初とは異なりタイに滞在したいという気持ちになるぐらいでした。

この研修で経験したことは、将来進学や就職した際にも良い影響を与えると確信しています。最後に、この研修に参加する機会をくれた学校の先生や研修に参加するにあたって支えてくれた全ての皆様に心より感謝申し上げます。



～Memorial photo～

7月19～20日(日・月)

日本出国・バンコク市内見学



## 素晴らしいタイ験

神奈川県立磯子工業高等学校  
建設科2年

### 1 研修目標

私は学校で建設を学んでおり、タイの気候や文化に合わせた建築技術に興味を持ちました。今回の研修では、建築物や寺院の構造や仏教文化などの日本との違い、タイの住宅が熱帯環境にどう工夫され耐えているかなどを積極的に学んできました。

### 2 学校見学

学校見学では泰日工業大学(Thai-Nichi Institute of Technology:TNI)を訪問しました。工学部・情報学部・経営学部の3つの学部を持つ日本とタイのハイブリッド工業大学で、日本語は2年生までは必修科目だと学生さんに聞きました。学生はタイ人だけではなく色々な国籍の人がいました。

授業体験では学生と交互に座り、英語でのコミュニケーションで少し不安でしたが、知っている日本語を話してくれたので沢山コミュニケーションが取れました。また、昼食では日本人留学生と交流し、なぜ進路先として泰日工業大学を選んだのかなど食事をしながら様々なことが聞け、楽しく過ごせました。

校舎は鉄筋コンクリート構造で建てられていました。タイでは一般的な構造であり、高温多湿な気候やシロアリの被害を防ぐため、コンクリートやレンガを使った建物が主流で、現地の気候に合わせた頑丈で耐久性の高い環境が整えられていました。

学習環境がとても良く、学生たちもみんな優しく泰日工業大学に入りたいと思えるほど、とても楽しい学校見学でした。交流を通して文化の違いや授業の様子などを知り、より一層タイの良さを感じました。

### 3 企業見学

企業見学では、ファナック(Fanuc Thai

Limited)・安川電機(YASKAWA THAILAND)の2社を訪問しました。どちらもロボットを製造している企業です。

ファナックはイメージカラーが黄色でAIを活用しロボット開発をしています。46年で100万台を達成された素晴らしい企業です。実際にロボットをいくつか見させていただきました。ファナック製のCNC(数値制御装置)は世界で約50%の圧倒的なシェアを占めていて、数多くの工作機械に使用されていることを学びました。

また、サービスもたいへん充実していて、最新のロボットだけでなく、過去に製造されたロボットでも壊れたら修復してもらえます。売るだけではなく、売った後も寄り添う姿勢が強みだと思いました。

安川電機はイメージカラーが青色の産業用ロボットを製造している企業です。アーク溶接や組立、工業だけでなく農業のキュウリの葉欠きなどに使用されています。社内はすべて安川電機製の製品を使用しており、情報漏洩対策がすごかったです。

タブレット1つでロボットを操作できることが特徴でした。コマンドを打たなくても楽にでき、選択して押すだけでコマンドが打てる仕組みになっており、教えていただきながらみんなで操作をし、その容易さに驚きました。



安川電機のロボットをみんなで操作

安川電機は品質管理に力を入れていて、そのためには良い人材とロボット故障後のアフターサービスが大事だとおっしゃっていました。ロボットの製造だけでなく、それを扱う人の育成と故障時のサービスがより良い品質管理

につながっているのだと学びました。

ファナックと安川電機は、どちらも世界 4 大ロボットメーカーに入っているトップメーカーです。そのような企業を見学できてとても勉強になりました。

#### 4 現地見学

現地見学では、ワット・アルンやワット・ポー、エメラルド寺院、ピンクガネーシャ、ワット・パークナムなどの寺院、国立博物館やアユタヤ、水上マーケット、メークロン駅など色々見学しました。その中で特に印象に残っているのがワット・パークナムです。

一番驚いたのは、天井一面に描かれたエメラルドグリーンの星空のような絵です。この絵は、仏教の宇宙のイメージを表したものだとしり、タイの仏教のアートカルチャーのすごさを感じました。

部屋の中心にある緑色のガラスの塔が、ライトアップされていてとても幻想的でした。何百枚ものガラスを積み上げて作られているそうで、近くで見るとものすごく手が込んでいることが分かりました。寺院とアートの組み合わせがとても面白かったです。

ワット・パークナムの外観には白い大理石、装飾には金箔やガラススタイルを使い幻想的な印象でした。一方で日本の寺院は主に木材や瓦などを使い自然との調和を大切にする印象を受けます。同じ仏教建築でも、国の文化や自然環境の違いがスタイルに影響を与えているのだと思いました。

#### 5 研修成果

日本とタイの建築物の違いについて、最も驚いたことは、住宅と住宅の距離が近かったことです。タイは日差しが強く暑いので、わざと近くして日影を作っているのではないかと考え、調べてみるとタイは、日本と違い日照権がありませんでした。バンコクの建築条例により、建物の高さや配置が公道の幅によって規制され、広い大通り沿いには超高層ビルが建てられていますが、路地に入ると細い

道路の規制ルールで、狭い敷地いっぱい建物が建てられていました。これもタイの、住宅建築の工夫の1つなのかと思いました。



タイの住宅地帯

#### 6 感想

今回のタイ研修は、私のこれまでの視野を大きく広げてくれる、本当に貴重な経験になりました。行く前は、言葉も文化も違う遠い国というイメージでしたが、現地で実際に沢山のものを見て、日本とタイの深い繋がりを感ずることができました。

初めてのタイで自分の英語が伝わるか、すりに合わないだろうか、他のメンバーとは仲良くなれるだろうかなどの不安を持っていたのですが、今回の引率に私の学校の先生方がいらしたので、とても心強く、大きなトラブルもなく最後まで全力で研修を楽しむことができました。先生方が見守ってくださる安心感があったからこそ、他のメンバーともすぐに打ち解けて、お互いに助け合いながら沢山の思い出を作ることができました。

日本のロボット技術がタイで活躍しているところを見たり、エメラルド寺院やワット・パークナムなどの美しさを肌で感ずたりした毎日は、驚きと学びの連続でした。行く前の不安が嘘のように、終わってみればこのメンバーでタイに来て本当に良かったと心から思える充実した研修になりました。この研修で得た新しいことに挑戦する勇気と広い視野をこれからの生活に生かしていきたいです。今回の研修に関わられた方や引率をしてくださった先生方、家族、一緒に参加した全国の工業高校生のメンバーに感謝しています。ありがとうございました。

## タイで見つけた文化と技術のつながり

神奈川県立神奈川工業高等学校  
電気科3年

### 1 研修目標

1つ目は、タイの文化、歴史、生活習慣について学び、日本との違いや共通点を理解することで、異文化理解を深めること。

2つ目は、現地の方々との交流を通して、言語だけでなく、自分の得意な絵や表現活動も活用しながら、主体的にコミュニケーションを図る力を身に付けること。

3つ目は、タイの大学・企業訪問を通して、海外における産業や技術の活用について学び、将来の進路選択や職業観の形成に生かすこと。

### 2 学校見学

7月22日に、Thai-Nichi Institute of Technology (泰日工業大学) を訪問しました。

到着後、オープニングセレモニーに参加し、その後、授業への参加や学内の見学、TNIの学生との交流、キャンパスツアーなどを行いました。

泰日工業大学は、日本との関係が深い大学であり、学校の中にも日本とのつながりを感じる部分がありました。実際に学校を訪問することで、日本の学校とは違った雰囲気を感じることができました。また、現地の学生がどのような環境で勉強しているのかを実際に見ることができ、とても貴重な経験になりました。

特に印象に残ったのは、現地の学生との交流です。日本とタイでは言語や文化が異なるため、最初はコミュニケーションを取ることに難しさを感じる場面もありましたが、言葉だけではなく、表情やジェスチャーなどを使って伝えようとすることで、相手とコミュニケーションを取ることができました。

今回の交流を通して、外国の人と話すとき

には、完璧に言葉を話せることだけが重要なのではなく、相手に伝えようとする積極的な姿勢が大切であると感じました。

また、今回の研修目標の一つであった「主体的にコミュニケーションを図る」という点についても、実際に海外の学生と接することで、自分から話しかけたり、相手の話を聞いたりする経験ができました。

日本とは異なる教育環境を見ることができたことに加え、実際に現地の学生と交流できたことで、タイの学校生活や学生の考え方についても知ることができました。今回の学校見学は、異文化理解だけでなく、自分から人と関わることの大切さを学ぶ機会にもなりました。

### 3 企業見学

今回の研修では、ファナック Thailand Ltd. と安川電機 Thailand の2つの企業を訪問しました。



FANUC

7月21日には、ファナック Thailand Ltd. を訪問しました。最初に会社についての説明を受け、ファナックがどのような事業を行っているのかについて学びました。その後、展示ルームや保守部品倉庫を見学しました。

実際の製品や設備を見ることで、工業高校で学んでいる電気や機械、制御などの技術が、企業の中でどのように活用されているのかを具体的にイメージすることができました。

学校の授業では、電気回路や制御について学ぶことができますが、実際の企業ではそれ

らの知識や技術が組み合わされ、製品や生産設備を動かすために利用されていることが分かりました。

また、企業の中では製品を作る技術だけでなく、製品を安定して使い続けるための保守や部品の管理など、さまざまな仕事が必要であることも知ることができました。

7月23日には、安川電機 Thailand を訪問しました。

会社紹介を聞いた後、ロボットの基礎について説明を受け、実際のロボットや設備を見学しました。また、トレーニングの様子を見たり、実機を使った説明を受けたりしました。その後、3種類のロボットの実演を見学し、最後に質疑応答や記念撮影を行いました。

特に印象に残ったのは、産業用ロボットが実際に動いているところを間近で見ることができたことです。学校で学ぶ電気や制御の内容が、実際の工場や企業ではロボットを動かす技術として利用されていることを知り、普段の授業とのつながりを感じることができました。

また、ロボットが人間の代わりに作業をするだけではなく、生産性を高めたり、作業の安全性を向上させたりするために利用されていることも分かりました。

二つの企業を訪問したことで、タイにも日本の技術を活用している企業が多くあり、日本の工業技術が海外でも役立っていることを知ることができました。

今回の企業見学を通して、学校で学んでいる電気や工業の知識は、将来の仕事につながっていくものだということを実感しました。また、海外で日本の技術が活用されていることを知ったことで、将来の進路について考えるきっかけにもなりました。

#### 4 現地見学

今回の研修では、企業や大学だけでなく、タイの文化や歴史を知るためにさまざまな場所を訪問しました。

7月22日には、バンコク市内を見学し、国立博物館などを訪れました。博物館ではタイの歴史や文化に関するものを見ることができ、実際の文化財などを通してタイの歴史について学ぶことができました。

7月23日には、アユタヤを訪れました。アユタヤでは、日本人町跡、ワット・マハタート、ワット・プラシーサンペットなどを見学しました。

アユタヤには歴史的な建造物が多く残されており、実際にその場所に立つことで、タイの長い歴史を身近に感じることができました。

特に日本人町跡を訪れたことで、タイと日本は昔から交流があったことを知り、現在の日本とタイの関係だけでなく、過去にも日本とタイの間に人の交流があったことを知り、両国のつながりについて興味を持ちました。

また、ワット・マハタートやワット・プラシーサンペットでは、日本とは異なる建築や仏教文化を見ることができました。実際の建造物を見ることで、事前に写真などで見るだけでは分からない大きさや雰囲気を感じることができました。

その後、ワット・サマーン・ラッタナーラムを訪れ、タイで有名なピンクガネーシャを見ることもできました。日本の神社仏閣とは違った雰囲気があり、タイ独自の宗教や文化について知るきっかけにもなりました。

7月24日には、メークローン線路市場を訪れました。線路のすぐ近くで市場が開かれており、列車が通る際に市場の人々が対応する様子を見ることができました。インターネットなどでしか見たことがなかったので、とても印象に残りました。その後、ダムヌンサドゥアック水上マーケットを訪れました。船を利用して商品を売買する水上マーケットは、日本の市場とは大きく違っていました。現地の人々の生活や商業の形を実際に見ることができ、押し売りや値段交渉などが印象に残り、タイの生活文化を知る貴重な経験になりました。



メークローン線路市場

さらに、マハナコン・スカイウォークも訪れました。高い場所からバンコクの街を見渡すことで、タイの都市の規模や街並みを実感することができました。歴史的な場所だけでなく、現在発展しているバンコクの姿を見ることができた点も印象的でした。

このように、アユタヤの歴史的な場所からバンコクの都市部、水上マーケットまでさまざまな場所を訪れたことで、タイの過去から現在までを幅広く見ることができました。

また、現地ではタイ料理を食べる機会も多く、日本とは違う味付けや食文化を体験することができました。食事もその国の文化を知るための大切な要素であり、実際に現地の料理を食べることで、タイの生活や文化をより身近に感じることができました。

## 5 研修成果

今回の海外研修を通して、最初に掲げた3つの目標について、多くのことを学ぶことができました。

1つ目の目標であった異文化理解については、タイの歴史や文化、生活習慣を実際に体験することで、日本との違いを具体的に知ることができました。

アユタヤでは日本人町跡や歴史的な寺院を見学し、タイの歴史や日本との昔からのつながりについて学びました。一方で、バンコク市内や水上マーケットでは現在のタイの生活を見ることができました。歴史的な場所と現代の都市の両方を見ることができたので、タイについてより広い視点から考えることができました。2つ目の目標であっ

たコミュニケーション能力についても、泰日工業大学での学生との交流を通して、実際に外国の人と関わる経験ができました。

海外では言葉が通じにくい場面もありますが、そこで話すことを諦めるのではなく、身振り手振りや表情、絵など、自分が使えるさまざまな方法を使って相手に伝えようとすることが重要だと分かりました。

日本にいと、同じ言葉や文化を共有しているため、相手に伝えることを当たり前のようには考えてしまいますが、海外では自分の考えを相手に伝えるために、自分から工夫する必要があることに気づきました。その経験を通して、コミュニケーションでは正しく話すことだけではなく、相手に伝えようとすることが大切だと学びました。

3つ目の目標であった産業や技術についての学習では、ファナックと安川電機を訪問したことで、日本の技術がタイを含む海外でも活用されていることを知りました。

特に産業用ロボットについては、実際に動いているところを見ることで、学校で学んでいる電気や制御に関する知識が、実際の社会でどのように使われているのかを具体的に理解することができました。

また、泰日工業大学を訪問したことで、海外の工業教育についても知ることができ、大学と企業の両方を訪問したことで、学校で学ぶことと社会で働くことのつながりについて考える機会になりました。

今回の研修を通して、海外に出て実際に自分の目で見たり、人と交流したりすることの大切さを学びました。写真や動画、インターネットでも海外について知ることはできますが、実際に現地へ行くことでしか分からないことがたくさんあると感じました。

## 6 感想

今回の海外研修は、自分にとって初めてタイの文化や生活、学校、企業を実際に体験することができる貴重な機会でした。研修に行く前は、タイについて知っていることは限ら

れていましたが、実際に現地を訪れることで、日本とは違う文化や街の雰囲気を感じることができました。

特に印象に残ったのは、現地の人々との交流と企業見学です。

泰日工業大学では、現地の学生と交流することができました。言葉や文化が違う相手とコミュニケーションを取ることに最初は難しさを感じましたが、言葉だけではなく、表情やジェスチャーなどを使えば、自分の気持ちや考えを伝えることができることを実感しました。

この経験から、海外の人と交流するときに英語が完璧じゃないから話せないと考えるのではなく、まず自分から伝えようとするのが大切だと思いました。これから海外の人と関わる機会があったときにも、今回の経験を生かして積極的にコミュニケーションを取りたいと思いました。

企業見学では、ファナックと安川電機を訪ねたことが印象に残っています。特に安川電機で見た産業用ロボットの実演は、実際のロボットがさまざまな動きをして作業を行う様子を間近で見ることができ、とても興味深く感じました。実際に自分たちもロボットを操作でき、いい経験になりました。

自分は工業高校の電気科で勉強しているため、普段の授業で学んでいる電気や制御の知識が、実際の企業で使われていることを知ることができたのは大きな経験でした。教室で勉強していると、どうしても教科書や実習の中だけのものを感じてしまうことがあるが、実際の企業を見ることで、それらの技術が社会を支えていることを実感できました。

また、アユタヤで見た日本人町跡も印象に残りました。タイと日本は現在だけではなく、昔から人や文化の交流があったことを知り、海外とのつながりについて考えるきっかけになりました。

ワット・マハタートやワット・プラシーサンペット、ワット・サマーン・ラッタナーラームなどでは、日本とは違う建築や宗教文化

を見ることができました。実際にその場所に行くことで、写真で見るのとは違った迫力や雰囲気を感じることができました。

また、メークローン線路市場やダムヌンサドゥアック水上マーケットでは、タイの人々の生活や商売の様子を見ることができました。特に水上マーケットは日本ではあまり見ることのできない光景だったため、強く印象に残りました。

マハナコン・スカイウォークから見たバンコクの街並みも印象に残っています。歴史的な建物が残る場所だけでなく、高層ビルが立ち並ぶ現代的な都市も見ることができ、タイには歴史と現代の両方の魅力があると感じました。

今回の研修を通して、海外に行くことで、自分が今まで当たり前だと思っていた日本の文化や生活についても改めて考えることができました。日本とタイには違うところがたくさんある一方で、人と人との交流や、相手を思いやることなど、共通している部分もあると感じました。

今回の経験によって、海外の文化や技術に対する興味も以前より強くなりました。また、自分の進路について考えるうえでも、実際の企業や大学を見ることができたことは大きかったと感じます。

今回の海外研修で経験したことを一度きりの思い出で終わらせるのではなく、これからの学校生活や進路選択に生かしていきたいと思います。特に、工業高校で学んでいる電気や技術についてさらに勉強し、将来は日本だけでなく、海外でも活躍できるような知識やコミュニケーション能力を身に付けていきたいと思いました。

今回の海外研修では、タイの文化や歴史、学校、企業について学ぶだけでなく、新しい友達ができただけでも大きな思い出の1つになりました。

研修期間中は毎日のように一緒に行動し、移動中や見学先でもたくさん話をしました。

くだらないことで一緒に笑ったり、現地で

しかできないことを一緒に楽しんだり、空いた時間にはたくさん遊んだりして、短い期間の中でもたくさんの思い出を作ることができました。

最初はそれほど話したことがなかった人とも、毎日一緒に過ごしていくうちに自然と話すようになり、少しずつ距離が縮まってきました。海外という普段とは違う環境で一緒に過ごしたからこそ、普通の学校生活ではできなかったような経験を共有することができたと思います。

振り返ってみると、タイで見た景色や訪れた場所だけでなく、友達と一緒に笑ったことや、何気なく話した時間、みんなで過ごした時間そのものが大切な思い出になりました。



今回できた友達との出会いは、この研修に参加したからこそ得られたものだと思います。タイについて学べたことももちろん大きな成果ですが、一緒に笑い、話し、遊び、同じ経験を共有できる友達に出会えたことも、今回の研修で得た大切な宝物になりました。

この研修が終わってからも、このつながりを大切にしていきたいです。そして、いつかまたみんなで集まって、タイで過ごした時間を笑いながら振り返ることができたらいいと思います。

今回タイに行って、実際に見て、聞いて、触れて、人と交流したことで、教室の中だけでは学ぶことのできない多くのことを経験することができました。今回の研修で得た経験を、これからの自分の成長につなげていきたいです。

～Memorial photo～

7月21日(火)

FANUC 訪問・ピンクガネーシャ見学



## 第26回海外研修で感じたこと

富山県立高岡工芸高等学校  
工芸科2年

### 1 研修目標

- ・タイの伝統的な寺院や工芸品、また工業製品などからタイならではのデザインや色使いを観察し、制作における発想力と配色センスを養う。
- ・タイの伝統工芸やものづくりの技術を学び、日本の工芸との共通点や違いを理解して作品制作に生かせる視点を身に付ける。

### 2 学校見学

泰日工業大学では授業体験や大学生との交流会と学校見学をさせて頂きました。

タイの大学の講義は日本の大学のように母国語で行うのではなく、全て英語で行われていました。タイ以外の国から来た人でも講義を理解できる環境になっており、海外で学ぶためには英語が欠かせないことを実感しました。

授業体験においても、英語やパソコンを使った授業のため最初は何をしているのか分かりませんでした。何をしていいかわからなかったのですが、「What this?」と聞くとタイの学生さんが英語で私たちが理解しやすいように優しく説明してくれました。今までは自分の英語が伝わるのか心配でなかなか話せませんでしたが、間違えても相手に言いたいことを伝えてみるのが大事なのだと感じました。

お昼の交流会では自己紹介をした後、テーブルに分かれて、日本とのハーフの方やミャンマーの大学生と一緒に昼食を食べました。タイのお土産にはタイパンツが良いことや、タイの人がデートするならショッピングセンターに行くなど、気楽に会話を楽しむことができました。

学校見学では大学内を見て回りました。日本文化を体験する部活や日本のアニメキャラクターのギターなど、日本のものがたくさんあり、タイに来て改めて日本文化がいろいろな国の人から愛され親しまれていることを知ることができました。

### 3 企業見学

この研修では、タイで活躍する日系企業の「ファナック タイ」と「安川電機 タイランド」を訪問しました。

ファナック タイは豊富な用途で使われるロボットの販売や保守用部品の管理、故障したロボットの修理を行っている企業です。機械は値段が高く、壊れると買い直すのが大変なことから、企業理念として「壊れない、壊れる前に知らせる、壊れてもすぐ直せる」を掲げています。40年前の製品でも保守部品倉庫で部品を管理しているためいつでも修理できるという強みがあるそうです。実際に製品を使うお客さん目線でのものづくりをされている企業だと感じました。

安川電機タイランドは、工業用ロボットの販売を行い、デモンストレーションや技術サポートを通じて、お客さんの生産現場の自動化を支援する企業です。実機見学では、人と同じ作業エリアで一緒に働くことができる協働ロボットを見せていただきました。協働ロボットには、作業中に人が触れると接触を感知して自動で停止する安全機能を搭載しているそうです。私も実際にロボットに触れてみましたが、強い接触を感知するとすぐ停止しました。安全性の高さを体感し、人手不足への対応策として、産業用ロボットが重要な役割を果たしていることを学びました。一方、機械の中には使い方を間違えると危険なものもあります。そのため、使われる先を考えて作ることが大切だと教わりました。安全を意識するのは使われる先だけではなく、製品を作る側も同じであり、作り手が安全で健康に働く上で、KY（危険予知 KikenYochi）を実践して事故を未然に防止することが大切だと学ぶことができました。私自身も作品制作で危険な道具を扱うことがあるので、自身にも起こり得ることだと考え、自分で危険を予測し、対策することが大切だと感じました。

### 4 現地見学

タイでは特に交通量の多さが印象に残っています。まずバイクの数が圧倒的に多く、子供と

一緒に4人乗りをしていたり、バイクが歩道を走っていたりと日本では絶対に見られない光景に驚きました。

最終日に訪れたメークローン線路市場は、線路脇に野菜や魚などの商店が隙間なく並んでおり、その間を列車がスレスレで行き交うタイならではの場所です。そこで特に心に残っていることは、肩にコガネメキシコインコを乗せた店主の方が、私たちを線路の上に連れ出して後ろから来る列車と一緒に写真を撮ってくれたことです。後ろから迫りくる列車にドキドキしましたが、店主の方の元気と底抜けの明るさのおかげで、自然に笑顔になって写真を撮ることができました。またレストランやショッピングモールでも現地の方々はいつも笑顔で接してくださり、言葉が十分に通じなくても安心して交流することができました。この経験から、笑顔や明るい態度は、相手に安心感や良い印象を与える大切な要素だと実感しました。

この研修ではタイの文化や歴史だけでなく人々の温かく明るい人の良さを感じることができ、私にとって忘れられない思い出になりました。

## 5 研修成果

今回の研修では、工芸やデザインを専門的に学ぶ機会は多くありませんでしたが、企業見学で訪れたファナックさんでは、工業製品ならではの色の使い方を見つけることができました。例えば、製品の中でも非常停止ボタンには赤色が使われており、注意や危険を直感的に伝える役割があることを知り、人の安全を守るために考えられた工業ならではのデザインだと感じました。これまで、工業製品では色やデザインよりも機能性が重視されていると思っていましたが、実際には色にも重要な意味や役割があることを学びました。この経験を通して、ものづくりには機能性や技術だけでなく、使用する人の立場に立って考える視点も必要であることを実感しました。

また、今回の海外研修ではタイの寺院や街並み、工芸品、企業見学を通して、日本とは異なる

デザインや色使いを実際に見ることができました。現地では、タイの建物や道路を走るタクシー、店内の装飾などを観察し、原色に近い鮮やかな色や華やかなデザインが多く使われていることに気付きました。その色彩からは、明るく活気のある雰囲気が感じられ、その場にいる人を元気にするようなタイならではの魅力を感じました。

一方で、日本には淡く落ち着いた色合いや、細部まで追求した繊細なデザインの魅力があります。タイと日本では、それぞれ異なる歴史や文化の中で生まれた色使いや表現方法があり、その土地だからこそ生まれるデザインの良さがあることを学びました。

タイで感じた、見る人を明るく楽しい気持ちにさせるような色彩やデザインの魅力を今後の作品制作にも取り入れていきたいと思います。

この研修を通して、積極的に行動することの大切さや、異なる文化や価値観を受け入れる姿勢を身に付けることができました。今回得た経験を今後の学校生活や英語学習に生かし、さまざまな人と積極的に関わりながら、自分自身の視野をさらに広げていきたいと思います。



ファナックの製品

## 6 感想

私は、この海外研修を通して、とても充実した8日間を過ごすことができました。研修が始まるまでは、初めて会う人たちと一緒に楽しく過ごせるか不安な気持ちがありました。しかし、結団式で生徒だけが集まっている部屋に入ると、先に来ていた皆さんが元気よく挨拶をしてくれました。そのフレンドリーな雰囲気に驚

きましたが、同時に緊張もほぐれ、安心したことを覚えています。

タイで過ごした毎日は新鮮なことばかりでした。現地見学で渡し舟に乗った際に出会った船の上でアクティブに仕事をこなす乗組員の方や、店の商品を売り込むために知っている日本語で話しかけてくれる陽気な店員さんなど日本では出会えない人との関わりがたくさんあり、タイの魅力を感じるとともに日本の良さを改めて感じることができました。そして、仲良くなった友達と楽しく会話をしながらタイ料理を食べたり、バスの中で口角が痛くなるくらい笑いあったりと、とても楽しい時間を過ごすことができました。

この研修では、タイで出会った人たちとのコミュニケーションや一緒に活動した高校生のみんなとの出来事など人との交流が思い出に残りました。家にいるだけでは経験できなかったことばかりで、あらためて人との出会いや交流の大切さを実感することができ、本当に今回の海外研修に参加できてよかったと思いました。

最後にこの機会を与えてくださった全国工業高等学校長協会の皆様、並びにご協力いただいた全ての関係者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



渡し船



～Memorial photo～

7月22日(水)

泰日工業大学訪問・国立博物館



## タイ バンコク 海外研修

金沢市立工業高等学校  
機械科 3年

### 1 研修目標

- 1 他国の人と多く交流し、交流の難しさを学び、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 2 日本との文化、価値観の違いを学びグローバルな考え方を身につける。
- 3 いつもと違う生活をし、日本ではできない経験を積極的にする。

### 2 学校見学

7月22日、泰日工業大学に訪問。校舎が大きくとても綺麗な建物でした。食堂は外にあり、屋台のように多くの種類があり、みんな楽しそうに会話しながら食事をしていました。見学後、パソコンを使った授業に参加させていただきました。現地の大学生と交流をし、地元の話などをして盛り上がることができました。タイ語が話せなくても英語で少しだけ会話をするのができて、“マイ”という友達もできました。おすすめの観光地などを教えてもらったり、自分の学校を紹介したりして仲良くなることができました。言葉は通じなくても同じ人間として心は通じ合うのだと実感できた瞬間でもありました。

昼休みにカオマンガイという料理を食べました。タイ料理の中で一番美味しく、印象に残っています。ご飯を食べながら他の大学生たちと合流ができ、楽しい時間を過ごせました。そのあと、校舎を回り実習棟を見学しました。本校にある旋盤や溶接機などもあり、親近感が湧きました。実際にタイの工業大学でも同じことも学んでおり、工業の重要性を感じることができました。

今回の交流は、もっと英語で会話できるようになりたいと思うきっかけになりました。グローバルに活躍するためにも色々な外国語を勉強していく必要性を感じることができま

した。とても楽しい時間でもあり、またタイに行くことがあった時は友達に会いに行こうと思います。楽しい時間をありがとうございました。

### 3 企業見学

7月21日、7月23日にFANUC THAIさんと安川電機タイランドさんを訪問しました。

FANUCさんは、協働機械、協働ロボットの製品の開発を軸としていました。主にAIサーボチューニングというプログラムが基本で、これは組み込まれたプログラムを、複数のAIを利用し実行するもので、その技術、精度が高く、実際に機械やロボットを見せていただくことができました。滑らかに動くロボット、センサーによりある規定の圧力がかかると制止するロボットなどがあり、繊細な技術と安全性のレベルを見て驚きました。また、フィジカルAIについても教えていただきました。今の技術段階では動きはゆっくりですがプログラムを作らなくても、「～をして」と命令を入力するだけでAIが命令を分析し実行することができ、協働ロボットと作業できる技術があると知り、技術の進歩を学ぶことができました。

安川電機さんでは機械の技術や精度だけを追求するのではなく、機械を使用する時の安全性や、製品を使うお客様の意見をしっかり聞き、求められた製品を作ることを強く心掛けていました。“機械を使う上での心得”として、ロボットは人に多く貢献しますが使い方を間違えると取り返しがつかなくなるということを教えていただき、安川電機さんのような大企業でも基本に忠実であることがわかりました。機械加工や作業で印象に残っているものはアーク溶接です。すべて機械が自動で作業するのですが、その作業工程に自分が学校で学んだこととの違いがありました。1つ目はアーク光がとても小さい所です。溶接している所だけが小さく光り、スパッタもほとんど出ていませんでした。2つ目は仮止めが必要ないところです。自分の学校では、材

料を片手で抑えて目を閉じながら仮止めをしていましたが、その手間がないことに驚きました。ただ、学校で習っている基礎的な作業も使われていたので、しっかり学ぶことで役に立つと思いました。社員のみなさんが積極的に教えてくださり、たくさんの学びを得ることができました。



アーク溶接ロボット見学

#### 4 現地見学

現地の遺産、文化見学では全部で13カ所周りしました。13カ所すべて印象的でしたが、その中でも特に心に残った3カ所を紹介します。

##### 1 アユタヤ ワット・マハタート

アユタヤは研修前から事前に調べていましたが、実際に行くと思っていたよりもはるかに大きく、自然が綺麗でした。1767年に焼き払われたそのままの形が残っており、当時の戦争の様子がよくわかりました。石造や大仏など、昔の人がどうやって作ったのか、当時の技術と費やしていた時間を想像するととても不思議でした。大仏などの遺産もたくさん見ることができ勉強になりました。

##### 2 メークローン線路市場

タイのサムットソンクラームという場所にある世界的に有名な市場の最大の特徴は、狭い市場の中に鉄道が通っている所です。電車が近づくと放送が鳴り、お店の人たちが一斉にテントをたたみはじめ商品を片付け始めます。観光客や市場の人はお店の中や隙間に入り、電車がゆっくりと通りすぎるのを待ちます。中には飲み物や商品を買わないと中に入れてくれないお店があり、賢い商売をする人

もいました。市場では、スムージーなどの飲み物、生魚、果物、雑貨などたくさんの種類のものが売られていて楽しむことができました。本来なら、線路の上に市場があるというのは危険で、日本ではありえないことだと思います。けれど現地の人々は当たり前のように忙しく商売をしていて、日本との違いを大きく感じることができました。



##### メークローン線路市場

##### 3 ダムヌンサドゥアク水上市場

水上マーケットとも呼ばれている有名な市場で、私は市場までボートに乗って移動しました。市場に近づくと同じようなボートが何隻もあり、観光客などがたくさん乗っていました。ボートが到着すると川を挟んで様々な種類のものが売られていて、人々が集まり賑わっていました。売られているものはメークローン線路市場に似ていてほとんどのものが交渉性になっていました。実際に交渉してみても1200バーツのものが200バーツで買えたりして楽しかったです。ほとんどの人が初めは高めに値段を表示してきますが、タイの人はみんな優しい人ばかりでとても安くしてくれました。市場と市場の間には川が流れていて、雨で洪水になったときのために高床式になっているのが面白かったです。ここでの経験も日本ではできないと思うのですごく楽しめてよかったです。また、建築分野の勉強にも繋がりました。

タイの現地見学では日本との考え方、価値観が180度違うものばかりで楽しくすることができました。また、日本とタイ王国とでは距離も近い方ではありますが、国によって

色々な考え方があることも知ることができ、とても為になる時間を過ごすことができました。

## 5 研修成果

今回の海外研修で目標にしていた、3つの目標を十分に達成することができました。一緒に旅をした仲間と仲良くなり、いろんな経験を共にすることができました。現地の人と積極的に交流する中で、わからない言葉や会話には協力して解決し、学びを深めることができました。それにより、タイでの文化や価値観の違いを自分たちと照らし合わせ、グローバルな考え方を身につけ、多くの実体験をすることができました。これからもこの経験で得た、積極性とグローバルな考え方を将来に活かし、学び続け、より良い自分になれるよう励んでいこうと思います。人生においてとても良い研修期間になりました。

## 6 感想

第26回 高校生海外研修（タイ王国）に参加させていただきありがとうございました。推薦をしてくださった担任の先生はじめ、準備や手続きで動いてくださった学校の先生方、多くの応募者の中から選んでくださった全国工業高等学校長協会の方々、費用を負担してくれた両親。多くの方々の支えがあったからこそ今回のような経験ができたことに感謝しています。研修に参加する前は、全く知らない人たちと1週間生活することに不安がありましたが楽しみにしていたことも覚えています。7月18日はじめて顔合わせをしたとき、緊張感はなく、みんなも意外と柔らかい表情をしていて安心しました。みんなからたくさん話しかけてくれたおかげで初日から楽しく、地元の会話などがたくさんできました。飛行機に乗り、タイに到着してすぐ生ぬるい空気を感じました。バスに乗って移動しているとき、建物の大きさ、形、量が日本と大きく違い、その後向かったレストランも、匂いがすごくきつくてあまり食べられません

でした。けれど日がたつにつれて味覚も慣れてきて、タイ本来の味や香りを楽しめるようになりました。タイ2日目には船に乗り、周りにオレンジ色の服を着たお坊さんがたくさんいました。友達が腕をつかまれ追いかけてまわされていて、日本では見ることもない光景だったので面白かったです。水上マーケットやナイトマーケットなど色々なお店にもいきました。どこのマーケットに行っても、買ってほしいと腕や肩をつかんできたり、引っ張ってきたりされることがありました。ただ、値下げの交渉に応じてくれたり、サービスしてくれたり、と、友好的で優しい方が多く、とても楽しむことができました。そこも日本と違いがあり面白かったです。今回、タイ バンコクに行き、沢山の経験をし、日本との違いを学ぶことができました。グローバルな人材となる為には外国語の習得をはじめ工業の知識・技術を今一度、見直していきたいと思っています。また、AIやロボットを扱う為にもプログラムの習得も必要不可欠です。

このような素晴らしい機会を通して私は勉強の在り方を学べることができました。日本に住んでいるからこそ海外の事情や生活も間近に見ることができました。タイの方々の多くは人柄がよく、なにより毎日楽しそうに過ごされていました。私は、とても元気を貰えました。今度は色々な方々に元気を与えられる人を目指したいです。また機会があれば行きたいと思います。この思い出は絶対に忘れません。この経験はこの先必ず財産になると思います。これからも、将来の可能性を広げるためにもっと様々なことに挑戦しようと思える研修になりました。



水上市場

## 海外研修に参加して

愛知県立愛知総合工科高等学校  
理工科2年

### 1 研修目標

私は本研修に参加するにあたり、3つの目標を設定しました。1つ目は積極的に英語でコミュニケーションをとり、自分の考えを相手に伝える力を高めることです。2つ目は企業見学を通してタイの産業や技術、日本との違いについて理解を深め、今後の学習やものづくりに生かせる知識や視点を身に付けることです。そして3つ目は、海外研修で築いたつながりを一時的なものにせず、研修後も継続して連絡を取り合い、お互いの文化や考え方を学び続けられる関係を築くことです。

### 2 学校見学

今回は泰日工業大学を訪れました。この大学は日本のものづくりの考え方を取り入れた教育を行っており、工学部、情報学部、経営学部を中心に学ぶことができ、日本語や英語の教育にも力を入れていました。

現地ではプログラミングの講義を大学生と一緒に受けました。講義は全て英語で行われていたため、最初は内容を理解することが難しかったですが、周囲の大学生が丁寧に教えてくれたことをきっかけに多くの交流をすることができました。

また、この大学は工作機械や実習設備が充実しており、フライス盤などの機械が数多く設置され、学生が実際に機械を操作しながら技術を学べる環境が整っていました。キャンパス内にはバスケットコートがあり、学習だけでなくスポーツを通じた交流も盛んに行われていました。

さらに、日本語を流暢に話す学生が多く、日本とタイの関係の深さを感じました。私は将来進学を希望しているため、このような充実した設備や国際的な学習環境に魅力を感じ、進学先の一つとして関心を持ちました。

### 3 企業見学

ファナック Thai を見学しました。ファナックは「壊れない 壊れる前にすぐ知らせる 壊れてもすぐに直せる」という理念を掲げ、産業用ロボットや工作機械の制御装置を開

発・製造している企業です。

従来は人が機械を検査していましたが、ここでは機械が自動で製品の検査を行い、音声から AI がプログラムを作成してロボットを動かす技術を学びました。AI を活用してロボットを制御する先進的な技術があることに驚きました。

すべて自動化すればよいと思っていましたが、アーク溶接などの人の技術や判断が必要な工程も残っており、人によるものづくりの重要性も学ぶことができました。

続いて安川電機 Thailand を訪問しました。2004年に設立され、バンコクを拠点として活動しています。タイの製造業、特に自動車関連工場の自動化やロボット導入を現地で支えている会社です。

ここでは協働ロボットやアーク溶接を実際に行っている様子を見学しました。協働ロボットではペンダントやスマートモードを使用してロボットに作業を教えており、その際にペンダントとロボットの位置によってロボットの動きが変わることに驚きました。

また、アーク溶接専用のエリアがあり、そこには2台のロボットが設置されていました。同時に協働作業を行えるよう整備されており、溶接作業の学習やテストを実施できるようになっていました。

### 4 現地見学

タイの寺院や歴史的建造物を見学し、日本の文化や宗教観との違いについて学びました。日本とは異なり、黄金に輝く大仏や美しく装飾された寺院がとても印象的でした。タイで広く親しまれているピンクガネーシャを見学しました。ガネーシャはヒンドゥー教の神で、知恵や学問、成功の象徴として信仰されています。実際に見たピンクガネーシャは想像していたよりもはるかに大きく、鮮やかな色彩



ピンクのガネーシャ

と細かな装飾に圧倒されました。日本ではあまり見ることのない文化や宗教に触れることができ、異文化理解を深める貴重な経験となりました。

メークロン市場にも見学に行きました。ここでは市場の真ん中を列車が通るという、日本では見ることのできない光景を見ることができました。列車と自分との距離が10cmほどしかないくらい近く、大変迫力を感じました。



メークロン市場

また、バンコクでは高層ビルが立ち並ぶ都市部も見学しました。マハ・ナコンというタイで最も高いといわれているビルに登り、ガラス張りの高層ビル群やそこから見渡せる交通網を見て、タイが急速に発展していることを実感しました。その一方で、高層ビルだけでなく周辺には昔ながらの住宅があり、新しい街並みと古い街並みが共存していることが印象的でした。アユタヤ遺跡では栄えていたかつての王朝の歴史や文化を学びました。長い年月を経ても残るレンガ造りの遺跡からは、タイの歴史の深さを感じました。特に、ワット・マハタートという木の根に包まれた仏頭を実際に見ることができて自然と歴史が共存する独特な景観に感動しました。さらに遺跡内ではリスなどの動物を見ることができ、歴史的な建造物だけでなく豊かな自然にも触れることができました。

## 5 研修成果

現地の方と自分なりに英語で質疑応答することができ、知見を広げることができました。また、日本とタイの都市環境や人との関わり方の違いについて学ぶことができました。

また、学校や企業、市場などを実際に見学したことによって日本やタイの都市環境や産業、人との関わり方の違いを学ぶことができました。さらに現地の方だけでなく、他の国

から来た人たちとも交流をすることでそれぞれの文化や考え方を知ることができました。研修を通して、積極的に行動することの大切さも学びました。現在も連絡を取り合っており研修後も交流を続けながら異文化について学び続けることができています。今回の研修を通して研修目標として掲げていた3つの目標を全て達成することができました。英語で現地の方と積極的に交流することで、英語で伝えることへの自信ができました。また、学校や企業、市場などを実際に見学して日本とタイの産業や都市環境の違いを自分の目で確かめてより深く理解することができました。

## 6 感想

今回の研修を通して、海外研修ならではの数多くの経験を行うことができました。私はこれまで海外へ行った経験がなかったため、タイの人々の暮らしや市場、歴史的建造物、食文化など、目にするもの全てが新鮮でした。

バンコクへ行く前は、日本の三大都市のように建物が立ち並ぶ都市を想像していましたが、しかし実際には、高層ビルがある一方で木々や森などの自然も多く残されており、自然と都市が共存している様子に感動しました。

また、交通渋滞が激しく、1km進むのに約10分かかることもあり、日本との交通事情の違いが特に印象に残りました。

当初は初対面の人ばかりで不安でしたが、共に行動するなかで徐々に打ち解け、最終的には多くの人たちと親しくなることができ、多くの人たちと親しくなり、強い絆を築くことができました。

今回の研修で得た経験や知識を、クラスの仲間や後輩に伝えていきたいと思います。普段の生活では経験できないようなことを実際に海外で経験することで、必ず自分の成長になります。また、この経験を生かし、将来はグローバルな視点を持ったエンジニアとして成長していきたいです。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。この度は海外研修という大変貴重な経験をさせていただきありがとうございました。



## 海外研修に参加して

岐阜県立岐南工業高等学校  
機械科2年

### 1 研修目標

研修目標は2つがあり、1つ目は企業訪問や寺院見学で日本との違いを理解し、自分の成長につなげることです。2つ目は自ら積極的に異文化などを学ぶ姿勢を見せ、たくさんの新しいことを知ることです。全く知らない世界へ踏み込むので、より多くのものを持ち帰りたいと思い、この目標にしました。

### 2 学校見学

学校見学では、泰日工業大学を訪問しました。この大学は日本の産業界との連携を重視しているとのこと。日本語も多く学ばれている中で、英語での交流だったため最初は言葉に詰まり会話が続きませんでした。けれども交流を深めたい気持ちを持ち、コミュニケーションを図ることで、相手に気持ちが伝わり、授業見学や昼食時の交流も、楽しく過ごすことが出来ました。交流では、自分の住む地域のことや、趣味などを教えあうなどし、有意義な時間となりました。私が、羨ましく思ったところは、かんばん方式と、ジャストインタイムなどのトヨタの生産方式を取り入れ、学習できることです。私は、将来トヨタに入社したいと考えており、その点に特に、興味を持ちました。大学の雰囲気も良く、学ぶ環境もとてもいいと感じ、この大学で学んでみたいとも思いました。

ほかにも、施設見学をさせて頂き、実習棟の環境に興味を持ちました。そこにはトヨタさんから直接寄贈された車や、CNCの高価な工作機械などがたくさんあり、高校とは一段階レベルの違うことを学べることに魅力を感じました。

### 3 企業見学

今回の研修では、FANUC Thailandさんと、

安川電機さんを訪問しました。

FANUCさんでは、今主流の産業用ロボット、そして独自の保管方法などの貴重なお話を聞き、工場を見学させていただきました。特に驚いたことは、今までの自社製品のパーツや修理されたものがすべて保管されていて、今まで修理、交換ができなかったことがないということです。これは、FANUCさんが、「壊れない、壊れる前に知らせる、壊れてもすぐ治せる」という理念を持ち、他社とは違っており、とてつもない企業努力によって実現されていることなのかなと感じました。

安川電機さんを訪問した時は、お客さんにどうすれば満足してもらえるかが大切だということを知りました。例として、溶接ロボットについてお話を聞くことが出来ました。溶接の目標としては、いかにスパッタ(飛び散る金属の粒)を減らし、いかに早く正確に行えるかを狙っているそうです。解決するために、ロボットアームにモータをつけ、細かい制御をすることでブレを少なくするなど工夫がされていました。

また、自社で様々なロボットを所有しているため、管理がしやすいということも強みであると聞くことが出来ました。

ここでは、実際にロボットのプログラミングをさせていただいて、動かすことが出来ました。丁寧に教えていただいたのですが、とても難しかったです。

これらの二社は、どちらも産業用ロボットの最先端に行く企業さんであり、機械工学科の私としては、とても貴重で、良い経験となりました。今後は様々な場面で、ロボットと共に作業することが必要不可欠になってくると思われるので、その時には今回の見学で学んだことを存分に生かしていきたいです。

### 4 現地見学

現地見学では、様々な寺院や、アユタヤ、市場などを見学することが出来ました。

寺院巡りでは、ワットプラケオ、ワットアルン、ワットポー、ピンクガネーシャを訪れ

ました。この見学で疑問に思ったことがありました。それは、寺院や建物に様々な国の建築様式が使われていることです。タイの十文字式だけでなく、カンボジア様式や、ネパール式など、仏教にかかわる国々の建築様式が取り入れられていることに驚きました。この疑問の答えとして、私の考察は、タイは昔から周辺の国々と交流があり、お互いの文化や技術を取り入れながら発展してきたからだと思いました。

今回の見学で一番印象に残った場所は、アユタヤ遺跡です。アユタヤはかつて、世界貿易の拠点であり、国際都市的な発展をして、とても栄えていたそうです。しかし、ビルマとの抗争により破壊されてしまい、今では壊れた仏像や崩れたレンガの壁が並んでいます。これらは、どんなに栄えていたとしてもいつかは終わりを告げることを示しているのだと思いました。このことから、歴史を知ること、今ある文化や平和を大切にすることの重要性を学びました。

タイでは、見学だけでなく、市場やデパートにも足を運びました。アイコンサイアムは、タイの伝統と、現代の建築技術を掛け合わせた大型ショッピングセンターでした。タイについてから初めての買い物だったのでつい買いすぎてしまいましたが、とても楽しかったです。

また、メークローン線路市場や、ダムヌン・サドゥアック水上市場でも買い物を楽しむことが出来ました。



ワット・パクナムの前で

## 5 研修成果

今回の研修で文化の違い、企業や学校の違

い、タイの工業教育など、多くのことを学ぶことが出来ました。実際に現地の人と交流する中で、言語が違っても自分から積極的に行動することの大切さを実感しました。そうしたことでも私の未熟な英語でも十分コミュニケーションがとれたし、やさしく笑顔で接するというタイの方のいいところを見ることも出来ました。また、企業を訪問した際には、日系企業ということもあるかもしれませんが、工場があるわけではなく、主に販売や、保全に重点を置いていることを理解できました。今回の経験を通して、異文化への理解やコミュニケーション力、積極性を身に付けることが出来たと感じています。

## 6 感想

僕は今回の研修が初めての海外でした。そして、そのすべてが貴重な経験となりました。

これまで見てきたタイのイメージはもっと田舎で、まだまだ発展途上国であると考えていました。しかし、空港に降り立った瞬間からそれは大きな間違いだったと感じました。周りを見渡す限りのビル群、交通量の多さ、町の活気が見たことなかった新しい発見となりました。日本よりもタイのほうがいいところや、逆に日本のほうがいいところなど、世界に出てみないとわからないことがたくさんあり、いつもとは違う視点で見ることが出来ました。また言葉の通じない海外では、トラブルが多数ありました。けれどもそんな時、仲間にたくさん助けられました。やっぱり仲間の存在は大きいと感じ、これからもそばにいてくれる「仲間」を大切に、日々生活していきたいと思いました。

今回の研修で経験し、学んだことは、一生の財産となると思います。国際社会で活躍できるような人材となれるように今後も学び、考え、そして、努力していきたいと思います。

最後に、今回の研修の機会を与えていただき本当にありがとうございました。

## タイ バンコク研修

三重県立津工業高等学校  
電子科2年

### 1 研修目標

今回の海外研修では、タイの文化や産業、教育について実際に見学し、日本との違いや共通点を知ることが目標とした。インターネットや本などを使えば海外について多くの情報を調べることができるが、実際に現地へ行って自分の目で見たり、現地の人と交流したりすることでしか分からないこともあると思った。そのため、今回の研修ではできるだけ多くのことを自分の目で見て、実際に体験することを意識した。また、工業高校で学んでいる電気やプログラミングなどの技術が、海外の企業でどのように使われているのかを知り、将来の進路について考えるきっかけにしたいと考えた。さらに、現地の人との交流を通して外国語でのコミュニケーションにも挑戦し、自分自身の視野を広げることが目標とした。

### 2 企業見学

企業見学では、ファナックと安川電機を訪問した。ファナックでは、実際に産業用ロボットが動いている様子を見ることができ、ロボットが工場などの産業現場で重要な役割を果たしていることを知った。普段学校で写真や動画などで見ることはあっても、実際に目の前でロボットが動いているところを見ると、動きの速さや正確さをより実感することができた。

安川電機では、ロボットを動かすためのプログラムを自分たちで作成し、実際にロボットを動かす体験をした。自分たちが入力したプログラムによってロボットが思った通りに動いたことが特に印象に残った。学校で学んでいるプログラミングや電気、制御などの知識が、実際の産業現場でどのように活用されているのかを体験することができた。

今回の企業見学を通して、ものづくりを支えているロボット技術の重要性を知るとともに、工業の技術についてさらに興味を持つことができた。



安川電機の6関節ロボットを見学

### 3 学校見学

学校見学では、泰日工業大学を訪問し、学校の施設や学生の様子を見学した。日本の学校とは違った環境を見ることができ、タイではどのような教育が行われているのかを知ることができた。特に印象に残ったのは、現地の学生との交流である。学生の中には日本語を話せる人がいるだけでなく、英語も流暢に話せる人がいて、とても驚いた。英語にはタイ特有の発音も感じられたが、外国語を使って積極的にコミュニケーションを取っている姿が印象に残った。日本語と英語の両方を使って会話する学生を見て、外国語を学ぶことの大切さを実感した。また、日本とタイには学校や企業を通じたつながりがあり、技術や人材の交流が行われていることも知ることができた。

今回の学校見学を通して、海外の教育環境を見るだけでなく、自分も英語などの外国語をもっと勉強したいと思うようになった。

### 4 現地見学

現地では、タイの寺院を巡ったり、街中を実際に歩いたりして、タイの文化や生活の様子を見学した。寺院では、日本とは違った建物の造りや装飾を見ることができ、タイ独自の文化や歴史を身近に感じることもできた。写真やインターネットで見ることは違い、

実際にその場所に行くことで、建物の大きさや雰囲気なども感じる事ができた。

また、街中の様子にも日本との違いが多く見られた。特に電線が多く、複雑に張られている場所があり、日本の街とは大きく違うことに驚いた。家や建物についても、場所によってきれいなところとそうでないところがあり、地域による環境の違いを感じた。高速道路にはディスプレイが設置されているところもあり、日本とは違った道路設備を見ることができた。さらに、街中ではトヨタのハイラックスを多く見かけ、タイの車事情にも興味を持った。このように実際に街を見て回ること、ネットで調べるだけでは分からないタイの生活や文化を知ることができた。

## 5 研修成果

今回の研修を通して、インターネットや教科書で調べるだけでは分からないことを、実際に現地へ行って自分の目で見ることの大切さを学んだ。事前にタイについて調べていたが、実際に現地へ行ってみると、電線の張り方や家の造り、道路の設備、街を走っている車など、想像していたものとは違う部分が多くあった。自分で見たり、聞いたり、体験することで、より深くタイについて理解することができた。

また、泰日工業大学では現地の学生と交流し、外国語を使ってコミュニケーションを取る経験ができた。企業見学では、ファナックや安川電機で実際に産業用ロボットが動いている様子を見るだけでなく、安川電機では自分たちでプログラムを組んでロボットを動かすこともできた。この経験から、学校で学んでいる技術が実際の企業で使われていることを実感した。

さらに、タイの文化や産業だけでなく、日本とタイのつながりについても知ることができた。今回の研修を通して、実際に海外へ行き、自分の目で見て、現地の人と交流することで得られる学びはとても大きいと感じた。



FANUC での研修

## 6 感想

今回の海外研修は、自分にとって初めて海外で生活し、現地の文化や産業を直接見ることができた貴重な経験となった。研修前は、言葉や文化の違いなどについて少し不安もあったが、実際にタイへ行ってみると、日本とは違った街の雰囲気や文化を知ることができ、とても楽しかった。寺院巡りや街の見学では、日本とは異なる建物や電線、道路、車などを見ることができ、普段の生活では気づかないことにも興味を持つことができた。特に印象に残っているのは、泰日工業大学の学生との交流である。日本語を話せるだけでなく、英語も流暢に話している学生の姿を見て、自分ももっと英語を話せるようになりたいと思った。今回の経験をきっかけに、英語を勉強するだけでなく、将来は実際に海外へ留学して、外国の文化や技術をさらに学んでみたいという気持ちが強くなった。

また、今回一緒に研修に参加した全国の仲間と交流できたことも大きな思い出になった。住んでいる場所や通っている学校が違っていても、同じ研修に参加した仲間として一緒に活動することで、たくさんの刺激を受けることができた。

最後に、このような貴重な海外研修の機会を準備してくださった先生方や関係者の方々、現地で私たちを支えてくださった方々に感謝したい。今回の経験を一度きりで終わらせず、これからの学校生活や勉強、将来の進路に活かしていきたい。

## タイ王国での学び

京都府立工業高等学校  
環境デザイン科 2年

### 1 研修目標

日本のものづくりや工業技術への理解を深めるとともに、海外の文化や価値観に直接触れ、日本との違いや共通点を学ぶことを目的とする。また、異なる言語や文化の中での交流や経験を通して、自ら考え行動する力や柔軟な視点を養い、全国の仲間との学びを通じて視野を広げ、今後の学習や将来の進路に生かすことを目指す。

### 2 学校見学

学校見学では泰日工業大学を訪問しました。

泰日工業大学はタイのバンコクにある大学で、日本の企業と連携して、日本のものづくりや経営について教育が行われている学校です。キャンパス内には、たくさんの日本語の看板や本があり、大きな鳥居や橋などもありました。

実際に授業に参加させていただき、学生の皆さんと関わる時間をいただきました。泰日工業大学では、学生全員が日本語の授業を受けておられるので、話す際には、日本語混じりの英語でジェスチャーも加えながら私たちに伝わるように工夫して話してくださいました。タイでの普段の生活や、学校生活、授業内容について知ることができました。

キャンパス見学ではいろいろな機械が揃っていました。私達が実習で使う大きさから本当に工場などで使われている大きさの機械が整備されていて、その機械を使いこなすことが卒業後の現場での働きに繋がっていくかなと思いました。そして、昼食の時間では学生の皆さんと一緒にタイ料理のお弁当をいただきました。英語中心の会話の中で、お互いがそれぞれ伝えようと工夫して、コミュニケーションをとることができました。

大学生の方々との交流では、日本語を学ぶ

学生の皆さんが、笑顔で日本について話し、色々な日本文化に触れてくださり、自分の住んでいる国がこんなにも愛されているということに幸せを感じました。そして、その好きという気持ちから様々なことに挑戦されていて、素敵だと思いました。

### 3 企業見学

企業見学では、ロボットの販売・修理・メンテナンスなどを行っておられる FANUC と、同じくロボットの販売や開発を行っておられる安川電機を見学しました。

FANUC では、壊れない、壊れる前に知らせる、壊れたらすぐ直すなどの生涯保守を強みとされていて、いつの時代のロボットでも修理ができるよう、30年40年前のロボットの部品から、最新のものまで常備しておられ、お客様が使い続ける限り最後まで見届けるということを大切にしておられました。

ロボット販売では、ロボットの操作方法の研修から、ロボットのメンテナンス、そして保守と、最初から最後までサービスを展開しておられました。物は必ず壊れてしまうけれど、その壊れる前と後に注目してできる限りのサポートを最後まで行うと言っておられ、それが FANUC への信頼に繋がっていると感じました。



企業見学 FANUC

安川電機では、お客様が導入した際に使いやすいロボットということを大切にしておられました。

現在、増えている協働ロボットでは、マニュアルモードで、機械の力だけでなく手動で

アームの向きを変えられることができたり、リモコン操作に慣れていなくてもロボットを操作することができました。専門知識がなくても操作しやすく、導入しやすい、使いやすいロボットを実際に操作させていただきました。

技術というのは使い方や判断を間違えると命を奪ってしまったり傷つけたりしてしまうことがあります。それを踏まえて社会貢献につなげるという話を聞いて、これから様々な分野の技術が急速に発展していく中で、その技術の使い方や使われ方、活かされ方が大切になってくると感じました。

#### 4 現地見学

タイの暑さは、日本とはまた違ったものでした。ガイドの方に案内していただき、タイの文化や暮らしに触れ、寺院を訪れました。日本にビルが多いようにタイにもビルが多く、日本にお寺が多いようにタイにも多くの寺院がありました。しかし、同じビルでも見え方が違い、寺院も日本とは全く異なりました。

タイやカンボジアなどの東南アジアでは、寺院や僧院を「ワット (Wat)」と呼びます。現地では、多くの寺院を訪問しましたが、最も印象に残ったのは、暁の寺と呼ばれるワット・アルンです。

ワット・アルンには5つの塔があり、中心の塔は約75メートルあります。塔の表面は、中国から持ち込まれた陶器片のモザイクで装飾され、細かな模様が太陽の光を受けて輝く姿がとても綺麗でした。

また、ユネスコ世界遺産のアユタヤ遺跡を見学しました。アユタヤ遺跡は主にレンガで造られ、14世紀後半に建てられました。400年以上経った頃に戦争で被害を受け、その焼け跡や崩れた建物が残っています。切られた仏像の顔の部分を木の根が覆うワット・マハタートも見ることができました。

生活文化では、水上マーケットを体験しました。川の両脇に高床式の店が並び、水上ボートで向かいました。現地の人々は魚や果物、野菜などを購入しており、日本との文化の違い

いを感じました。

タイのお店は屋台のような形が多く、民芸品店では一点物の商品が目立ちます。独特な色使いや形が特徴で、同じ商品でも色や表情が異なり、どれも可愛かったです。



アユタヤ遺跡のワットマハタート

#### 5 研修成果

今回の海外研修を通して、タイの文化や生活習慣、価値観に直接触れ、日本との違いや多様な考え方を学ぶことができました。また、言葉や文化が異なっても、相手と関わろうとする気持ちがあればコミュニケーションを取ることができることを実感しました。さらに、全国から集まった仲間や先生方と交流し、協力しながら行動する力や主体性を身に付けることができました。

#### 6 感想

初めは慣れない環境や初対面の人との生活に不安もありましたが、仲間と支え合いながら充実した8日間を過ごすことができました。この研修での出会いや経験は、自分の視野を大きく広げる貴重な機会となり、自分の可能性や将来について考えるきっかけになりました。また、研修を支えてくださったすべての方々への感謝の気持ちを強く感じました。今回学んだことを今後の人生に生かしていきたいと思います。



## 技術は国境を越えて人と人を繋ぐ

京都市立京都工学院高等学校  
プロジェクト工学科2年

### 1 研修目標

今回の海外研修の目標は3つあります。1つ目はタイ王国の文化や生活様式を体感すること、2つ目は日本とタイ王国の「ものづくり」の違いからグローバルな視点を持つ技術者としての素養を身につけること、3つ目はタイ王国の都市のインフラや産業の現状を知り、工業技術を用いた大気汚染、渋滞などの社会課題解決への視野を広げること、です。

### 2 学校見学

大学訪問で泰日工業大学に行きました。はじめに現地の学生と一緒に授業を受けました。授業ではプログラミングの講義を受け言語の壁を超えて協力し合うことができました。学生との交流では英語を使つてのコミュニケーションだったため少し苦労することがありましたが、身振り手振りで意見交換をしました。また、昼食を一緒に食べることでさらに友情を深めることができました。現地の学生たちはとても優しく接してくれました。施設見学では、現地の学生が自分のやりたいプロジェクトなどが出来るように、とても充実した素材や設備が整っているということを知りました。



【大学見学】集合写真

### 3 企業見学

企業見学ではファナック Thailand Ltd.と安川電機タイランドを訪問しました。

ファナックでは日本で生産された製品を販売・保守を行っておりタイ王国のものづくりを大きく支えています。ファナックでは「一度販売した製品はお客様が使い続ける限り生涯保守する」という「サービスファースト」の精神を掲げています。様々な分野に合わせた産業用ロボットの製造を行っています。ロボットの中には人と協働作業ができる協働ロボットの製造にも対応していました。

安川電機では日本で生産された産業用ロボットなどの販売や技術のサポートを行っており、タイ王国の製造業の自動化を電気・制御の技術で大きく支えています。見学では溶接などを行うロボットが非常に精密なシーケンス制御によって高速かつ正確に動く様子を見学しました。さらに、現地で働く日本人エンジニアの方々との交流では言葉や文化が違うタイ王国の作業員の方々に技術を伝える難しさや、機械のトラブルに迅速に対応するプロとしての責任感についてお話を伺いました。日本とは違う環境で働くことの大変さとやりがいを知ることができました。

### 4 現地見学

バンコク市内では王宮やワット・プラケオを訪れ、壮大な建築に圧倒されました。ワット・アルンの緻密な装飾や、ワット・ポーの巨大な寝釈迦仏の迫力にも魅了されました。郊外ではピンクガネーシャの鮮やかさと現地の願い事文化に触れ、アユタヤではワット・マハタートなどの遺跡から歴史の重みを感じるとともに、日本人町跡で両国の深い繋がりを知りました。さらにメークローン線路市場では列車が通る一瞬の活気ある光景に衝撃を受けました。最後に訪れたマハナコン・スカイウォークのガラス床から見下ろす絶景からは、都市の急速な近代化を体感することができました。

### 5 研修成果

今回の海外研修で急速に発展するタイ王国の現状を体感し、将来グローバルに活躍で



【企業見学】協働ロボット

きる技術者としての視野を広げることを目標にしました。企業や大学訪問、そして現地の文化見学を通じ、私たちは学校の教室だけでは得られない数多くの貴重な成果を上げることができました。

企業見学では日本の優れた技術や産業用ロボットが、タイ王国の自動車産業をはじめとするものづくりの現場を強力に支えている実態を目の当たりにしました。自動車の溶接や部品搬送を行うロボットの超高精度な動きに深い感銘を受けました。同時に人件費の高騰や生産性向上というタイ国内の課題に対して自動化が不可欠であること、また、製品を売るだけでなく現地での手厚いメンテナンスや技術トレーニングといった「サービス」の充実こそが企業の信頼を生んでいることを学びました。これにより、日頃学校で学んでいる機械や電気、プログラミングの知識が社会を支える技術に直結していると思いました。

次に、日本のものづくり精神を教育方針に掲げる大学訪問では、同世代の現地学生との交流が大きな刺激となりました。実践的な開発プロジェクトに取り組む学生たちの技術に対する高い熱量に触れ、技術者としてのライバル意識や尊敬の念を抱きました。また、英語や日本語を交えた意見交換会では、「自分の考えを相手に伝えること」の難しさと重要性を痛感しました。専門的な技術力だけでなく、世界を舞台に働くためには語学力とコミュニケーション能力が不可欠であるという気づきは、今後の高校生活における姿勢を大きく変えるきっかけとなりました。

さらに、市場や市内、文化施設の視察といった現地見学では、タイ王国の大きな経済成長と、古くから大切にされている仏教文化の調和を体感しました。日本とは異なるインフラや交通事情、生活習慣に直接触れることで、文化の多様性を受け入れる柔軟な国際感覚を養うことができました。

## 6 感想

今回の海外研修は、私にとってこれまでの人生で最も刺激的で、視野が大きく広がる経験となりました。日本から一歩外に出ることで、学校の授業だけでは決して実感が湧かなかった「世界のなかの日本のものづくり」を肌で感じることができました。特に印象に残っているのは企業見学です。工場の中で、私たちが普段学校の課題で扱っているプログラミングや制御の技術が、何倍ものスケールになって自動車の溶接や搬送ロボットを正確に動かしている姿に圧倒されました。日本の技術がタイの産業発展にこれほど深く貢献していることを知り、高校で学ぶ自分の専門分野に対して、これまでにない大きな誇りと責任感を持つようになりました。また、現地で働いている人が誇りを持って日本の機械をメンテナンスしている姿を見て、技術は国境を越えて人と人を繋ぐものなのだと感動しました。さらに大学生たちが熱意を持って最先端の研究に取り組む姿に、強い刺激を受けました。交流会では英語で思うように意思を伝えられず悔しい思いをし、世界で活躍するには技術だけでなく語学力や対話力が必要だと痛感しました。また、市内見学では高層ビルと伝統寺院が共存する独特の熱気に触れ、文化の違いを楽しめる柔軟性の重要性を学びました。

この研修を通じて「将来、世界を舞台に活躍できる技術者になりたい」という具体的な夢が見つかりました。タイで触れた最先端ロボットや学生たちの熱量を忘れず、これからは専門知識の習得に加え、苦手だった英語の学習にも積極的に挑戦し、日々の学校生活をより一層充実させていきます。

## 海外研修に参加して得たもの

大阪府立都島工業高等学校  
建築科 3 年

### 1 研修目標

この研修ではタイの建築について学び、日本との違いや特徴を実際に見て現地の方から話を聞いて学ぶことを目標にしていました。また、他の工業高校生と関わる機会が少ないため、この研修で全国の工業高校生と普段の授業や進路について話し、交流を深めたいという 2 つの目標をもって研修に参加しました。

### 2 学校見学

訪問させていただいた泰日工業大学では、英語での体験授業、大学内の施設見学などをしました。そして昼食の時間では、大学生とたくさん交流することができました。多くの学生が日本の文化についてよく知っておりアニメや日本食の話題で盛り上がることができました。また、大学生と打ち解けて交流することでタイの文化や習慣についても学ぶことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。大学内の見学では、学生の皆さんが制作したロボットやプロジェクションマッピング、実際に使用されている機械設備、図書室などを見て回りました。その中で、図書室で自習をしている学生が多くいたことが特に印象に残りました。泰日工業大学では、英語に加えて日本語や工業分野に関する専門的な学習など、幅広い分野の学びに力を入れていることを知りました。そのような環境の中で、学生の皆さんが自主的に学習に取り組んでいる姿から、学習に対する意識の高さを感じ、とても感心しました。

### 3 企業見学

企業見学では FANUC と安川電機の 2 社を訪問しました。FANUC では、会社説明を受けた後工場内を見学し、部品を保管する倉庫やお客様向けの講習会を行うところを見ることができました。この会社は製品に必要な部品を自社で製造しているため、製品を長く使えるだけでなく故障した際にも早く復旧できる体制にも力を入れていました。こうしたサポートでお客様を大切にする姿勢がすごく印象に残っています。

安川電機では、実際にロボットを動かすプログラムの作成を体験し、ロボットによる溶接作業などを見学しました。

普段の建築科の授業では機械を扱う機会が少ないため、実際にロボットを操作する今回の経験は非常に貴重な学びとなりました。



プログラムの制作体験

### 4 現地見学

この研修では数多くの歴史的建造物や博物館の見学、水上マーケットや市場で買い物をするなど様々な経験をしました。中でも学びが大きかったのは歴史的建造物の見学とバスの移動中に見たタイの街並みです。タイの歴史的な建造物は石やレンガを使ったものが多く、木材を多く使う日本の建築物とは全く異なる材料が使われている

と学びました。加えて、タイの多くの寺院には金色の装飾や細かな彫刻が施されており日本と異なる雰囲気を感じられました。特に、スコール前の曇り空の下で見たワットプラシーサンペットはとても印象に残っています。寺院の歴史的構造物と周囲の自然が調和しているように感じられ、晴れた日とはまた違うであろう落ち着いた雰囲気を味わうことができました。

研修前に調べていた情報では、研修期間は雨期にあたるため雨への対策をした方がよいと知りました。しかし、実際に雨にあたったのは数回だけでほとんど晴れていました。雨に降られる機会は少なかったものの、現地の気候を肌で感じる事ができ、貴重な経験となりました。

さらに、バスから見たタイの街並みでは、近代的な高層ビルと古くから残る住居が共存している様子がとても印象的でした。現地見学からは教科書だけでは知ることのできなかったタイの気候や発展した様子、伝統的な暮らしなどを知ることができました。



スコール前のワットプラシーサンペット

## 5 研修成果

私は研修に参加するまで、一人で慣れない環境に飛び込んで新しいことに挑戦する経験があまりなく、自分から積極的に行動するタイプでもありませんでした。そのた

め、この研修の参加には不安と緊張がありました。しかし、実際に参加してみると不安よりもっと知りたい、もっと挑戦したいといった探求心の方が強くなり、自分から積極的に人に話しかけたり交流したりすることができました。この変化は自分にとって大きな成長だと感じています。

## 6 感想

建築を学ぶ学生として、タイと日本の建築の違いについて考えられたことは大きな学びとなりました。また、自分が関心を持ったことについて、同じ建築分野を学ぶ学生と意見交流ができたことがすごく楽しかったです。自分とは異なる視点や考え方を知ること、新たな発見を得ることができ、建築をより広い視野で考えるきっかけにもなりました。他の工業高校生と交流するという目標を達成した一方で、新たな目標もできました。それは、英語を習得することです。簡単な単語を並べて意思疎通はできたものの、自分の考えやさらに詳しい質問はできませんでした。もし英語で自分の考えを伝えられれば、より親交を深め、多くのことを学べたのではないかと思います。この研修で得た経験や新たな視点をもとに、今後はさらに英語の学習に積極的に取り組みたいと思います。そして将来は、文化の違いを越えて、さまざまな人と意見を交わせるようになりたいです。

今回の研修を通して、普段の生活では絶対に経験できない多くの学びや気づきを得ることができました。このような経験ができたのは、研修に関わってくださった方々の支えと一緒に参加した仲間が存在があったからです。研修を支えてくださった皆様、共に貴重な時間を過ごした仲間には心から感謝しています。

## 初めてだらけの海外研修

岡山県立笠岡工業高等学校  
電気情報科3年

### 1 研修目標

私は今回の海外研修に参加するにあたって3つの目標を立てました。1つ目は「タイの文化や産業に触れるとともに、海外ならではの価値観や生活の違いを学ぶこと」、2つ目は「日本語が通じない環境でも積極的に行動し、身振り手振りも使いながらコミュニケーションを取ること」、3つ目は「タイの自動車産業や産業用ロボットの活用など、工業分野での最先端技術を学ぶこと」です。私はこれらの目標を意識しながら研修に参加しました。

### 2 学校見学

学校見学では泰日工業大学を訪問しました。大学では多くの学生が日本語を話し、日本の漫画や雑誌なども数多くあり、日本とのつながりの深さを感じました。学生の中には日本語検定1級を取得している方もいるようで日本人でも難しいと聞くので驚きました。

大学ではまず授業参加をし、現地の学生と二人一組でプログラミングを学びました。授業は英語で進められるので理解するのが難しかったのですが、学生が日本語を交えながら丁寧に教えてくださり、安心して取り組むことができました。

次に昼食を食べながら学生と交流をしました。最初は緊張していてなかなか話しかけることができませんでしたが、日本のアニメや音楽の話題で話が進み、一気に距離が縮まりました。また、日本文化や岡山県の魅力を紹介し、タイの文化や学生生活についても教えてもらいました。英語での会話は不安でしたが、完璧な英語よりも、伝えようとする姿勢が大切だということを実感しました。

最後にキャンパスツアーをしました。キャンパス内は日系企業と関係するものが多くあり、トヨタ生産方式（TPS）やパナソニック

製造ラインを体験できるような設備がありました。多くの機関から期待されていることがわかり、名前の通りタイと日本の懸け橋になる学校だと思いました。

### 3 企業見学

今回の研修では2つの企業を訪問しました。1社目はファナックタイ社です。ファナックタイ社では日本で生産された自社製品の販売と保守が行われています。今回は展示ルームと保守部品倉庫の見学を行いました。ファナック社は「生涯保守」を掲げており、製造中止の製品でも修理をすることができます。これを可能にしているのが保守部品倉庫で、古い部品から新しい部品まで保管し続けているため今では外部に倉庫を借りないといけないほどの量になっているそうです。

2社目は安川電機タイランド社です。こちらもタイでは販売とサービスが行われています。今回は3種類のロボットについて主に学び、実際に操作と、アーク溶接の様子を見せていただきました。私はロボットに触れるのは今回が初めてだったのですが、職員の方が丁寧に教えてくださり、操作することができました。ロボットは、細かく動作する点を1つずつ指定していくことで、最終的に一連の線の動きになるように感じました。

私が2社を訪問して感じたことは、ロボットが誰でも扱いやすくなっていることです。以前は専門知識が必要という印象でしたが、現在ではロボットを手で動かして動作を教えたり、音声入力でAIがプログラムを作成したりする技術も活用されています。今後は専門技術者だけでなく、多くの人がロボットを活用できる時代になると感じました。

### 4 現地見学

現地見学では王宮や寺院、タイ特有の市場などを訪れました。特に印象に残っている場所はワット・マハタートとメークローン線路市場です。ワット・マハタートではほとんどの仏像は戦争によって頭が壊され持ち去られており、その悲惨な歴史を感じました。ま

た、木の根に包まれた仏頭も見ることができました。破壊された遺跡と力強く根を張っている自然の対比でとても神秘的でした。

マーケット線路市場には魚や肉、野菜などが並び、初めは独特なおいに慣れず、日本とは異なる雰囲気を感じました。そして、列車が近づくと、お店の人たちが素早く商品や屋根を片付け、列車が市場の中を通過する様子はとても迫力がありました。市場では買い物も楽しみました。なんととっても醍醐味は値切り交渉です。多くのお店は対応してくれ、逆に呼び込みで先に値引きしてくれるところもありました。私が思うコツは「複数個買う代わりに下げてほしい」と交渉することです。



ワット・マハタート仏頭



アイコンサイアム

## 5 研修成果

今回の海外研修を通して、海外の産業や文化を実際に見て学ぶことで、国際的な視野を広げることができました。特に企業見学では、ファナック社や安川電機社などの日本企業がタイで事業を行っていることを知り、日本の工業技術が海外の産業にも貢献していることを実感しました。また、学校で学んでいる専門的な知識や技術が、実際の企業や社会の中でどのように活用されているのかを知ることができ、普段の学習に対する意識も変わりました。

そして自分自身の成長も感じられました。今回の研修をきっかけに、外国語に対する苦手意識を減らし、積極的に外国の人とコミュニケーションを取ってみようという気持ちが強くなりました。これからのグローバルな時

代に向けて、専門的な知識や技術だけでなく、英語などの語学力と、自分から相手に伝えようとするコミュニケーション能力を高めていきたいです。

## 6 感想

今回の海外研修を通して、タイの文化や産業を学ぶだけでなく、実際に現地で生活することで、日本との日常生活における多くの違いを肌で感じることができました。

タイに到着してまず感じたことは気候の違いです。日本とは異なる特有の暑さと湿度があり、外を歩くだけでも想像以上に体力を使いました。また、街中を行き交う膨大な数のバイクや車、日本とは大きく異なる交通の流れや道路の使われ方にも驚きました。日本では交通ルールが守られている環境を当たり前のように捉えていましたが、海外を経験したことで、日本の交通環境がいかに安全に保たれているかを実感しました。現地での経験は、日本での生活では見えてこなかった自国の良さや便利さを再認識するきっかけとなりました。同時に、異なる環境の中で暮らすタイの人々の文化や価値観に触れ、自分の中の「当たり前」が世界共通ではないことを学びました。

この研修で日本各地から集まった仲間たちと出会えたことも、私にとって大きな財産です。普段なら交わることのなかった仲間と、タイという特別な環境で生活をし、同じ経験を共有できたことはかけがえのない思い出です。お互いの学校生活や将来について話す中で、自分とは違う考え方や目標を持っている仲間から多くの刺激を受けました。

最後に、この貴重な研修の機会を与えてくださった全国工業高等学校長協会の皆様、サポートしてくださった先生方、現地で支えてくださった皆様、そして研修を応援してくれた家族に心から感謝申し上げます。今回出会った仲間との絆を大切にしながら、この研修で得た学びを今後の学校生活や将来に生かしていきたいと思います。

## 第 26 回高校生海外研修に参加して

山口県立下関工科高等学校  
建設工学科 2 年

### 1 研修目標

異なる文化や価値観をもつ現地学生や同行の生徒と積極的にコミュニケーションをとり交流を深め、新しい考え方や視点を学び理解を深める。

タイ王国の建築物の色彩やデザイン、街並みなどを日本のものと比較しながら学ぶ。

### 2 学校見学

7 月 22 日に見学した泰日工業大学では、最初にプログラムに関する授業体験で大学生と共に学習しました。

昼食時の交流では、大学生の方と自己紹介の後、用意してくださったお弁当を共に頂きました。とても日本に興味を示してくださり、互いの国について質問し、文化の違いや意外な共通点について知ることができました。

日本では、行った研究は学校全体の成果ですが、タイの学校では、行った研究は学生のもものとされます。教職員や学生が共用の部屋を競うように借りて学習しており、学生の自主性をより重んじる校風があって自由度が高いと感じました。

### 3 企業見学

企業訪問では、7 月 21 日にファナック・タイ株式会社を、7 月 23 日に株式会社安川電機・タイを、それぞれ訪問させていただきました。どちらの企業もロボット製造に力を入れておられます。

ファナック・タイは地域に寄り添った在庫整理で、どんなに昔の製品でも修理することが可能で、壊れたら使えなくなる製品がないようにするという持続可能な考え方を大切にされています。組み立ても独自の技術でそれぞれ行われ、部品は日本から輸入されたものがほとんどです。タイでも日本の技術が役に

立っていることがわかりました。

株式会社安川電機・タイは省エネや SDGs の理念を大切にしておられると感じました。特に多くの電気を使うモーター関連の製造において、電気効率の良いものに、自社で開発し改良していくことで、省エネに貢献していることを知りました。協働ロボットは、人と共に働く作業スペースを共有するロボットで、人の動きを学習し、人の動きを反復し単純作業を続けることができます。人はロボットにはできない作業を行います。

私はあまり機械に詳しくなかったのですが、協働ロボットや単純作業を速く行えるロボットには、産業としての可能性を感じました。

### 4 現地見学

バンコク市内・郊外の見学をしました。

寺院、王宮など歴史的建造物の見学では、色が意味を持ち、色の調和・組み合わせを重視するタイの文化があり、日本とは異なった建築物の色彩がとても興味深かったです。建築物の形はタイの様式を基本に、多くの国の様式を取り入れたものになっています。これは古くから他国と交流し、互いに支えあっていたからです。



ワット・ポー

バンコク郊外のアユタヤ遺跡では、タイの昔の姿がそのまま残っていました。日本人村などでは日本に関しての文化やタイから見た日本の印象も感じられました。

バンコク国立博物館ではアユタヤ時代の歴

史や日本との交流の歴史を学びました。日本とタイの様々なつながりを知ること、さらに興味が深まりました。

## 5 研修成果

タイの住宅建築は日本のように大きな二階建てではなく、平屋の家が多いように感じました。タイも日本と同様に気温が高く多湿な国なので、昔ながらの高床式の家も見ることができ、色合いも鮮やかで普通の家の中に宗教関連のものが豪華に飾られていて、そのつながりを感じることができました。

大学でのエアコン設備や工場内、バンコク市街・市内でのLEDの普及の状況などを主に見ていましたが、徐々に工場での機械や電気、情報などあらゆるものが組み合わさってできていることを目で見えて感じて、建築だけでなく様々な観点で見学、学習をして、さらに考え方が広がりました。

バンコク市街地は、ここ20年で大きく発達したと聞いた通り、高いビルが建ち並ぶ横に、住宅や公園のようなものもあります。現在開発中のような光景も多く見られます。道路には日本より大きな広告看板が多くあります。広告看板の規制の違いを知りたいと思いました。ほかにも電線が乱雑であったり、原付バイクに何人も人が乗っている光景は、なかなか想像しがたく、百聞は一見に如かずという言葉を実感しました。

私は初めての海外で、英語でのコミュニケーションに慣れていなかったため、最初は話が通じなかったらどうしようなど、不安が多くありました。実際に行ってみると意外と日本語が通じ、身振り手振りでのコミュニケーションができました。不安になりすぎたなと感じました。

値切り交渉は、現在の日本にはあまりない風習なので難しかったのですが、なんとか皆で工夫しあい、実際にやってみて、とても勉強になりました。仲間と工夫し、助け合う協調性などを、思わぬ形で学べたと思います。

大学生・大学関係者、企業関係者のみなら

ず現地の方と話し、同行生徒・教職員と積極的にコミュニケーションをとり、異国の文化や考え方を共有することで、私自身の考え方を改めて確認し、目標とする、視野の広い建築家への大きな一歩にできたと感じました。

本研修では、普段気がつかないような観点でものを見ることが多く、これは普段の日本では得られない貴重なものだと感じました。

## 6 感想

一週間という限られた期間の中で、タイを理解し、日本のことを伝えて、さらには日本の仲間と打ち解けあうのは、とても難しいと思っていましたが、皆様良い方ばかりで、結団式前から仲良くなれたり、同室の人も互いを尊重してくれたり、温かみを感じることができました。



ワット・プラケオでの集合写真

海外研修での見学や体験を通して、新しい考え方や視点を学び、理解を深めることができました。この経験を生かして、友人などと共有しながら、これからの学校生活や進路および将来に役立てていきたいと思います。タイの大学の方や企業の方、同行生徒や教職員の方など、関わった方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 初めての海外研修

高知県立高知工業高等学校  
土木科2年

### 1 研修目標

タイの人達と交流し、日本とタイとの文化の違いを学ぶ。

街並みや建物を見学し、インフラ整備の違いを学ぶ。

### 2 学校見学

学校見学では泰日工業大学を訪問しました。大学では、キャンパスツアーで校内を見学したほか、授業への参加を通して、泰日工業大学の学生と交流しました。

キャンパスツアーでは様々な学科の授業施設を見学しました。企業と提携しているため非常に充実した設備環境が整っており、私の学校では見たことのない機械や、壁全体がデジタルアートで囲まれた部屋などがあり、とても驚きました。



泰日工業大学の設備施設

参加した授業は、専門的な内容を英語で進めていたため非常に難しかったです。交流した学生達は、日本のアニメや音楽に興味を持って学びに来ている人が多く、アニメの話をしたりしてとても楽しかったです。昼食の交流ではタイの学生の間で今何が流行っているかなどを話して楽しく交流し、仲良くなることができました。最後に私の地元とポケモンがコラボしているお菓子をプレゼントすると、とても喜んでくれました。

### 3 企業見学

企業見学ではFANUC社と安川電機を訪問しました。最近協働ロボットを取り入れていると知り、人の働き口が減らない仕組みが非常に素晴らしいと感じました。特に人に当たった時に自動的に止まる技術には驚かされ、他の機械にも取り入れてほしいと思いました。FANUC社の「ロボットは部品を永久保証する」という企業理念も印象的でした。実際に部品が置かれている倉庫に行くと30年前の部品などが綺麗に保管されていました。

安川電機では、説明を受けた後にアーク溶接の実演を見学したり、実際に自分たちで簡単なプログラムを組んでロボットを動かしたりしました。説明は専門的で難しかったのですが、電機や機械だけでなく、土木業界など様々な業界とも関係していることが分かり、多くの技術が融合して社会に貢献していることを知ることができました。アーク溶接の実演では、とても精密な溶接の技術に驚かされましたが、それでも職人の技術には届かないため、3Dスキャナーなどを取り入れて改善していきたいとおっしゃっていました。ロボットの操作体験では、アームロボットを動かしました。初めてプログラムを組んで自分で動かしてみましたが、思ったより操作が分かりやすく、すぐに使いこなせそうだと感じました。また操作機器についているハンクラという安全装置は、人間の反射行動に基づいて作られていると聞き、ケガをしないように工夫されていて驚きました。両社の企業訪問を通して、これまで深く考えてこなかった分野の知識を得ることができ、新しい視点を見つけるのにとても役に立ちました。



安川電機・FANUC社のロボット

#### 4 現地見学

現地見学では、初日から王宮、ワットプラケオ、ワットアルン、ワットポーなどの寺院を訪れました。どれもガイドブックで見て楽しみにしていましたが、実際現地で実物を見ると、建物の大きさ、細かい彫刻、描かれた壁画にそれぞれ意味があることなどを知り、とても興味深く、もっと見ていたいと思いました。

驚いたことのひとつに、タイでは個人の生まれた曜日毎に色が決められているようで、現国王が月曜日生まれであることにちなみ、王宮の屋根が黄色く塗られていました。

国民の約94%が仏教徒のタイでは、どこの寺院でも現地の人々が花などを供えて熱心に参拝している姿が見えました。特にガイドさんのお話で、女性は僧侶に触ってはいけないことなどを知り、文化の違いに驚きました。

仏像も想像以上の大きさで、金で覆われた仏様や涅槃像、象の頭のガネーシャや蛇の形の水の神様など多くの神像がありました。ワットサマーンでは巨大なピンクのガネーシャ像があり、通常の3倍の早さで願いが叶うそうなので、私も願い事をしてきました。



王宮ワットプラケオ

水上マーケットや線路市場などの日本にはない商店街やアイコンサイアムでの買い物はとても楽しく、特に日本と違い値切り文化があるのが面白く、買う時にタイの人達と言葉を交わしながら交流したり、友達と一緒に巡ったりするのが楽しく、また行きたいと思いました。

街並みを見ていると、土地の影響か、道路を人為的に真ん中だけ膨らませて水が溜まりにくいように工夫されていました。特に驚いたのは電線とトイレです。電線はタコ足配線で火災が

起きそうなほど乱雑になっていたし、電柱は折れたまま放置されている場所を何箇所か見かけました。トイレは、タイでは便器の横に桶があり自分で水を汲んで流すところが多くあり、文化の違いを実感でき、興味深かったです。



電柱と電線

線路市場

#### 5 研修成果

現地での見学や人々との交流を通して、仏教に対する熱心な信仰心や人柄の良さ、本場の辛い食文化など、多様な文化を学ぶことができました。また街並みを見ることで、電柱や電線、トイレなどの生活インフラの現状を知り、日本との整備環境の違いや課題を肌で感じることができました。

#### 6 感想

今回が初めての海外経験ではありませんでしたが、全国から集まった学生たちだけでの海外研修だったので最初は不安がありました。しかしすぐに周囲と打ち解けて新しい友人もでき、非常に充実した楽しい研修になりました。

企業訪問では学校で見たことのない機械があり、普段の授業では学べない専門的なことを知る良い機会になりました。大学訪問でも現地の学生と仲良くなれて、趣味の話などで盛り上がったのが楽しかったです。言葉が通じず、現地の人とのコミュニケーションには苦労しましたが、文化の違いを肌で感じることができ、貴重な経験になりました。この研修を通して、視野を広げ、知識をより深めることができました。

私にとって大きな成長の機会となる大変貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

## 海外研修に参加して

佐賀県立鳥栖工業高等学校  
土木科 2年

### 1 研修目標

私は、今回の海外研修で次の3つを目標とした。①現地の文化や生活の違いを実際に体験し、日本との違いを学ぶ。②積極的に現地の人や他の参加者と交流し、コミュニケーション能力を高める。③海外での生活を体験し、自分で考えて行動する力を身につける。

### 2 学校見学

研修5日目に泰日工業大学を訪問した。泰日工業大学は2007年6月に設立し、日本との係りが深く、安倍元首相とも関わりのある大学だと知ることができた。また、日本の漫画や小説が図書室にあり日本との結びつきを感じた。昼食の際には大学生の方といろいろな話をすることができたが、英語やタイ語をもっと話せたら、さらにいい交流ができたのと思った部分もあったので、これをきっかけに英語やタイ語を勉強したいと思った。フリースペースでは、自習をされている方や休憩されている方もいて日本とは少し違う一面を見ることができた。



安倍元首相と泰日工業大学の関わり

### 3 企業見学

企業見学では、FANUC THAI LIMITED と安川電機を訪問した。

FANUC THAI LIMITED では協働ロボットなど、人とロボットが一緒に働くための技術について学ぶことができた。人がロボットに接触した場合には、自動的に機械が停止する安全機能が備わっており、安全性の高さを実感することができた。また、世界初の協働ロボットを開発した会社であることも知った。

さらに FANUC のロボットは NISSAN などの自動車工場でも活用されており、製造現場の自動化や生産性の向上にも大きく貢献していることを学ぶことができた。

次に訪問した YASKAWA ELECTRIC の本社は福岡県北九州市で1915年に設立された企業であり、産業用ロボットやサーボモータなどの開発研究を行っている。今回訪問したタイ工場では、産業用ロボットのデモンストレーションを体験し、実際にロボットがアーク溶接を行っているところを見学することができ、高い技術力と自動化の技術について学ぶことができた。従業員さんのなかに佐賀県出身の方がいて、地元話で盛り上がることができ、とても親近感を感じた。

### 4 現地見学

現地見学では、様々な寺院やアユタヤ遺跡などを見学した。ワット・ポーやワット・パクナムではタイ独自の建築や仏教文化に触れることができ貴重な経験となった。ワット・ポーは全長46mの黄金の巨大な涅槃像で知られ、ラーマ三世により造立された仏像の足の裏には108の図が描かれ、実際に見てその壮大さに圧倒された。

ワット・パクナムはアユタヤ時代に創設された寺院であり、5階に上がるとグリーン天井画があり、周りには僧侶の絵が描かれており、ものすごい迫力だった。

アユタヤでは、博物館の中で日本の歴史とタイの歴史を学ぶことができ、外には日本ならではの風鈴や提灯が置かれていて、タイから日本について学ぶことは、日本で日本の歴史を学ぶこととは違う体験だった。アユタヤ遺跡ではかつての王朝の歴史や遺跡群を見学

することができた。遺跡に残る仏塔や寺院跡からは当時の繁栄や戦乱の歴史を学ぶことができ、タイの文化の深さを学ぶ貴重な経験となった。また、広大な遺跡群を実際に歩くことで、教科書などでは得ることができない建物の偉大さや、歴史の重さを感じた。

メークロン市場では、線路上に広がる市場という日本では見ることができない光景を見学することができた。列車が通過する度に、素早くお店の人が商品や日よけを移動させている姿を見て、普段からこのようにしていると考えると現地の方々の適応力には驚いた。自由時間ではタイパンツやブレスレットを購入することができ、値段交渉には苦戦し、日本とは違う文化で慣れない部分もあったが、貴重な体験となった。

最終日にはマハナコンタワーに行って透明なガラス床の上を歩くことができ、始めは怖かったが、それよりも景色がすごくて、怖いことも忘れるほどであった。



メークロン市場の様子

## 5 研修成果

海外研修を通して、研修目標である、積極的にコミュニケーションをとるという目標を達成することができた。また、タイの文化や歴史、産業について幅広く学ぶことができた。

現地の方々との交流や施設見学を通して、日本との生活の違いを知り、異文化を理解する大切さを感じることができた。また、慣れない環境の中で行動すること、自分から考え

て行動する力や周りとの協力することの大切さを学ぶことができた。

## 6 感想

今回の海外研修を通して、一番の思い出はタイ料理で、個人的にはタイスキが一番おいしかった。タイ料理は酸味と辛みの調和がとれている料理が多くて、普段から辛い物を食べないので、普段感じるすることができない、海外の伝統的な料理を自分の舌で体験することができてよかった。

タイの道路や電線などといった、社会基盤をよく見ると、日本との違いが多く、日本の方が進歩している部分もあり、また、日本の渋滞とは規模が違って驚愕した。

海外研修が近づくにつれ、緊張感が高まり、本当に自分が県代表で行っていいのかと思った日もあったが、今回の研修を体験して本当に良かったと思う。企業見学では機械系が多く、土木科の自分には新鮮味があり、とても貴重な体験だった。

今回の研修で学んだことをこれからの学校生活や卒業後の進路に生かしていきたい。

～Memorial photo～

7月23日(木)

安川電機タイランド・アユタヤ見学



## 海外研修に参加して

長崎県立長崎工業高等学校  
建築科2年

### 1 研修目標

「タイでの生活や建築見学を通して、異文化理解と多角的な視点を養うと共に、親元を離れた環境でも主体的に行動する」が私の研修目標でした。

### 2 学校見学

学校見学では、泰日工業大学を訪問しました。キャンパス内にはカフェがあったりサッカーをする学生がいたりして、とても賑やかでした。学校説明のあと、学生と交流をしました。最初はとても緊張していましたが、両隣に座っていた学生の方々と自己紹介をし合ってから、どんどんリラックスして話せました。二人とも日本語が上手で気づけば日本語で会話をしていたので、私は自分の英語の力を試したくて、できるだけ英語でコミュニケーションをとるように意識しました。また、日本の文化を知ってもらうきっかけとなればと思い、自分の1番好きなアニメの漫画本を準備して行きました。二人とも日本のアニメが大好きで、1番好きなアニメを聞くとどちらからも私が準備していた漫画の名前が出てきたので、その漫画本をプレゼントしました。大変喜んでもらえ、私もとても嬉しい気持ちになりました。

大学内には工業に関係する多種多様な部屋がありました。その中で放射線研究の設備見学をしました。実際に放射線を肉眼で見ることができたのは、とても興味深いことでした。情報技術学部ではチームラボのような体験できる部屋がありました。私たちが工業で学んでいる内容が、こんなに楽しい体験を生み出していることに誇りを感じました。

### 3 企業見学

企業見学ではFANUC THAI LIMITEDと安川



大学で見た放射線

電機を訪問しました。FANUC THAI LIMITEDは、主にAIの使用でロボットの高度化や最適化を行うなど最先端技術を用いてロボットを製造されていました。企業理念が「お客様のためのメンテナンスを欠かさない」であり、販売後も自社製品とお客様を想い続けることが、大きい会社であり続けている秘訣なのかと考えました。また、節電をするなどのSDGsにも積極的に取り組まれていることに企業としての魅力を感じました。

安川電機では、実際にロボットがどのように使われているのかの見学・体験をしました。印象に残ったのはロボットが、2枚の鉄板を正確に素早くアーク溶接していたところです。企業の方は「ロボットは同じ動きを正確に何回もでき、ケガをする心配もない」と話されていました。今までは、ロボットは私たち人の仕事を奪うだけの存在だと思っていましたが、この話を伺って安全面や効率的な作業をするためには必要不可欠なものだと思うようになりました。



協働ロボット

#### 4 現地見学

現地見学では、さまざまなワット（寺院）やデパートなどを訪れました。寺院で特に印象に残ったのは、ワット・マハタートです。14世紀にアユタヤ王朝に建てられ、18世紀の戦いで破壊された廃墟にもかかわらず、その頃の時代を感じさせる迫力がありました。また、木の根の仏頭は時の流れと自然の生命力を感じさせるとても神秘的なものでした。寺院の中の改装中の建造物には足場が建てられ、授業で教わった日本の足場と照らし合わせて見学しました。

メークローン線路市場では、実際に電車が店の前ギリギリを走りとても迫力がありました。線路の上を歩く不思議な感覚も体験できました。

水上マーケットでは、ボートに乗り市場まで向かいました。すごい速さで水しぶきが上がり、一つのアトラクションを体験した気分になりました。マーケットでお店の人と値下げの交渉をして買い物を楽しみ、現地でしかない良い経験ができました。

#### 5 研修成果

私はこの1週間の研修を通してたくさんの経験をすることができました。タイの街並みや寺院の見学を通して、日本とマンションの規模が違っていたり、寺院の装飾に金箔やカラフルな色をふんだんに使っていたりと、地理的・歴史的背景からの日本とタイの建築の違いを見つけることができました。また、現地の人との交流や学校・企業見学を通して、英語を使って自己紹介をし、ものを買う際に価格交渉をするなど海外でコミュニケーションを図る貴重な体験ができました。食文化の違いからもタイらしさを感じることができました。タイでの1週間は、初めての環境も緊張しましたが、自ら主体的に行動することで、多くの経験をする事ができたので、研修目標を達成できたと感じています。

#### 6 感想

私は今回の海外研修を通して、現地の文化や建築について実際に見て学ぶことができました。タイの街並みを見て、私が想像している以上に発展していると感じました。高層ビルが高さを競うかのように並び街全体を埋め尽くしていました。タイは地震が少ない地域なので、日本ほど耐震性を考えなくてよいためか、違った造りの建築物が多く面白かったです。また、寺院を訪れた際にも、床にひれ伏す礼拝や金箔を仏像に貼るなどタイならではの文化を体験することができました。ガパオライスやカオマンガイといった、タイの食文化にも触れることができました。ずっと夢見ていた海外の文化に、この研修で触れることができたことを嬉しく思います。また、素敵な仲間と出会い、異国の地で共に多くの経験ができたことは私の一生の宝物です。この海外研修で得たものを今後の人生の糧としていきます。

最後にこのような機会を与えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。



国立博物館での礼拝



## 海外研修に参加して

### ～慣れない環境での成長と学ぶ～

熊本県立玉名工業高等学校  
機械科 3 年

#### 1 研修目標

- ・タイ王国の異文化を体験することで多角的な視点やグローバル的視野を養う
- ・普段と違った環境の中で自分が適応する力、積極的に行動する力を養う
- ・日系企業の海外工場がどのようなものなのか身を持って知る

#### 2 学校見学

研修の一環で、泰日工業大学（TNI）を訪問した。日系企業で活躍できる技術者の養成などに力を入れている。それに合わせて工場自動化や自動車工学分野などの研究に、特に力を入れており、日本との交流が深い学校で国際色豊かである。改善、ものづくり、反省、誠意を大切にしている。体験授業ではソフトウェアについて英語で授業が行われた。授業の合間にフィリピンから来た学生とアニメやスポーツのことについて英語でコミュニケーションを取った。大学の研究では放射線を可視化することや、音波で距離を測るもの、ロボット分野など様々あった。大学は留学制度も充実しており日本の大学にも行く人がいる。

学生との交流ではタイやフィリピンなどの学生に加え、タイの日本人学校、釧路高専から編入で来られた方もいた。同じ日本人ということもあり、なぜ泰日工業大学に行こうと思ったのか、タイに行くまでの進路の悩みなど、交流の中で多く話すことができた。泰日工業大学は多国籍で昼食時は学生同士の出身国や言語、文化のことで話が盛り上がった。学校見学を通して異文化だからこその交流の楽しさや難しさを肌で感じることができた。

#### 3 企業見学

最初にファナック・タイを訪問し、タイの拠点での取り組みを紹介していただいた。特にファナックでは 20 年、30 年前のファナックの製品でも修理することができる、生涯保守というものを掲げている。そのためにファナック・タイでは、在庫センターと呼ばれる場所に部品 9 万点が備わっていることを非常に興味深く感じた。

また、ファナック・タイではほとんどの社員がタイの方で、社員の教育の仕方などが日本と違い、タイ人の人柄や文化の違いを感じることができた。これからは、海外の人と仕事をする機会が増えていくと思われ、駐在している方の意識していることが私の学びにつながった。NVIDIA とのフィジカル AI の共同開発の話はとても興味深く、これからのロボット産業の発展に大きく貢献するものだと知ることができた。

続いて、安川電機タイを訪問した。安川電機タイでは、ファナックと同様に販売・サービスを主な業務としていることを知った。また、ロボットの操作やティーチングの体験を行った。溶接のワイヤの送り出しをモーターで制御し、スパッタを最小限で抑える溶接ロボットや、ジャイロ操作できるロボット、ダイレクトティーチングが可能なロボットなど新たな技術や機能の知見を広げることができた。今まで人の代わりにロボットが使われるというイメージが強かったが、今回の訪問を通してロボットだからこそできることもあるのだと知ることができた。



安川電機の Teaching 体験

また、溶接などの作業を臨機応変にできる技術者の重要性や、技術的な減少に伴う産業用ロボットの開発の必要性を知ることができた。

#### 4 現地見学

王宮ワット・プラケオでは王宮内の塔の種類を知ることができた。塔はスリランカスタイル、カンボジアスタイル、タイ十文字スタイルがあり、それぞれつりがね型やとうもろこし型のもの、塔の上に像があるタイプなど、タイの建造物についての知識を得ることができた。建造物における色の意味やタイの歴史的な壁画について知り、猿と鬼は神とされていることがわかった。(7月20日)

ワット・アルンにはカンボジアスタイルの大きな塔があり、細かな磁器や貝殻のモザイク装飾が施されている。船渡で行ったことと初めての売店での値引き交渉がとても印象に残った。ワット・ポーには大きな涅槃像があり迫力があつた。足の裏には108の絵が描かれており、金箔が手作業で貼られていることに驚いた。ワットパクナムには歴史的な物が多く展示されている。最上階にはエメラルド仏塔があり、天井には色ガラスのようなもので星が表現されていて深く心に残った。アイコンサイアムにはタイの文化的な売店やユニクロ、ブランド物などを扱う様々な店があつた。タイシルクを買う際にインドの店員の方と英語で話す機会があり、積極的にコミュニケーションを取ることで仲良くなることができた。考えた英語が相手に伝わるのがとてもうれしかった。ワット・サマーン・ラッタナーラームではピンクガネーシャを見た。お祈りのやり方はとても特徴的で、ネズミの耳を抑えながら願いを囁くというものでとても印象的だった。誕生日の曜日の色のネズミの場所に行くという、タイ独自の曜日の色というものを知ることができた。(7月21日)

国立博物館には像が多く展示されていた。昔の王族が使っていたとされる品物は色ガラスや金箔が多く使われていた。アユタヤ文明

以降にいくにつれて工芸品が多くなっている印象を受けた。当時の状況などの展示を通して知ることができた。(7月22日)

日本人町跡ではタイとの国際貿易の際に日本人の町で、日本人がアユタヤ文明にどう貢献しているかを知ることができた。私の想像以上に日本の文化や食事、家具が再現され、甲冑や日本刀なども展示されていた。ワット・マハタートではアユタヤ王朝初期に建立された寺院、仏像の頭部が長い年月を経て木に取り込まれたものを見ることができた。ワット・プラシーサンペットでは本堂、礼拝堂、塔があり、多くの仏像が壊れておりアユタヤ王朝の崩壊を肌で感じることもできた。(7月23日)

メークローン線路市場では現地の活気というものをとても感じた。魚や生肉の加工の様子を直に見ることのできる屋台もあり、匂いのきつい箇所もあった。電車は徐行しているとはいえしっかりとした柵などもなく、タイの人の活気や力強さを体験できた。ダムヌンサドゥアク水上市場は実際にボートに乗って移動した。市場ではマンゴーのジュースを飲んだ。飲んでいる間にキーホルダーの押し売りや、他にもヘビを首に巻いている人もおり、随所に日本との違いを感じた。マハナコンスカイウォークは地上314メートルの展望台で、他にも様々なレジャー施設が屋内に設置されている。ガラス張りの床に乗る体験をした。景色がとても綺麗でいい思い出となった。(7月24日)



アユタヤ見学の様子

## 5 研修成果

今回の研修を通して、日系企業のタイ拠点での見学は自分の将来、やりたい分野に直結しており、産業用ロボットについての知識や駐在員の方の考え方や意識していることについても知ることができ参考になった。また現地見学で実際に見た風景や現地の人との交流は慣れない環境に飛び込むことの面白さや大切さを実感でき、異文化の見方や考え方を身に付けることができた。また、滞日工業大学での出し物発表の準備では、目標に向かって積極的に行動する力、仲間との協力など人間性の面でも成長することができた。

## 6 感想

私はこの8日間という期間で多くの貴重な体験ができた。自分の学んできた英語が通じるのか、タイの食や文化に対しての不安もあった。しかし、実際は英語を使う機会が多く、身振り手振りも交えて相手に伝えることができ、タイ料理もとても美味しくいただくことができた。また、全国22人の仲間に出会えたことが自分にとって大きな財産になった。はじめの顔合わせから仲良くなり、それぞれの研修目標を達成するために協力し合う過程は、海外研修ならではの貴重な経験だと感じた。行動力のある人や知識が豊富な人など、それぞれの強みがあり、同じ工業高校生として良い刺激を多く受けることができた。海外研修で培った経験をこれからの学校生活や進路先で活かしていきたいと思う。

最後に今回の海外研修に参加するにあたって、サポートしてくれた関係者の皆さん、22人の工業高校生のみんな、本当にありがとうございました。



～Memorial photo～

7月24日(金)

バンコク市内見学・タイ出国



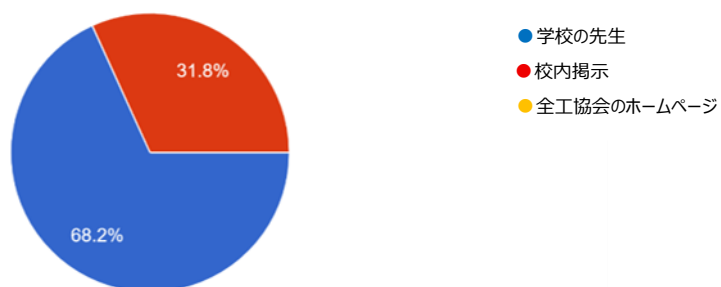
7月25日(土)

帰国・解団式

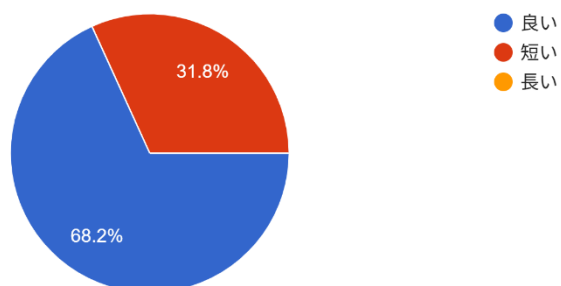


## Ⅶ アンケート結果（参加生徒 22 名分の事後アンケート）

### 質問 1 海外研修は、どこで知りましたか。



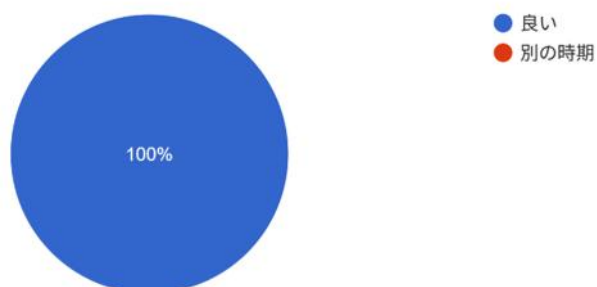
### 質問 2-1 期間はどうか。



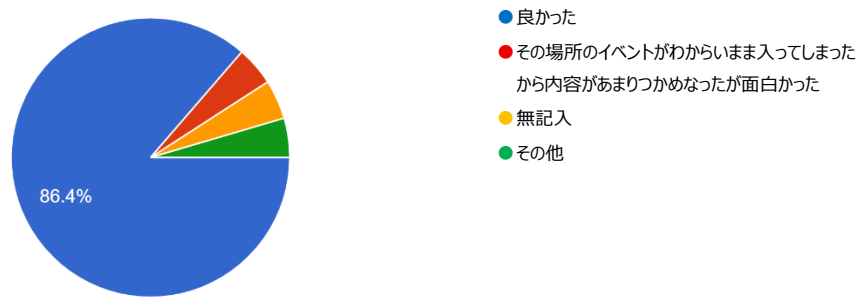
### 質問 2-2 質問 2-1 で「短い」または「長い」を選択した場合、何日間くらいがよいですか。

- 2 週間(14 日間) 5 名
- 10 日間 2 名

### 質問 3-1 時期はどうか。



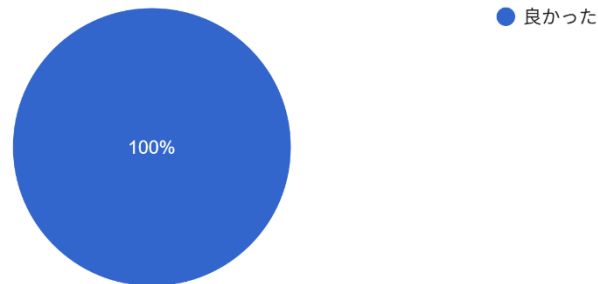
#### 質問 4-1 株式会社ロクイチ HICity RACING はどうでしたか。



#### 質問 4-2 質問 4-1「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・レース用のバイクやシミュレーションを見て実際に迫力を感じることができた。
- ・エンジンの音を聞かせてくれたり、商品を触らせてくれたりと実際に体験することができた。
- ・機械、電気、情報の3つのことが関係しており勉強になった。また、自分達は体験ができなかったが、乗ることができる所も良かった。
- ・レーシングバイクを目の前で見るのは初めてだったのですが、技術者の視点で多くのことを教えていただき、車体や制御回路など、たくさんの技術が集まりひとつのものになるということを学ぶことができた。
- ・日本の最新技術を知ることができ、普段触れることの少ないプログラム系について知ることができ良かった。
- ・あまり触れることがなかったスポーツレーシングバイクを知ることができ、とてもいい機会でかこよかった。
- ・私は、レースの整備技術者目線で、学校で学んでいるものの重要性を教えてくれたところが、これからの学びに活かすことができそうと思った。
- ・本物のレースに使われているバイクに触れ合い、学べた。
- ・作る人、使う人の本音が聞け、その考え方や想いが伝わり、この二つのつながりを大切にしたいと思った。
- ・HICity RACING では、実際のレース車両の製作や開発について詳しく知ることができた。普段は見ることのできない作業や技術を間近で見学でき、ものづくりの難しさや面白さを感じた。技術者の方々が細かい部分までこだわって作業していることが印象に残った。
- ・バイクのエンジンをかけて面白かった。
- ・レースシミュレータの作り込みがすごかった。
- ・バイクレースは全ての分野が重要。
- ・レーシングバイクを間近で見られたこと、仕事について知ることができた。
- ・機械（バイク）に対する知識がより深まったため。
- ・3D プリンターの技術や、バイクのシミュレータを学ぶことができた。
- ・バイクやプログラミング・金属の 3D プリンターなど色々見学できて、いつも見ないようなものを見させてもらったので良かった。特に最後のバイクのエンジンをかけてくれた時の大きなエンジン音が、地面越しに振動で伝わってきて改めてレーサーはすごいなと思いました。
- ・子供への教育を通して産業に興味を持たせる取り組みはとてもいいと感じた。人手不足に悩まされる時代なので労働力確保のための工夫は大事だと思う。
- ・普段あまり触れる機会がないバイクについて知ることができた。

### 質問 5-1 バンコクの文化遺跡は良かったですか。



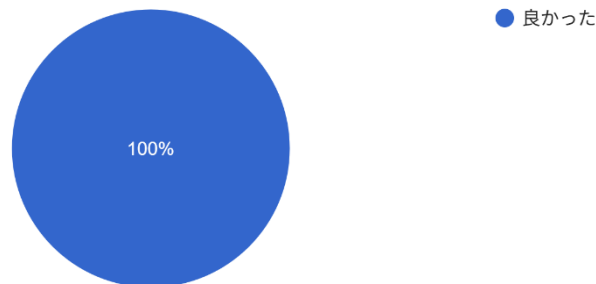
### 質問 5-2 質問 5-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・日本にはない景観があった。
- ・日本では味わえない雰囲気や自然を体感できた。
- ・膨大で日本では見られないものが見られた。
- ・タイの歴史的、神秘的な建物を見て、タイの文化について知ることができ、いかに仏教などを大切にしているかが分かった。
- ・ラーマ王朝物語や建物からタイの歴史や文化を実際に感じることができた。装飾や建築様式の違い、使われている素材などにも注目すると多くのことが見えてきてさまざまな発見ができた。
- ・まだ、世界にはこんなに遺跡が残っていて綺麗に保存されていて驚いた。大きさや色使い形など、日本とは違ったもので刺激を得た。
- ・戦争の背景やタイの歴史を垣間みるものが多く、ガイドさんの説明もあって理解しながら見学することができた。
- ・日本の神社などとは違う礼拝堂や塔は、今まで日本にいて海外に一回も行ったことのなかった自分にとっては宗教の信仰の強さなどを肌で実感できた。
- ・日本にはない光景や文化をたくさん見られ、勉強できた。
- ・いままでのタイの歴史や生活のことがよく想像できて、日本とは違う空気の元でどう考えたのかが感じられたので良かった。
- ・バンコクの文化遺跡では、日本とは違う建物や文化、宗教について学ぶことができた。寺院の装飾はとても細かく美しく、日本では見られない景色だったのでとても印象に残った。実際に現地を訪れることで、タイの歴史や文化への理解が深まった。
- ・日本と違う文化を楽しめた。
- ・日本も似たような宗教であるけれど全く違った建造物が見られて楽しかった。
- ・タイ王国の歴史について知ることができた。
- ・文化遺産を見て日本と似ていることや違いを知ることができた。
- ・バンコクの文化を知ること、より面白い研修内容となったため。
- ・タイ特有の建物等を見学し、歴史を学ぶことができた。
- ・色々見学させてもらって寺院の屋根の色でカンボジアスタイルなど、タイならではの豪華な金箔の寺院は日本にはないので新鮮でとても面白く良かった。特にエメラルド寺院の天井の色合いが写真でしか見た

ことがなかったので実物を見ることができ感動した。

- ・タイの文化や歴史に触れることができた。特に寺院はタイの仏教への深い信仰を感じた。
- ・アユタヤでは、日本では体験できないことを体験し、異国の文化に触れることができた。
- ・1 番タイの歴史を感じられた。

#### 質問 6-1 アユタヤ遺跡は良かったですか。

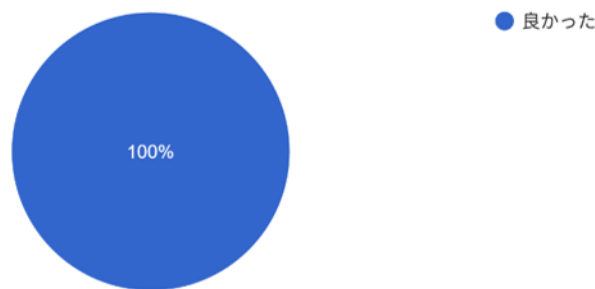


#### 質問 6-2 質問 6-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・日本にはない景観があった。
- ・文化の違うタイの歴史の跡を感じることができ、また実際に周りを歩き、自然に暮らすリスや植物を間近で見ることができた。
- ・昔のアユタヤについてなどがわかった。
- ・タイと日本の昔ながらの関係性について知ることができた。タイの昔の戦いで何が起り滅んだのか。また、建物の作りの元を知ることができた。
- ・日本人村跡には甲冑や囲碁などの日本の文化が感じられるものがたくさんあった。朱印船貿易など歴史で習ったものとのつながりで、外から見る日本という視点を持つことができた。レンガ造りの仏塔や寺院の跡は迫力があり、木の根に包まれた仏頭や頭のない仏像など不思議な様子を感じた。
- ・全てレンガで作られていて、昔の背景を考えながら、なぜレンガなのか等考えながら見ることができた。日本人とも密接なアユタヤ。アユタヤの規模の大きさや、大昔なのにここまで綺麗に保存されていることに驚いた。
- ・にわかの私でもわかるくらい有名なものを生で見られて凄かった。
- ・木の根っこにあそこまで銅像が、埋まっていた、どうしてそうなったのかさらに興味が湧いた。
- ・アユタヤ王朝という、栄えていた文明が今も大規模な状態で残っていること。また、崩壊したアユタヤ王朝の壊された像を見て栄えていた時から崩壊するまでの流れを感じ取ることができた。
- ・実際に栄えていた現地を見られて、モノの作りや自然を楽しめた。
- ・アユタヤ遺跡にはいろいろな国の文化やそれが辿れる形跡などが見られ、色々な国が共に作っていたことが今に繋がっていることを知ることができ、もっと調べてみたいと思った。
- ・アユタヤ遺跡では、歴史のある建物を実際に見ることができ、とても迫力を感じた。教科書や写真で見るだけでは分からない雰囲気があり、世界遺産を自分の目で見られたことが良い経験になりました。タイの歴史について興味を持つきっかけにもなった。
- ・自然と調和した感じが好きだった。

- ・数百年前まで栄えていた大国があっけなくなってしまうことが肌で感じられ、いい機会となった。
- ・アユタヤ王朝の歴史や日本町跡について知れた。
- ・木の根に包まれた神秘的な仏頭を見ることができたから。
- ・昔の文明が持っていた影響力を知ることができた。
- ・日本の歴史を復習すると共に、タイの歴史を学ぶことができた。
- ・戦争などで頭が盗まれた仏像がたくさんあり、改めて目で見えて歴史を感じることができ良かった。特にワット・プラシーサンペットにあった仏像の頭が木の根に埋まっていたものが、戦争を表し印象に残っている。
- ・自分は歴史が好きでアユタヤの日本人街に昔から興味があった。それについて少し深掘りできたので楽しかった。
- ・アユタヤ遺跡の散策。
- ・自然の中の遺跡を見学し、歴史の凄さを肌で感じるすることができた。
- ・人気で知っていたから。

#### 質問 7-1 ファナック・タイの企業見学は良かったですか。

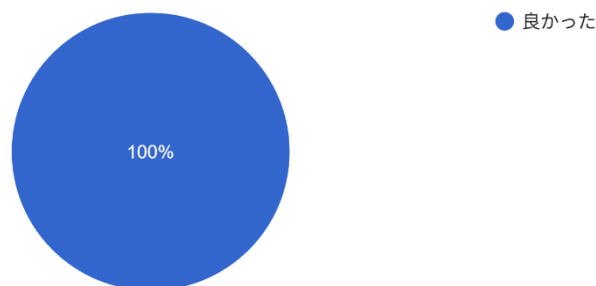


#### 質問 7-2 質問 7-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・すべてを機械に任せるのではなく人間が最後までする仕事を知ることができた。
- ・協働ロボットの大切さやお客さんが製品を使った後のことを考えることの大切さを知ることができた。
- ・タイでの活動について、海外ならではの生産について聞いた。
- ・土木科で機械などの事は全然知らなかったけれど、モーターや制御装置のことを聞いていて土木にも生かせるところがあり、知識をより深めることが出来た。
- ・多くの産業用ロボットを見ることができ、日本国内や世界でどのように使われているのかを学ぶことができた。次世代のフィジカル AI について音声で動くものなどたくさんことに興味を持った。
- ・日本の技術がタイの最先端で活躍していて嬉しかった。知らないうちにロボットは人間が得意とする細かな作業もできるようになっており、無駄のない動き安全策等ロボットの進化を生で見ることができよかった。
- ・ロボットは専門ではないので説明で出てくる専門用語があまりよく理解できなかったが、質問した時に丁寧に教えてくれて分かりやすかった。
- ・私の父は長期出張で海外に行っていたのでファナックの海外拠点、サービス、販売を主にやっていることや、生涯保守などの企業の努力、理念について知ることができたことは自分にとっていい経験になった。

- ・機械ロボット技術の最先端に行く企業に話を聞けて、この先必ず財産になる事ばかりで勉強になった。
- ・企業の考え方、自社の持っている強みや高度な技術力を知ることができ、これからもどんどん成長していく会社なので、今をよく知ることができ良かった。
- ・ファナック・タイでは、多くの産業用ロボットが活躍している様子を見学することができた。工場の自動化が進んでいることや、ロボットが正確で効率よく作業していることに驚いた。学校で学んでいる内容とも関係があり、とても勉強になりました。
- ・お客様第一の精神を感じられてよかった。
- ・僕は倉庫を見た時に、それほどお客様に寄り添っているところがとても素敵なお店だなと思った。
- ・産業用ロボットの構造や仕組みを知ることができた。
- ・ファナックの仕事内容を詳しく知ることができ自分の将来の視野を広げることができた。
- ・今まで知らなかった産業ロボットについて知ることができた。
- ・6 軸ロボットの性能や安全対策について 1 から知ることができた。
- ・イメージカラーは黄色の AI を活用し、ロボット開発をしているファナックさんはサービスがすごいと思った。過去に製造したロボットも壊れたら直してくれるところが信頼されていると思った。倉庫を見せてくれて、目で見て信頼を感じることができ良かった。特に 46 年で 100 万台達成されたことが印象に残った。
- ・研修目標にあった「日系企業について知る」という重要な場所だった。生涯保証という取り組みが心に残った。
- ・実際に社内を回る。
- ・好きな企業だから。

#### 質問 8-1 泰日工業大学の授業参加は良かったですか。

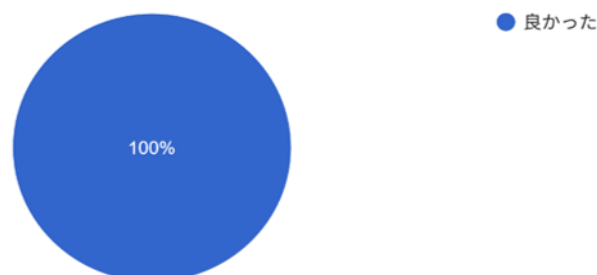


#### 質問 8-2 質問 8-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・海外の生徒と会話することができた。
- ・英語の授業でほとんど内容は分からなかったが、隣の大学生の方に質問して英語を実際に外国人の方に話したり、聞いたりできる機会になった。
- ・慣れない環境で、自分たちでどうするかを考えながら動けた。
- ・タイの工業系大学がどのようなことを学び、その知識を活かしどのような物を作っているかなど知ることができた。
- ・実際に英語で授業をするということがどういうものかを感じられた。

- ・普段は交流することが出来ない、タイの学生との交流はすごく楽しかった。言語の壁なんて関係ないくらい楽しくお話ができた。タイの学校は色々な分野を学べ、日本の文化、他国の文化も体験でき、最新技術だけでなく、異国文化も知れることができるグローバルな大学だと感じた。大学生とお話できてすごくよかった。
- ・大学進学を一時期考えていて、海外留学のこととかも視野に入れていたのもっと早く知る機会があったら良かったなと思ったので、後輩たちにぜひ教えてあげようと思いました。
- ・ほとんどの人が母国とは違う言語、英語や日本語、タイ語を喋れており語学という面でとても発展していると感じたことと、授業中に学生さんと英語を交えて会話をすることができたことがとてもよかった。
- ・マイという台湾の友達ができとても楽しかった。機械の勉強のレベルも高く、コンピューターもハイテクノロジーでとてもいい経験になった。
- ・日本とは違う構成で、みんな優しく話しかけてくれて英語もままならなかったが、なんとか読み取ってくれたことが伝わって言語が大きな壁でないことがわった。
- ・泰日工業大学では、実際の授業に参加し、日本とは違う授業の雰囲気を経験することができた。先生や学生の皆さんが積極的に授業へ参加している姿が印象的だった。普段できない貴重な経験ができ、とても良かった。
- ・生徒とたくさん交流できて面白かった。
- ・様々な国籍の学生がいる中で、それぞれの科で一つの目標に向かっていく力が全員にありすごいと思った。
- ・内容は難しかったが、現地の学生と交流が出来て良かった。
- ・大学での生活や授業の内容を知ることができ、将来の選択の幅を広げることができた。
- ・大学生と一緒に考えながら授業を受けられることができた。
- ・実際に授業を受けてみて、わからないことが多かったが大学生が教えてくださった。
- ・最初は、大学生と、ちょっと気まずかったが私から話しかけていくうちに少しずつ緊張がほぐれ話せて良かった。授業は私の分野外のプログラミングの授業で、パソコンの中にもうひとつのサーバーを作っていた。
- ・授業見学というより学生との交流・会話の時間だったと感じたが、大学生活や彼ら自身について知ることができたので良かった。
- ・現地の大学生との会話。
- ・海外の大学について知ることによって留学も一つの選択肢に入った。
- ・本格的な実習を知ることができる。

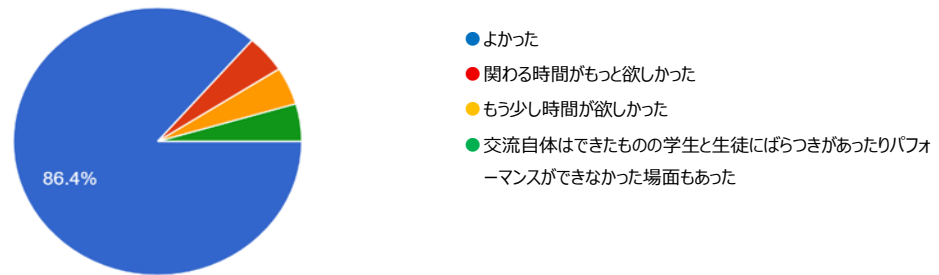
#### 質問 9-1 泰日工業大学の施設・設備見学は良かったですか。



**質問 9-2 質問 9-1 で「良かった」を選択した場合、そのよかった内容を書いてください。**

- ・日本にはない自由度があり学生たちが外でバスケットボールをして意気揚々としていた。
- ・大学でどんなことを学べるのかどんな設備があるのか体験などをまじえて深く知ることができ大学選びの参考になった。
- ・トヨタさんからの寄付のエンジンやプロジェクションマッピングみたいなものを見られて良かった。
- ・企業から道具を貰って実際に物造りを体験していて、機械系の施設も沢山あり充実していた。特に情報科の全面スクリーンが凄かった。
- ・日本企業や大学とのつながりが多く、トヨタ生産方式やパナソニックの製造ラインなど実際に企業を意識したものがたくさんあった。生徒の方たちの研究のレベルの高さを感じて、私も学んでみたいと思えた。
- ・施設には日本の鳥居があり、国旗が沢山並んでいて色々な国を学べるのだと思った。図書館では、日本の漫画や本、安部元首相が送った本が並んでいてタイでも日本の本が読まれているのだと思い嬉しかった。車の整備などでも最新のロボットが使われていた。
- ・施設自体もすごくきれいで、授業でかなり多くの PC やモニターを使用していて先進的だと感じた。
- ・トヨタ、チームラボ、パナソニック、大阪工業大学、近畿大学など色々な機関から教材を寄贈してもらっていること、研究拠点として泰日工業大学が選ばれていることで実践に近い形で学ぶ環境があることを知ることができた。
- ・自分の高校と照らし合わせて見ることで日本とタイの違いを見つけられ、日本に帰って沢山話せる思い出ができた。
- ・高度な技術力と他者との共同開発は日本にはなかなか難しい制度で、一人一人が積極的に動ける部屋があったので自分をどんどん伸ばせそうだなと感じた。
- ・泰日工業大学の施設や設備はとても充実していて、学生が学びやすい環境だと感じた。実習室や機械なども整っており、日本との違いを知ることができた。将来の進学について考える良い機会にもなった。
- ・チームラボみたいで面白かった。
- ・僕はトヨタに行きたいと思っていて、その中で泰日工業大学さんはトヨタの生産方式を用いて実際に体験することで学べる場所がいいなと思った。
- ・日本との違いについて理解することができた。
- ・日本の大学にはないようなものをたくさん見ることができた。
- ・とても綺麗で、図書室の本のバリエーションが素晴らしかった。
- ・日本と泰日工業大学の連携などで進められているプロジェクトを知ることができた。
- ・研究室を見学してもらい自動でバランスがとれる自転車プロジェクトや振動で目の見えない人に伝わる杖などを開発していてすごいなと思った。日本の文化をとってもリスペクトしていて、学校内には鳥居があったり、教室に行く途中に着付けをしていたりなど見えたのでそこが良かった。特に情報学科での壁に映像が映し出された部屋は、大学生たちが作ったキャラクターなどが出てきて、とても印象に残った。
- ・大学でどんな研究が行われているか具体的にわかった。
- ・ネットだけでは分からない情報も知ることができた。
- ・チームラボなどの楽しい施設を作り出していることを身近に感じることができた。
- ・サッカー、バスケットがあった。

### 質問 10-1 泰日工業大学の学生との交流は良かったですか。



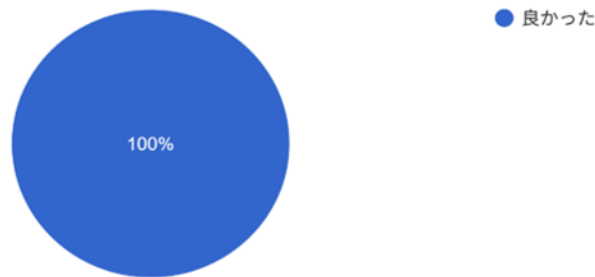
### 質問 10-2 質問 10-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・会話をして異文化交流をすることができた。
- ・タイの大学生の暮らしや、自分たちの日本でのことなど短い時間だったが大学生の 2 人がとても優しく笑顔で話してくれて、楽しい会話ができた。
- ・タイの学生と仲良くなれ、何故日本の事やその学科を学んでいるかなどがわかり交流することができ楽しかった。
- ・英語でたくさん話しかけるという目標を達成することができ、日本の自分の県のことを伝えたり、タイの生活や日本に対することなどをたくさん聞いたりすることができた。
- ・とても優しく楽しい方々が多く、気さくに話しかけてくれた。日本語を話してくれて日本の文化で知っている事などを話してくれた、とてもフレンドリーな皆さんでよかった。
- ・タイ語だけでなく、英語、少しの日本語を喋れる生徒さんがかなり多く、日本人もいたため楽しく交流をすることができた。
- ・みんな社交的で積極的に話しかけてくれたお陰で緊張も解けやすかった。
- ・高専生、工業高校生が泰日工業大学に進学しているという多様な選択肢や留学の例の話はとても面白いと感じた。泰日のような海外の大学に進むことで得られるキャリアもあるのだと知ることができた。
- ・友達ができて、おすすめの観光地やグルメ、料理などを沢山聞いた。また機会があったら必ず参加したい。
- ・みんな優しく話しかけてくれて身振り手振りで会話する中で日本人もタイ人も関係ないことがよく伝わった。これからも積極的に話していきたい。
- ・泰日工業大学生との交流では、お互いの学校生活や文化について話すことができた。言葉が違って、英語やジェスチャーを使いコミュニケーションを取ることができ、とても楽しかった。海外の人と交流する貴重な経験になった。
- ・日本の文化を知ってくれたから交流が楽しかった。
- ・僕は英語が得意ではなくあまり話すことができなかったが、自分の出身や趣味などを身振り手振りで使いながら交流することでコミュニケーションを取ることができた。
- ・現地の学生と昼食を食べながら交流ができた。
- ・現地の学生の生活様式を知ることができ、タイ王国の人から見る日本との違いを知ることができた。
- ・普段関わりのない大学生と交流を図り、自分の意見などに自信を持つことができた。
- ・自己紹介で私なりの英語を一生懸命聞き取ろうとしている姿を見て、改めてもっと英語を頑張ろうと思ったことと英語ひとつで色々な国の人とコミュニケーションがとれる泰日工業大学が良かった。昼食ではたくさ

ん話しタイのことを沢山教えてくれて、とても楽しかった。

- ・自分で作った折り紙をプレゼントできた。
- ・現地の大学生と交流して話の共通点や好きなものが一致したことで、海外の方ともコミュニケーションを取れるということが証明できた。
- ・みんなやさしい！！

#### 質問 11-1 安川電機タイランドの企業見学は良かったですか



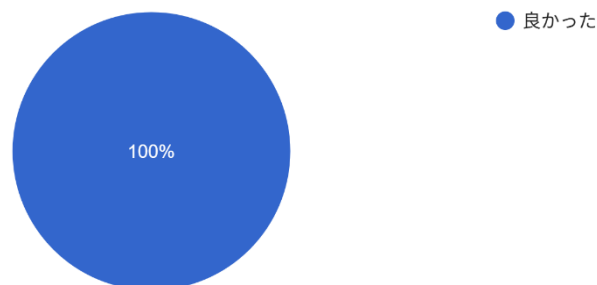
#### 質問 11-2 質問 11-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・アーク溶接を実際に行っているところを見ることができた。
- ・人間の巧みな技術や人間にしかできない仕事のことまた、逆にロボットは同じ作業を続けても疲れてミスしないなど、工業生産にはどちらも欠かせない人間とロボットそれぞれの仕事の強みを知ることができた。
- ・企業ごとの理念の違い、共通の点など知ることができた。
- ・企業により細かい所や力を入れているところの違いを知り、知識を深められた。
- ・実際に動かす体験をさせていただき、今まで産業用ロボットを目の前で見たり、触れたことのなかった自分にとって大きな経験となった。ジャイロセンサのついたものでは直感的な操作というのが、どういうものなのかを感じられた。とても興味を惹かれるもので新たな好きを発見できた。
- ・実際にロボットに触らせてもらえて、安全対策などでロボットに触れると止まり、ロボットの微調整を機械にインプットし、動かしロボットは溶接までも綺麗にやることを知ることができてよかった。
- ・ロボット技術を生でみて、自分で体験することができたことがすごく大きい貴重な経験だった。普段では見ることのできない機会を貰えてよかった。
- ・体験やロボットの基礎的な考え方を教えてくれたことがとても勉強になった。溶接ロボットの説明ではワイヤを出すのを制御し人より溶けた金属を飛ばす量を抑えるというロボットにしかできない使われ方はロボットの可能性を広げてくれるものだったと思った。質疑応答や僕には進路の話も聞いてくれた。先進的な技術も知り、これからの勉強を頑張る自分にとって大きな原動力になった。
- ・時代の最先端にある企業の話はものすごく勉強になり、フィジカル AI についても質問できてとても財産になった。
- ・他者との違いや同じところを理解し、自分たちの開発でニーズに答え、よく使う人のことを考えていることが伝わった。特に実習は安川電機の開発を理解するのに時間がかからなかったので良かった。
- ・安川電機タイランドでは、実際に産業用ロボットが使われている現場を見学し、自動化技術のすごさを

知ることができた。ロボットが正確に作業をしている様子を見て、これからのものづくりに必要な技術だと感じた。将来の進路について考えるきっかけにもなりました。

- ・従業員さんたちとの交流が楽しかった。
- ・社員全員が明るく振舞ってくださり、また、製品に関しても、収益ではなくお客様第 1 優先で会社を運営しているところがとても素敵と思った。
- ・触ることのできないものを触らせていただけ、見ることがないようなものを見せていただいた。
- ・実際に 6 軸ロボットの操作やアーク溶接をロボットが行なっている部分を見学できた。
- ・イメージカラーは青、モーターと産業用ロボットを販売している安川電機さんはロボット操作がすごいなと思いました。操作はタブレットでタッチ式なので、いちいちコマンドを打たなくても楽に操作できるところを見ることができ良かった。今年で創業 111 年の安川電機さんはモーターがすごく他の分野の機械にも取り入れていると聞きすごいなと思った。
- ・実際の機械を見ながら説明してもらえたから良かった。
- ・他社と比べることができるようなことがたくさんあった。複数のものを比較しないと見えてこないものがある。
- ・実際にロボットに触れた。
- ・学校では教わらない他の学科の分野についてより深く知り、AI を取り入れた最先端のロボットを見学することができた。

#### 質問 12-1 バンコク国立博物館、バンコク郊外や水上マーケット等の見学はよかったですか。



#### 質問 12-2 質問 12-1 で「良かった」を選択した場合、その良かった内容を書いてください。

- ・タイの歴史を知ることができた。
- ・タイでつくられた古代のものや実際に修繕作業を行っている様子を見ることができ、バンコクでの人の暮らしぶりを身近に感じることができた。
- ・タイで何が大事とされているかを遺跡などから見るすることができた。
- ・タイの人との交流は楽しかったし、海外に行って役立つことを沢山知ることができた。
- ・現地の生活をたくさん感じられた。メークローン線路市場は目の前を電車が通るという日本ではあり得ない体験ができた。独特な匂いなどもあったが目の前で調理なども良かった。
- ・水上マーケットでは船に乗って移動した。船を乗りながらも高床式が多いことなど日本との違いがたくさんあった。バンコクの歴史も知ることができ、徳川家康などもでてきて世界の歴史は一つに繋がっていると実感した。それに、研修場所に行かなくても、バスで走っているだけで、驚かされることが多かった。電柱が

四角。電線の絡まり、道路の広さなどを実際に見ることができて良かった。高層ビルと並ぶ昔の家、経済格差が大きいと感じた。

- ・博物館には日本の銅像や中国の銅像など、タイのものだけでなく数多くの展示品があり、最初はタイ語だけで分からないだろうなと思っていたが、案外日本語やわかる英単語で内容を読み取れて楽しみながら勉強にもなっていたいい機会でした。
- ・水上マーケットは、値切りが成功してうれしかった。
- ・国立博物館では世界で起きたことと比べて書かれていることでタイの歴史がわかりやすく伝わった。バンコク郊外では売店など値切りが必要な部分もあり日本との違いを大きく感じた。
- ・水上マーケットは人々の生活がそのまま反映されていることが、観光となったものなのかと感じが面白かった。
- ・日本ではない売り方や場所に行けて、多文化に触れられた。沢山現地のお土産も買えてすごくいい時間になった。
- ・国立博物館やバンコク郊外では昔のままの姿が残っていて歴史を知ることができたとし、水上マーケットではタイならではの文化でその他を知ることができたので良かった。
- ・バンコク国立博物館や水上マーケットでは、タイの歴史や文化、生活の様子について学ぶことができた。
- ・日本では見ることでできない景色やお店が多く、新しい発見がたくさんあった。実際に現地へ行って見学できたことで、タイについてより深く知ることができた。
- ・日本と大きく異なる文化で楽しかった。
- ・タイの長い歴史をたくさんの資料とともにたどって行けてとても没入することができたとし、マーケットなどではタイならではの文化を体験できて良かった。
- ・タイ王国の歴史や現地の文化に触れる事ができた。
- ・バンコク国立博物館ではタイの歴史や文化を知ることができた、バンコク郊外や水上マーケットでは現地の人の生活様式などを目で見て体感することができた。
- ・街中だけでなく、現地のリアルな文化を知ることができた。
- ・タイの伝統的な民芸品や、歴史的な物を拝見し、水上マーケットは船に乗るという体験ができた。
- ・博物館ではたくさんの仏像や遺跡が置いてあり、中には人よりも大きい仏像がありすごいなと思った。それを目で見て感じられることができて良かった。水上マーケットでは船で川を渡った。今の時代はエンジンがついて早いけど昔は風や漕いで船を動かしていたと考えたら日本とアユタヤの貿易はすごいなと思った。
- ・バンコク郊外の見学では歴史だけでなく、首都では味わえないような田舎のタイがあった。いつも違う景色もまたおもしろかった。
- ・博物館バンコクの歴史について知ることができた。
- ・今までにないくらい楽しくて新鮮な体験だった。こんなに楽しい中でも学ぶことが多かった。
- ・楽しかった!!

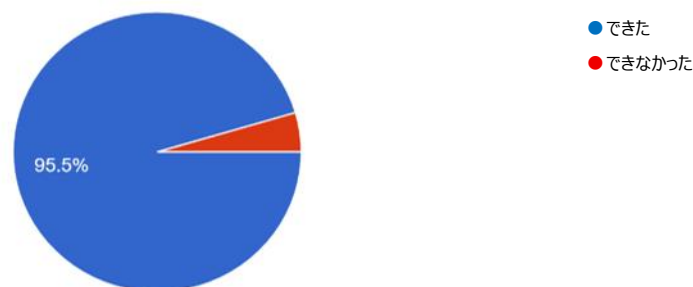
### 質問 13 自分の研修目標を書いてください。

- ・一緒に研修に行く仲間や現地の方とコミュニケーションを取る
- ・タイの伝統的な寺院や工芸品また、工業製品などからタイならではのデザインや色使いを観察し、制作における発想力と配色センスを養う。

- ・タイの伝統工芸やものづくりの技術を学び、日本の工芸との共通点や違いを理解して作品制作に活かせる視点を身につける。
- ・日本の製品を海外で使うためにどんな違いがあるか、タイと日本の違い、文化、生活についてタイと日本のインフラや土木技術の違いを学んで知識を深める。
- ・海外の価値観や生活の違いから視野を広げる。積極的にコミュニケーションをとる。
- ・国際交流を通して、コミュニケーション力や人間力を高める。
- ・建築技術を始めとする日本の技術がどう活躍しているのかを知る。
- ・急速に発展するバンコクの建築や歴史的な寺院が隣り合わせに存在する街並みを体験し、都市開発と文化保存のバランスについての考察を深める。
- ・同じ研修メンバーとの交流や、タイの現地の学生との交流、どちらも積極的に自分から取り組む！
- ・タイ王国の異文化を体験することで多角的な視点やグローバル的視野を養う。
- ・普段と慣れない環境の中で自分が適応する力、積極的に行動する力を養う。
- ・日系企業の海外拠点がどのようなものなのか身を持って知る。
- ・現地の人と積極的に交流し、交流の難しさを知り、学ぶ。
- ・価値観や文化の違いに触れ、グローバルな考え方を身につける。
- ・他国の文化を多く学ぶ。
- ・日本とタイの建築物の色や形、使われている材質を理解し、違いを感じる、現地の学生と同研修者とのコミュニケーションを図る。
- ・タイの文化、歴史、生活習慣について学び、日本との違いや共通点を理解することで、異文化理解を深める。
- ・現地の方々との交流を通して、言語だけでなく、自分の得意な絵や表現活動も活用しながら、主体的にコミュニケーションを図る力を身に付ける。
- ・タイの大学・企業訪問を通して、海外における産業や技術の活用について学び、将来の進路選択や職業観の形成に生かす。
- ・他府県の工業生徒との交流のうえで進路についてよく考えたい。
- ・日本とタイはとても産業において深い関係であることから両国の違いを知ることと、全国から集まる工業高校のトップの人たちと深い関係を結ぶ。
- ・現地の方とコミュニケーションを取る事。
- ・質問を1つ以上する。
- ・この研修旅行で、日本とタイ王国のものづくりの違いを知りグローバルな視点を身につける。
- ・他国の文化を学ぶ。
- ・現地の文化や生活の違いを実際に体験し、日本との違いを学ぶ。
- ・積極的に現地の人や他の参加者と交流し、コミュニケーション能力を高める。
- ・海外での生活を体験し、自分で考えて行動する。
- ・私は建設を学んでいるのでタイの建設について研修の中で学びたい。  
1つは、日本のお寺とタイのお寺の建築構造や仏教の違いについて、2つ目はタイの住宅が熱帯環境にどう工夫をされて耐えているのかを知ること。また、タイ人の工業大学の話を聞き、日本との授業の様子が同じなのか知りたい。
- ・海外の日系企業について なぜタイに根付いたのか 現地に適応するための工夫。

- ・外国人と関わったり異なる考え方を受け入れる柔軟さを身につけて、知見を広めると同時にグローバル力をきたえる。
- ・現地の方と積極的にコミュニケーションをとり、自分の表現力や積極性を高める。
- ・親元を離れて海外で生活する力を身につける。
- ・日本との建築や文化の違いを発見し考えること
- ・経済を知り、電気関係を詳しく知る

### 質問 13-2 研修目標は達成できましたか。



### 質問 13-3 質問 13-2 で選択した「できた、思ったよりできなかった」理由を書いてください。

- ・現地の方ではないが海外の方とインスタを交換でき、研修中も連絡を英語でとり合い交流することができた。
- ・タイの建築物や工芸品などを観察し、全体的に派手で見えて元気ができるような配色やデザインが多いと思った。また日本は淡い上品な色やデザインが多いというタイと日本との違いを見つけることができた。
- ・日本との違いに注目してみたり聞いたりできた。
- ・道路や電柱を見ることで表面上のインフラの違いは分かったけど、企業訪問などが無いから地盤の違いによる施工の違いなどを知ることができなかった。
- ・移動中に様々なことに注目をして街並みなどの違いを見ることができた。泰日工業大学で、交流の時間は少なかったが昼食時に自分から移動して話しかけ自分の県のことについてなどをたくさん紹介することができた。
- ・大学などでタイの人とコミュニケーションを取れ、現地のお店の人などと接してコミュニケーション力や人間力が上がった。それに、色々な日本企業に行って、最先端のロボット学生とも触れたり、それがタイで色々なところで活躍していることを学ぶことができた。
- ・自分からなるべく全員に満遍なく話しかけ、タイの学生とも積極的に話をするようにして、仲良くなり、思い出が増え、帰る今みんなとお別れがすごく悲しいと感じたので目標が達成できたのではないかと思った。
- ・タイの文化を王宮、礼拝堂などの歴史的建造物に触れ、からタイの人と接してきて、日本とは違う文化を売店などのローカルな部分から国全体のものまで見ることができた。泰日工業大学での授業の時など海外の方に積極的にコミュニケーションが取れた。日系企業の海外拠点は製造とは違うサービスや販売という観点でのポリシーや理念に触れることができた。
- ・思っていたよりも多く文化に触れることができて、日本との違いを沢山見つけられたし、肌で感じることがで

きた。

- ・しっかりと建築物を見て理解し、研修メンバーとのコミュニケーションの中でタイと日本の違いを共有できたことが良かった。
- ・今回の研修では、バンコクやアユタヤの見学を通してタイの文化や歴史、生活習慣について学び、日本との違いや共通点を知ることができた。また、泰日工業大学の学生との交流では、英語やジェスチャーを使いながら積極的にコミュニケーションを取ることができた。さらに、ファナック・タイや安川電機タイランドなどの企業見学を通して、海外のものづくりやロボット技術について学び、自分の将来について考える良い機会になったため、研修目標を達成できたと感じている。
- ・人見知りをしてしまうので心配だったけれどみんな優しくたくさん話をできた。
- ・ファナックタイや安川電機さんを訪問した際に日本と同じようなモットーを持っていることが理解できた。例えばファナックさんだと壊れるものを作らない、壊れても必ず直すという強い信念を持っていたこと。2 つ目は、たくさん話し、一緒に沢山行動することですぐに打ち解け、有意義な 1 週間を過ごすことができた。
- ・積極的に現地の方とコミュニケーションを取る事ができた。
- ・できた理由はタイ王国の街の造りや大学の学生のプロジェクトなどを見て、それがどこにどのように役に立つのか考えることができたから。
- ・多くの体験をして、食の違い、価値観の違いなどを多く知ることができた。
- ・初日から他の参加者と交流をすることができ、泰日工業大学でも大学生の方々と話をすることができた。自分で考えて、意見を確立することができた。
- ・建築分野での気になったことは感想で書いた。1 つ目はタイの住宅の家と家との距離、2 つ目は足場作業の時の命綱なし、3 つ目はベランダが建築物の中で飛び出していないこと、4 つ目は建築物の材料。研修目標の 1 つ目は、日本は独自の寺院建築ですがタイは屋根の形や色で色々な国のスタイルがあった。タイは色々な国の影響を受けていることが分かった。仏教の違いは、タイはどこの建物を行っても仏様が祀られていて信仰度の違いが見られた。2 つ目は感想のところの 4 つ目の材料を調べた時に、鉄筋コンクリートで建物を作ることで高温多湿な気候に耐えられることを知った。日本との授業の違いは一般的な大学とは特には変わらず言語が英語であるということくらいだった。
- ・見学に行った企業がなぜタイに根付いたのか、その理由を知ることができた。そして、各企業の努力や強みも知ることができた。
- ・大学生との交流やショッピングのときに自分から話しかけて、会話をしたり、プレゼントをすることができたから少ない期間だったが知ることはたくさんあった。

#### 質問 14 海外研修での経験を今後どのように活かしていきたいですか。

- ・この経験を元に異文化理解やコミュニケーション能力を生かして、将来外国人技術者とも協力しながら仕事をしたい。また海外の技術や考え方を取り入れて日本のものづくりに貢献したい。
- ・この研修で養った自分で考え行動し、色々なことに挑戦するという姿勢をこれからの学校生活や社会に出たときに活かして行きたいと思った。
- ・積極性、価値観、日本と他国の考え方、自分の基準。
- ・今後は土木科のことだけではなく、情報や機械との関係性を考慮したり、より便利に出来るかなど考えていきたい。

- ・日本国内から違いをたくさん見つけて、自分なりに考えるようにしたい。今回学んだ異文化の理解や相手の考え方や価値観を尊重することを将来に活かしていきたい。また、英語の学習に力を入れ、自信を持って海外の方と話せるようになりたい。
- ・日本とタイとの文化の違い、建築の違い、気候の違いを理解してそれぞれ良いところや悪いところがあって、それを色々な国が理解しあって補合えるようになったら良いと思った。それに、自分から率先して動くことが大切とわかった。相手を待つのではなく自分から動くことによって後悔が減り、成長できるとわかった。
- ・後輩達にこの知識を繋いであげるのももちろんそうだし、自分の学校のこの先の発展のために、学校に私がこの研修で感じたこと、学んだこと、得たことを残していけたらいいなと考えている。
- ・海外で働いてみたいという気持ちが強くなり、自分の興味があったロボット産業にさらに関わりたいと思えるような研修だった。この海外研修を外国人など関係なく積極的にコミュニケーションをとることや自分の進学する大学で自分の興味のあることに挑戦する場面で活かしていきたい。
- ・日本に帰って、またタイとの文化や価値観を照らし合わせてみて、自分の考え方をグローバルな考え方にし、色々なことに挑戦していきたい。
- ・僕は日本だけでなく海外のことを知って視野の広い建築家になりたいので、考え方の違いや、その地ならではのサービスを知ることができ、大手企業や泰日工業大学の技術力の高さを知ることができたので、就職や進学の幅が広がったので、これまでの考え方を一新したい。
- ・今回の海外研修で学んだことを、これからの学校生活や将来の進路に活かしていきたい。特に、企業見学で学んだロボット技術や自動化については、電気科で学んでいる知識と結び付けながら理解を深めたいと思った。また、海外の人と交流した経験を通して、積極的にコミュニケーションを取ることの大切さを実感したので、今後も自分から行動することを意識していきたい。今回学んだ異文化への理解も大切にしながら、将来の進路選択に役立てていきたいと思う。
- ・今後の進路は自分にとって最善なのか考え直す。
- ・今回が初めての海外であり、日本から出て日本を見てみると、タイだと日本車が多く見られ、至る所に日本企業のロゴを見ることができ、日本はタイでとても信頼されている国だと感じた。だから、これからも日本という大きな国として僕はその産業を支えていきたい。
- ・将来はインフラ関係の技術者になりたいと考えているのでこの研修の経験を活かせると思う。
- ・今回の海外研修で自分が「当たり前」だと思っていた日本の常識が通用しない環境を肌で感じたことで、物事を多角的に捉える視点が養われた。今後は多様な背景を持つ人々と協働する際、相手の文化や価値観をまずは尊重し、柔軟にコミュニケーションを図る姿勢を大切にしていきたいと思う。
- ・自分の進路に大いに生かしていきたい。
- ・自分の進路や、私生活の中で、自分の意思を確立し、発言したいと思う。
- ・タイに行き改めて自分の英語の出来なさにびっくりした。それでもできないなりに知っている単語を言ってみたりジェスチャーしてみたり、絶対に翻訳を使わずに自分の力でやりとても楽しかった。でもやっぱり話せたらもっとコミュニケーションがとれると思うので英語の会話ができるようになりたいと思う。
- ・「積極的に」と「自分から動く」という考え方を大切にしていきたいと考えた。今回の研修ではもっと知りたいと思う時は質問をしたりする必要があった。何もしなければ無駄な時間を過ごすだけになるので自分から動かなければいけなかった。今までそういうのは苦手だったが、今後は自分から動くようにしたい。そうすればかなり生活は変わるだろう。
- ・研修で培った積極性や表現力を活かして、自分の進路の視野を広めてこれからの成長に繋げていく

い。

- ・どんなことにもひるまず挑戦しようと思う気持ちを忘れず、この経験でついた自信を今後海外で生活することになった時に思い出す。
- ・英検取得。

### 質問 15 意見・感想を書いてください。

- ・海外研修に参加して良かったと思う。タイに初めて行って自分が今まで見たことない機械や建物、文化や考え方を間近に感じることができて自分の知識の幅を広めることができた。
- ・お金は2万円を持っていったが、最後にお土産をいっぱい買って足りなくなったので2万5千円から3万円ほど持っていったら丁度良いかなと思いました。この研修ではタイの文化を知ることはもちろんですが、何より人との交流が思い出に残る研修でした。あらためて人との関わりの大切さを学ぶ良い機会となり、本当に行って良かったなと思いました。
- ・最初は仲良くなれるかわからなかったが、研修を通して仲良くなれた。タイの生活に少しずつ学べた。
- ・タイ研修は文化の違いも知ることができて楽しかったし、企業訪問も新しい視点を作ることに役立ったが、学ぶ事が同じ分野に偏っていたから、もっと偏りが無い方が良いと思う。
- ・今回の研修で最初は不安なことが多かったが、実際行ってみるとそんなことを忘れてたくさんの研修ができました。研修ではタイの文化や工業技術に触れることができてとても良かったです。そして海外から見る日本という視点でも多くのことを学ぶことができました。

私は元々ロボットにあまり興味がなかったが、企業訪問でたくさん話を聞き、ロボットを見学、体験させていただくことでとても興味を持つことができました。これからの工業技術についてたくさん調べ、考えていきたいと思います。全国から集まった仲間たちと一緒に過ごせたことが最高の思い出です。地元のことについて話せたり、工業トークができたり、楽しい時間を過ごすことができました。約1週間という長いようで短い時間でしたがとても濃い関係性ができたと思っています。

最後になりましたが、海外研修を企画してくださった全国工業高等学校長協会の皆様、私を送り出してくれた家族や先生、何よりこんな楽しい研修にしてくれた全国の仲間たちに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

- ・最初は長いと思っていた一週間。終わってみるとあっという間で、まだタイにいたいと思うし、みんなと別れたくないととても感じた。全国各地の人と友達になれるなんて滅多にない事でとても嬉しかったし、みんなの県のことも知ることができて、タイのことを知ることもいいけれど、まずは日本のことを知りたいと思った。タイのご飯も普段だったら好き嫌いするようなものが多かったが、挑戦で食べた。すごく美味しくて、刺激的だった。今回の研修でとても成長できたと思う。コミュニケーション力、周囲を見る観察力、進んで動ける行動力、など一週間前と確かに自立できるようになった。こんなにも良い経験を、させてくれた今回関わってくれた皆さんに感謝してこの経験を糧にこれからも、頑張っていきたい！また行きたいし、今回出会ったみんなとまた会えるように頑張りたい。将来みんなと仕事で会えて共に働けるようにと目標を持って進路活動も頑張りたい！本当にありがとうございました。
- ・今回の研修には参加したい気持ちもあり、参加したくない気持ちもあったため、行って仲良くなれなかったらどうしよう、馴染めなかったらどうしよう、と不安もあったが、行ったらみんなやはり同じ気持ちだったのもあって、すぐには言わなくても徐々に打ち解けて楽しい1週間を過ごすことができたと思います。

私の目標は自ら積極的に交流するですが、それもしっかり達成できたし、自分だけの見解で終わらせずに、みんなの意見を聞いて、こういう意見もあるのだな、と新しい学びに繋がられたのがかなり大きいなと感じます。でもやっぱり仲良くなってしまうが故に、みんなとお別れがすごく悲しいです。でも今回の研修に参加しなかったらみんなとも出会えてないし、こんなにも多くの学び、出会いはできなかったと思います。だから私は本研修に参加してとてもよかったです。全ての出会いに感謝したいです。

このような貴重な機会を、チャンスを頂けたこと、とても光栄に思います。この先この研修に参加する後輩達にも同じ思い、学びをしてもらえることを心より願っています。1 週間の長いようで短い間、とてもお世話になりました。ありがとうございました。

- ・タイという衣食住の文化が違う中で過ごしていくうえでの仲間との協力が、私の多角的視野や積極的に行動するという目標をさらに伸ばしてくれたと思います。全国から集まった 22 名の工業高校生が初めて会いそこから研修が始まりました。いつも喋り慣れた友達ではありません。だからこそ外国人との交流だけでなく、研修生との交流も私は大切にすることで積極的に行動し慣れない環境でも適応できたと思っています。タイの文化はいつも慣れている日本とは少しハードに感じたが、そのストレスがとても成長させてくれたのかなと思います。日系企業の訪問では私は海外拠点は何をしているか、も聞いていて勉強になりましたが私は特に海外を相手にしている駐在員の方、社長様の物事の考え方がとても自分の価値観というものを教えてくれました。私は進学でこれから先のアドバイスもしていただき、そのような意味でも企業訪問して良かったと感じました。最後に研修で生活を共にした仲間ができたことに私は研修に応募して本当に良かったと感じました。このたった 8 日間で私は様々な刺激を貰いながら成長できた研修だと思いました。ここで出会った研修生やタイでの経験が私の一生の財産となりました。またこれから先の原動力になりました。タイ研修は大変でもありましたがとても楽しく成長できた研修でした。本当にありがとうございました。
- ・今回、第 26 回 高校生海外研修に参加させていただき、ありがとうございました。ガイドの方や引率の先生方はとても接しやすく、タイの文化や価値観にとても触れやすくいろいろなことを学ぶことができました。この研修は必ず後輩にもお勧めして色々な人にお土産の報告をさせていただきます。この経験は必ず将来自分の財産になるので、ここで学べたことを存分に活用し、力にします。また機会があれば、是非よろしく願いしたいです。
- ・本当にたくさんのタイのことを知ることができて違う県の価値観も知ることができたので学ぶことがもっと楽しくなりました！まだまだ足りないと思ったのもっと長くして欲しかったです。本研修で関わったみなさんに感謝します。ありがとうございました。
- ・今回の海外研修では、日本では経験できないことをたくさん体験することができ、とても充実した研修になりました。企業見学ではタイの工場で活躍するロボットや最新の技術について学び、ものづくりのすごさを実感しました。また、泰日工業大学では現地の学生と交流し、日本との学校生活や文化の違いを知ることができました。バンコクやアユタヤの文化遺跡、博物館、水上マーケットの見学では、タイの歴史や文化を実際に見て学ぶことができ、とても良い経験になりました。特に、日本ではあまり経験しない急なスクールにはとても驚き、気候の違いも実感しました。今回の研修を通して視野が広がり、多くのことを学ぶことができたので、この経験を今後の学校生活や将来に活かしていきたいです。
- ・もちろんタイ現地の人との交流も楽しかったけれど、それより全国から集まった仲間と交流できたことが何よりも楽しかったです。このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- ・このような活動をどんどん広め、産業を託せる人を沢山作っていくといいと思います。

- ・8 日間は長いようで短かったです。期間もちょうど良かったです。しかし、アユタヤなどに行く都合上、朝が早くなってしまうのは仕方ないと思いますが、それなら、1 日や半日程度現地でも滞在時間の伸ばした方が、朝の準備の時間が増えるので良いと思います。  
最後になるが、今回の研修で、全国の学生と交流する事が出来たのでこの事業は今後も続けた方が良いでしょう
- ・黄色い産業用ロボットが稼働する自動化の最前線に圧倒され、現地に根ざした「生涯保守」の精神から、日本のものづくりの世界的な信頼性を学びました。自動車産業などを支える高度なモーションコントロール技術を体感し、現地のスマートファクトリー化を現場密着で牽引するグローバルビジネスの真髓を実感しました。高い語学力と主体性を持つタイの学生たちと交流し、東南アジアの圧倒的な熱量を肌で感じたことで、自分自身のグローバルな学びに対する強いモチベーションへと繋がりました。
- ・今回の研修で、自分は大いに成長できたと思います。目標も達成でき、今後の進路に生かせたいと考えました。
- ・今回の海外研修は自分にとっては何もかもが初めてで慣れるまでは緊張していましたが、日が経つに連れ体がその環境に慣れていくことに気づき、自分にとってはとても速い 1 週間でした。今回の海外研修は今の自分や将来の自分の糧になると感じました。海外研修という貴重な機会を作ってくださってありがとうございました。
- ・全く知らない人同士が集まり 1 週間過ごしてくださいという環境で最初はとても不安でしたがみんなとても優しく楽しく過ごせました。今回は私の学校の校長先生と担当の先生が引率でとても心強かったです。値切る体験を沢山して海外ならではの体験ができて良かったです。最終日の朝ごはん対決勝てて嬉しかったです。貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。
- ・全体的にバランスの取れた良いプログラムだと思った。産業、歴史、文化などいろんな面でタイについて知る機会がたくさんあっておもしろかった。同じ研修メンバーからも良い刺激（生活態度、学習目標など）をたくさん受けることもでき自分も前向きに今後の生活に臨むことができそう。
- ・今回の研修は見学や体験をしたところ全てが自分の成長に繋がる場所ですごく有意義な時間を過ごすことができました。1 週間、私たちの研修を支えてくださった先生や、送り出してくれた両親に感謝して、自分の成長に繋がられるように頑張ります。
- ・この 8 日間の研修で目標を達成することとそれ以上のものが身についたような気がします。本気で自分が自分や他の参加者と向き合い海外研修に参加したからだとは思いました。また、タイのお寺などを見学し日本との違いを肌で感じました。改めて日本でお寺をみて何が違うのかをしっかりと考えます。
- ・企業訪問で見学、体験させていただいた最先端のロボットなどもこれからどういうふうな進化を続けていくのか予測して将来、実際に働く時に活用させていただきたいです。水上マーケット、メークローン線路市場やその他に見て訪れたところ全てが私の宝物です。この経験は一生忘れないものとなりました。本当にありがとうございました。
- ・予算は 2 万から 3 万。靴は 2 足。機械電気はおすすめ。私服多め。運動服必要。トイレの文化を知る。全力で楽しむことができた！！良い研修すぎました。親と家族と引率の先生と添乗員さんとガイドさんに感激。

## VIII 結びに

第 26 回海外研修は、9 地区の代表生徒 22 名（男子 14 名、女子 8 名）と、須田孝之団長（神奈川県立磯子工業高等学校長）を含む引率者 3 名で実施しました。参加者をはじめ、ご支援いただいた保護者、学校関係者、企業の皆様に心より感謝を申し上げます。

本協会の海外研修は、第 1～10 回がオーストラリア方面で、第 11～15 回がカナダ・アメリカ方面で、第 16～19 回がベトナム方面で実施されました。その後、第 20～22 回までは、東京オリンピック開催やコロナ禍の影響等を受け中止となり、実施することができませんでした。しかし、国際化事業推進委員会で検討を続け、訪問先をタイ王国に変更し、令和 5 年度に 4 年ぶりに研修を再開し、以降、タイ王国での海外研修は今年度で 4 回目を迎えました。

この研修は、夏期休業に入って間もない 7 月下旬に、工業系高校から選ばれた生徒達が全国から一堂に集まり、実施されます。参加生徒たちは、結団式で初めて顔を合わせる仲間のことや、海外での研修への期待と緊張が入り交じり、精神的な負担も少なからずあったことと思います。結団式では、言葉少なめな生徒たちでしたが、すぐにうちとけ前向きに研修に臨みました。羽田のプログラムや学校で学ぶ技術の重要性を示していただいた視察研修、訪問先企業での日本の技術による最先端の産業ロボットの製作過程の見学、人では難しい部分をロボットが担う人協働技術の学び、泰日工業大学での英語による授業参加や現地学生との交流をととした英語の重要性や大切さへの気づき、バンコク市内やアユタヤでの歴史ある文化遺産見学、古くから日本との係わりのある歴史を直接学べたこと等、たいへん充実した内容の研修を行いました。就職や大学進学等、将来の選択肢が広がり、自分たちの研修目標を達成することができ、さらに同じ工業系高校生との友情を育むことができたようです。タイ王国は親日国として知られ、多くの日本企業が進出し、工業高校を卒業した先輩たちも活躍しています。経済発展を遂げているタイ王国の訪問が実現したことで、日本の技術の素晴らしさを再認識し、各自が技術者の卵として勉強していることを実感できたことでしょう。

今世界では、異常気象や不安定な国際政治情勢、各地での紛争等、課題が山積みです。情報をリアルタイムに知ることができるグローバルな時代には、海外で活躍できる人材が求められています。

今後の海外研修は、国際化事業推進委員会を中心に皆様からのご意見をいただきながら、より充実した研修にしたいと考えております。

海外研修に参加した生徒の皆さんにとって、高校生活の中でも忘れられない貴重な体験だったことと思います。今回の経験が一人ひとりのこれからの人生に役立つことを期待し、参加された皆さんの今後の活躍を心から祈念いたします。

結びに、この研修を実施するにあたり、ご尽力をいただきました関係者の皆様に心から厚く感謝を申し上げます。  
(なお、この報告書は、本協会のホームページにも掲載いたします)

### 国際化事業推進委員会委員

委員長 須田 孝之（神奈川県立磯子工業高等学校長）  
委員 岩井 幸一（埼玉県立大宮科学技術高等学校長）  
委員 塩崎 智之（東京都立足立工科高等学校長）  
委員 小林 正明（千葉県立清水高等学校長）  
委員 坂口 雄一（東京都立科学技術高等学校長）

### 全工協会事務局

湯澤 修一（事務局長）  
江口 敏彦（事務局次長）  
草刈 廣直（事務局次長）  
楚山 真理（事務局主事）

引率 須田 孝之、鈕持 幸来（神奈川県立磯子工業高等学校）、湯澤 修一（全工協会）